V　遺物包含層

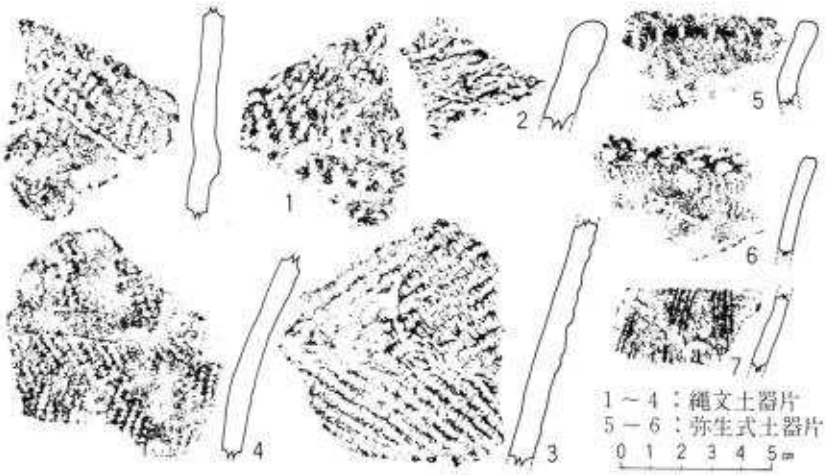
当調査地の各平場・遺構での土層断面図では所々に於いて、自然堆積層が欠けたり又盛土にて覆い隠されたりしている。自然埋没による遺物の包含や、人為的壊変による遺物の移動・包含を当調査地は経ているが、それらを一括して扱う。個々の遺構及び伴出遺物の時期時代関係については識別考察を加えたが、それらと包含層遺物の関係の明確化は今後の課題とする。

〔出土遺物〕　石器、縄文式土器、弥生式土器、土師器、須恵器、陶器（中世・近世）、磁器鉄製品（古代・近世等）、古銭等が出土したがそれぞれ遺物毎に以下に示す。

(1) 縄文式土器及び弥生式土器（24・25表、35図）　調査記録にて縄文早期及び中期（大木7a）出土となっている。早期末・前期初頭と思われる遺物は35図1等である。弥生式土器片は縄文式土器片と同じく破片のみである。出土分布については42図にて示す。

第24表	図番号	写真番号	出土位置	胎土	色調	焼成	遺存部 (cm)	備考〔成形・調整・形態・含有物等・(cm)推定値〕
縄文式土器 1	35－2	12-42	第一平場北縁	普	7.5YR⅝純橙	普	口縁片 4×5	R－L・山形突起引き出し・繊維含む
2	〃－3	〃-43	第一平場北縁	普	5YR⅝鈍赤褐	普	体　部5×5	R－L・L－R・羽状・長細節・石英・繊維含む
3	〃－1	〃-44	Bd48	普	5YR⅝鈍橙	普	体　部4×5	R－L・隆帯内面も圧痕摩耗・繊維含む
4	〃－4	〃-45	第一平場北縁	普	7.5YR⅝鈍褐	普	体小片	R－L・横位回転・重なりで羽状・スス付着
弥生式土器 1	〃－5	〃-46	Be42-39	普	10YR⅝浅黄橙	不良	口縁片 5×3	R－L口縁部圧痕・竹管様工具横圧
2	〃－6	〃-47	Bh48（表土）	普	10YR⅝鈍黄褐	普	〃　7×3	綾絡様文（頸部に沿って）下部磨き・山形突起
3	〃－7	〃-48	〃　〃	普	10YR⅝灰黄褐	普	体　部3×5	R－L細い撚糸文・内面磨き入念

第25表　出土破片数　B区縄文式土器（但し別表分除く）										同C区同	計	同弥生式同
a36	a b 33	c d51-45	d 48	h 24	h21	h 1 36-33	j 63	第一平場表採	第一北縁表採	b 24-21		Bh 54-48
2片	2片	1片	9片	4片	2片	1片	2片	15片	8片	1片	47	8片

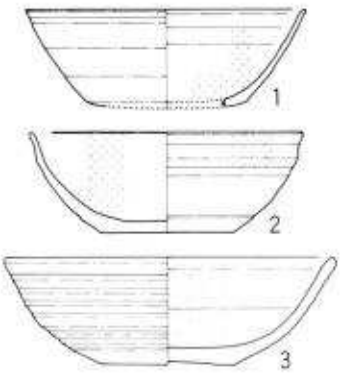


第35図　拓影

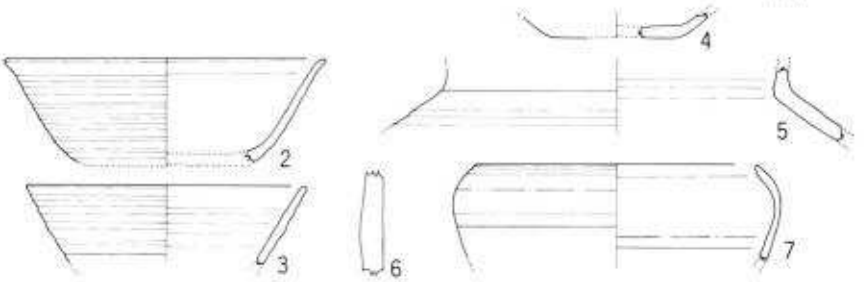
(2) 土師器・須恵器（36・37図・写真10図及び11図、26～27表）

遺構以外の出土遺物としても破片が多いが、第26表に示されたように完形に近いものもある。この内で36図5 Cd33 焼土部のものは第1竪穴住居跡（Cc33）関連遺物に類似のものである。36図2はCa21竪穴状遺構遺物と関連ある。これら土師器の坏は大半が回転糸切無調整底である。須恵器の主なものは第27表に示した。これ以外の破片数も多くない。37図2は溝埋土の破片ではあるが別位置の破片と接合しCe24表土中の底（同図4）と類似で、同一個体の可能性が強い。同図7は鉢形で焼成が悪い為か軟質である。同図6は本調査関連前沢町泊ケ崎遺物の表面・胎土の状況に類似である。出土分布の総体は、第一平場北縁及び東南端に集中する傾向を示す。（42図）

第26表	図番号	写真番号	出土位置	口径cm	底径cm	器高cm	胎土 色調 等	備考「成形・調整・形態等・(cm)は推定値」
土 坏	36－1	10 － 1	Cab21	(12.8)	(7.2)	4.5	普 7.5YR 7/4橙	内黒・ロクロ切離不明・凹凸なし・石綿模含有物
〃	36－2	10 － 2	Cbc27-24	12.5	5.4	4.6	〃 7.5YR 8/4浅黄橙	内黒・回転糸切無調・胴部横段・石綿様含有物
師 〃	36－3	10 － 3	Cb36	15.2	5.8	4.7	〃 10YR 8/2灰白	内黒・回転糸切無調・外面凹凸あり・黒斑あり
〃	36－4	10 － 4	Cd33	13.7	5.6	4.9	〃 7.5YR 8/4浅黄橙	内黒・回転糸切無調・外面幾分凹凸・内面接線
器 甕	36－5	10 － 5	Cd33 焼土部		6.9		粗 5YR 7/4橙	回転糸切・表面磨耗



第36図（S≒1/3）



第37図（S≒1/3）

遺物包含層　出土遺物（土師器須恵器）

第27表		図番号	写真番号	出土位置	胎土	色調	焼成	遺存部 cm	備考〔成形・調整・形態・含有物等・(cm)推定値〕
土師	甕	37－1	11-14	Ca21（表土）	粗	5YR⅖灰褐	普	口縁片11×7	黒色処理(内面)・刷目(同)・口唇横ナデ
須恵器	坏	37－2	11-15	Bh27溝盛土	普	2.5Y⅚黄灰	〃	口縁片	外反・ロクロ成形・Bi30溝の皿a片と接合
	〃	37－3	11-16	Cd33焼土4	普	5Y⅘灰	普	口縁片4×5	(口径11cm)直口・ロクロ成形
	〃	37－4	11-17	Ce24（表）	粗	2.5Y⅚灰黄	普	底部	回転糸切無調
	甕	37－5	11-18	Bj24	粗	5YR⅓黒	良	頸部10×5	ロクロ痕・断面2.5YR⅚鈍橙・Cbe24·21片と接合
	甕	37－6	11-19	Ce21（表）	良	10YR⅚灰黄褐	良	底部4×5	(底径10cm)外面下部に2本の筋
	鉢	37－7	11-20	Ced27-24	粗	2.5Y⅚灰黄	粗	口縁片	内彎・ロクロ成形

遺物包含層　出土地点別土師器、須恵器の器種内容

第27′表 出土地点		(内黒)《両黒》「非黒」土師器 坏 口縁部	坏 体部	坏 底部	甕 口縁·体·底	須恵器 坏 口縁·体·底	須恵器 甕 口縁·体·底	合計
B	a12				1		1	2
	ab9		「2」					2
	c51·48		「2」		2			4
	c24·21		「2」		1			3
	cd42·39		「1」	「1」	2			4
	d27		「1」			1		2
	e24				1			1
	e24·21	(2)				1·1	2	6
	h54	(1)	(5)「1」	(6)				13
	h24			(2)				2
	h21		(5)「1」	(2)				8
	hi33			(1)「1」			1	3
	hi30		(1)	(4)			1	6
	hi27·24		「1」	(1)				2
	i42·39			(1)			2	3
	i30		(1)	(1)「2」				4
	j48·45		《6》					6
	j27				2			2
BjCa30·27		「1」	「6」		2·3			12
BjCa24·21				「1」				1
C	a30	(2)	(1)「2」					5
	a27		(5)					5
	a27·24				3			3
	a21	「1」	(2)「3」	「1」	6			13
小計		(5)「2」	(18)《6》「22」	(18)「5」	3·30	1·1·1	7	112

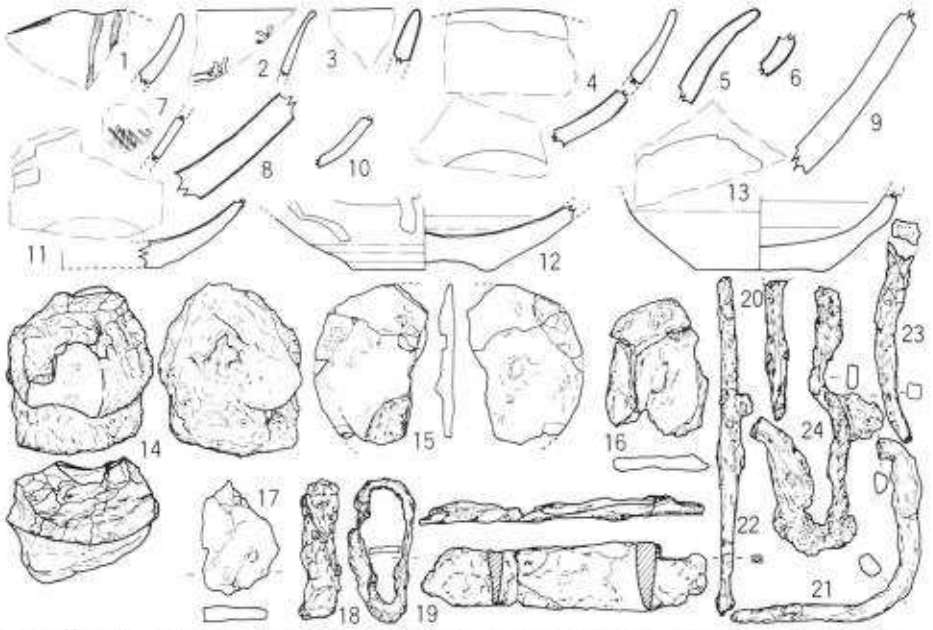
出土地点		(内黒)《両黒》「非黒」土師器 坏 口縁部	坏 体部	坏 底部	甕 口縁·体·底	須恵器 坏 口縁·体·底	須恵器 甕 口縁·体·底	合計
C	a21·18	(16)「1」	「5」	(2)	1·3			29
	b27·24		(6)		1·6			13
	b24		「3」	(1)	1·16			21
	b24·21		「5」					5
	b21	(13)	「1」	(2)		6·1	1	21
	b15			(1)				1
	bc27·24	「7」	「3」					10
	bc24·21	(2)	(1)「33」		1·1	5		43
	c27		「2」					2
	c18				1·2			3
	cd33·30	《3》	(13)「18」	《5》		1·1		43
	cd21			(1)	1			2
	d36p1	「7」	「10」					17
	d36·33	(1)	(4)「14」		2			21
	d33			「1」				1
	d27		(3)「1」		1			5
	d24		(9)「3」		9			21
	d18		(5)「2」			1		8
	def24·21	(7)						7
	de24·21	(21)「4」	(8)「2」		2·11			48
	e24		「1」					1
	e24·21			「1」	2·1			4
	e21		(5)「2」		10		1	18
	ef24				8			8
小計		(57)《3》「19」	(56)「106」	(7)《5》「2」	10·70	10·21·1	·1·1	352
合計		《3》 (62)「21」	《6》 (69)「128」	《5》 (19)「7」	13·90	11·22·2	8·1	464

注1．数字は破片数である。
2．接合したもの・同一地点で同一個体とみなせるもの1点

(3) 陶磁器、鉄製品（38図・写真11図・28表）・（24図）

陶磁器類の出土は少く、館などの遺構に伴うものはない。38図13は中世陶器片、同図11・12は古瀬戸片、同図10は白磁片とそれぞれ推定される。出土は、第一平場4片、第二平場7片、第三平場1片、第五平場溝埋土2片となる。鉄製品としては、同図18の刀子が第一平場造成盛土に出土した。同図17は鞘の止金具様で第一平場表採、同14～16の紡錘車はそれぞれ、Ca21・18、Cb39、表採となる。同19～23は角釘等で第一平場4片、第五平場1片であるが同23はCd33焼土下の出土である。同13は鉄滓が付着しているフイゴ口である。内径3.2㎝、外径7.4㎝、残存長3.1㎝である。尚24図の煙管雁首は第五平場Aij12の攪乱層より、古銭は第一平場より熙寧通宝が、第二平場より寛永通宝10（古寛永9、新寛永1）がそれぞれ出土している。

第28表		図番号	写真番号	出土位置	特徴
	鉢	38-1	11-1	溝(Aj09)埋土	内彎・片口機対称2直口部・内外 7.5Y5/1灰色・灰釉の一部に鉄釉-2.5Y2/1黒褐色
陶	〃	38-3	11-3	第一平場(表土)	直口機分厚手(釉厚0.6㎝) 気泡機斑点・内外10BG5/1青灰色・胎土2.5Y5/1灰白色
	〃	38-4	11-4	第二平場	内彎気味・口唇部薄手・外面灰釉 5Y5/1灰白・内面緑釉 (口径12.7㎝) 巻Bh50 基盤上
	〃	38-5	11-5	Bj Ca27-30(第1)	外反強い・内外面自然釉様 5Y5/1淺黄色に近い緑色・胎土7.5Y5/1灰白色
	碗	38-11	11-11	溝(Aj36)埋土下	ロクロ成・内面及び外面口縁部灰釉・外面下部及び胎土7.5YR5/1鈍橙・内面5Y5/1灰白
	〃	38-6	11-6	Bg12 土壙墓(埋)	体下部内折部・内外灰釉7.5Y5/1淺黄色・胎土2.5Y5/1淡黄色
器	鉢	38-8	11-9	第二平場	内面段・内外釉(釉が基礎 外面乳白色部分的に)釉厚0.6㎜ 5YR5/1極暗赤褐色
	壺	38-9	11-8	第二平場	下体部・内面横ナデ・外面横ヘラナデ回凸・外面灰釉 2.5Y5/1淺黄色・胎土内面10YR5/1灰白色
磁	1	38-2	11-2	Ca12 旭山直上	白色に青色絵
	2	38-7	11-7	第一平場(表採)	白色に青色染着
器	3	38-10	11-10	Bj Ca27-30(第1)	底部点々・内外面5Y5/1灰白色(5Y5/1淺黄の小斑点内面に多い) 白磁？
陶	壺	38-12	11-12	Bd36(第三平場)	調整糸底(4.4㎝)・内面灰釉 7.5YR5/1灰白色(乳白色に近い)・外胎土2.5YR5/4橙色釉垂
器	鉢	38-13	11-13	第二平場(表土)	底部(径4㎝)・体上部直立？・内外面10YR5/1黒色自然釉まだら・中世陶器

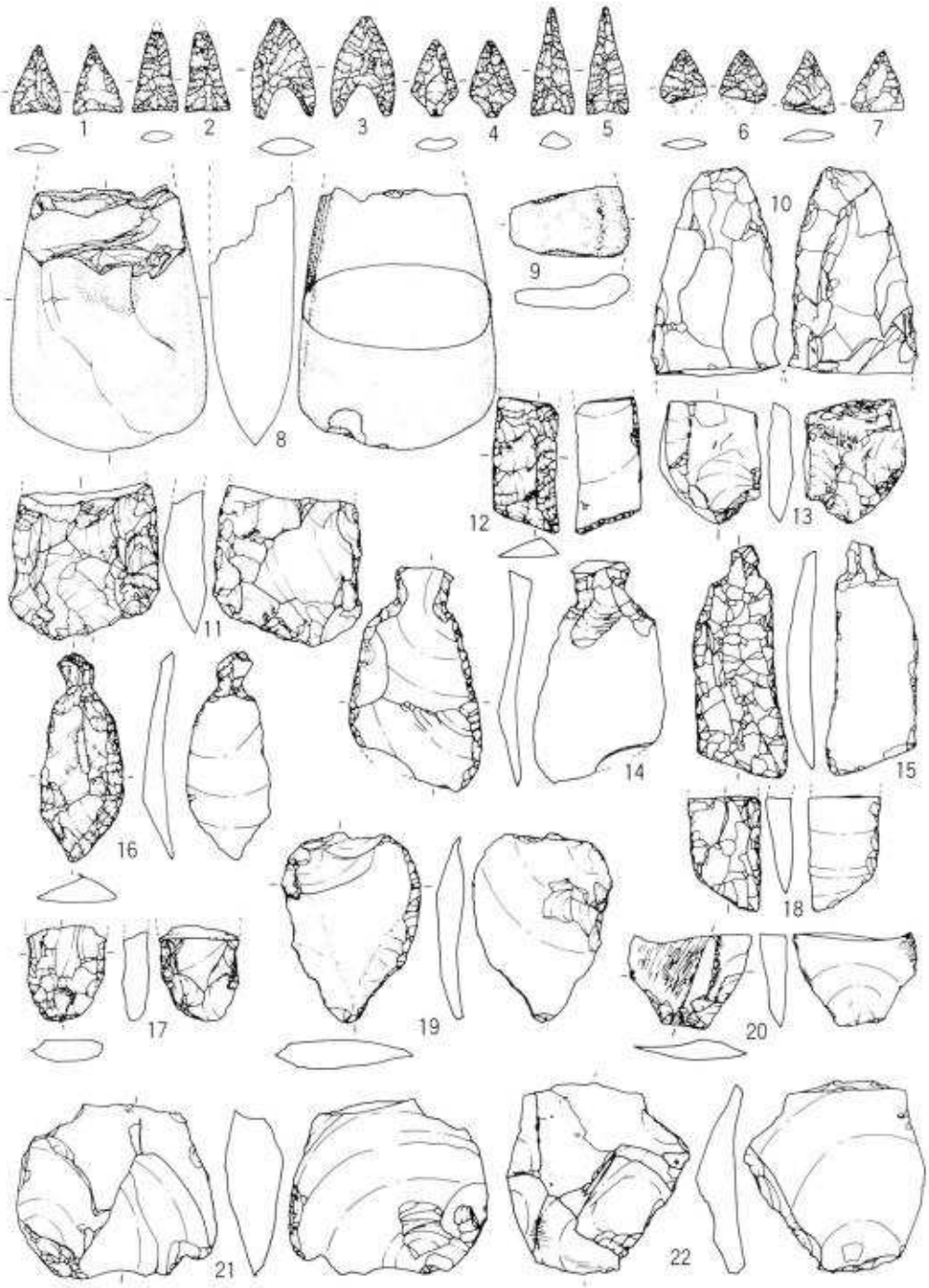


1～13：陶磁器　14：フイゴ口　15～17：紡錘車　18：鞘の足金具　19：刀子　20～23：釘　24：鉄製品　（S＝1/2）

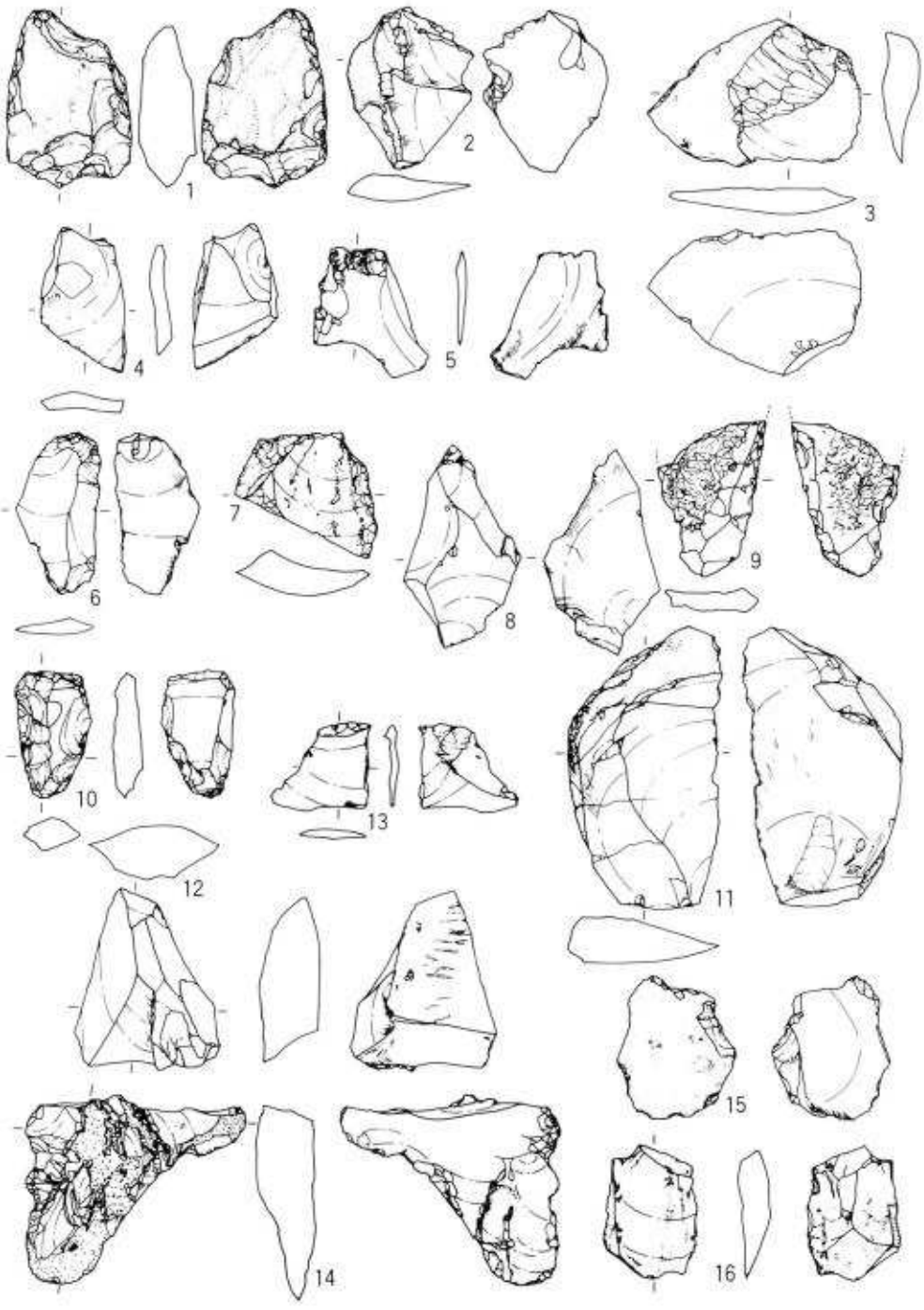
第38図

(4) 石器（第39～41図・29表・写真12図）　磨製石斧1・石箆2・石匙7・石鏃7・石皿1・不定形石器49・剥片等百数十片である。石材については珪質泥岩が半数以上で硬質泥岩がそれに次ぐ。39図8の石斧は丁寧に磨かれている。石箆は加工が荒く欠損品である。同図3の石鏃は基部彎入が特徴的である。石匙の剥離面は凹面である。同図9は小型石皿破片である。不定形石器には使用痕ある剥片も含めてある。出土位置は斜面で特に第一平場南東部に多い。

第29表		図番号	写真番号	出土地区	長さcm	巾cm	厚さcm	重さg	材質	備考
磨製石斧		39-8	12-8	第二平場（表）	7.83	5.87	2.55	183.8	珪質泥岩	磨面平滑
石箆	1	〃-10	12-10	Ce15	6.07	3.84	1.39	24.9	硬質泥岩	粗、長端、欠
	2	〃-11	12-11	Cd27	4.51	4.42	1.37	28.9	珪質泥岩	粗、短辺端欠
石匙	1	〃-12	12-12	Bh133	3.82	1.93	0.70	5.7	珪質泥岩	左型、稜残る
	2	〃-13	12-13	Bk23	3.58	3.00	1.70	10.6	〃	先端使用
	3	〃-14	12-14	Cb54（表）	6.47	4.08	0.66	15.4	硬質泥岩	左型、先端欠
	4	〃-15	12-15	Cb24（表）	6.91	2.58	0.77	13.8	〃	右型、稜あり
	5	〃-16	12-16	Cb21	6.17	2.50	0.78	9.4	珪質泥岩	右型、一稜残
	6	〃-17	12-17	Cb35（表）	2.79	2.48	0.77	6.1	泥質珪質岩	右型、両面丸味
	7	〃-18	12-18	Ce24-21	3.36	2.15	0.70	5.8	珪質泥岩	左型、下側加工
石鏃	1	〃-1	12-1	Ba21	2.05	1.47	0.27	0.7	硬質泥岩	無茎
	2	〃-2	12-2	Bc38	2.45	1.36	0.27	0.7	珪質泥岩	無茎、先端欠
	3	〃-3	12-3	Bi30	2.94	1.88	0.49	1.9	〃	無茎、彎曲入
	4	〃-4	12-4	Cb36（表）	2.26	1.37	0.38	0.9	玉髄	有茎、基部欠
	5	〃-5	12-5	Ce21	3.16	1.25	0.46	1.4	珪質泥岩	無茎、長細、稜
	6	〃-6	12-6	ー	1.59	1.40	0.32	0.55	珪質岩	有茎？残部三角形
	7	〃-7	12-7	ー	1.80	1.54	0.38	0.8	珪質泥岩	無茎？ 基部欠
石皿		〃-9	12-9	Bh54（表）	3.58	2.09	0.86	7.3	石英斑岩	断面剥離
不定形石器	1	〃-19	12-19	Ba33	5.58	4.08	1.00	32.2	珪質泥岩	自然面残
	2	〃-20	12-20	Brd51-45（表）	2.77	3.87	0.75	5.7	〃	剥片
	3	ー	ー	Brd51-45（表）	2.30	1.87	0.84	3.7	〃	剥片凸部使用
	4	ー	ー	Brd51-45（表）	2.08	3.09	0.75	3.1	硬質泥岩	剥片
	5	ー	ー	Brd51-45（表）	1.35	2.62	0.43	0.9	〃	〃
	6	ー	ー	Brd51-45（表）	1.39	1.80	0.33	0.6	珪質泥岩	剥片全周使用
	7	ー	ー	Brd51-45（表）	2.45	1.98	0.88	1.3	硬質泥岩	剥片
	8	39-22	12-22	Brd42-39	5.70	5.41	1.21	32.4	〃	〃
	9	〃-21	12-21	Brd42-39（表）	5.19	6.00	1.63	45.9	ホルンフェルス	大振りの剥片
	10	40-1	12-23	Brd42-39（表）	5.22	3.68	1.76	37.3	珪質泥岩	基部刃つぶし
	11	40-2	12-24	Brd42-39	4.71	3.83	0.75	9.9	硬質泥岩	剥片
	12	40-3	12-25	Brd42-39（表）	4.27	6.22	0.96	17.6	〃	四周使用
	13	ー	ー	Brd42-39	2.14	3.93	0.92	3.8	珪質泥岩	敲打、使用痕
	14	ー	ー	Brd42-39	1.64	3.00	0.30	1.7	〃	長側縁加工
	15		ー	Brd42-39（表）	1.75	2.43	0.41	1.1	硬質泥岩	剥片
	16	ー	ー	Brd42-39	1.08	1.68	0.35	0.5	珪質泥岩	先端部使用
	17	40-5	12-27	Bh54（表）	4.10	3.45	0.40	3.2	〃	凹部側使用
	18	40-4	12-26	Bh54（表）	4.43	4.48	0.45	6.1	硬質泥岩	1側縁使用
	19	ー	ー	Bh54（表）	2.57	3.46	0.96	9.4	緑色砂質泥岩	剥片
	20	ー	12-28	Bh42（表）	7.75	3.46	0.86	19.1	硬質泥岩	刃先端使用
	21	ー	ー	Bh27（撹乱土）	3.40	3.26	0.67	6.4	珪質岩	隅状部使用
	22	ー	ー	Bh27（撹乱土）	1.24	1.93	0.61	0.8	黒曜石	使用痕剥片
	23	40-6	12-29	Bj48-45（表）	4.73	2.42	0.48	5.2	珪質泥岩	先端調整
	24	40-9	12-32	Bj48-45（表）	4.50	3.15	0.73	9.2	硬質泥岩	長側縁調整
	25	40-7	12-30	Bj48-45（表）	3.65	4.24	1.14	13.8	砂質珪質泥岩	1次調整
	26	40-8	12-31	Bj48-45（表）	5.96	3.47	0.81	11.1	硬質泥岩	自然面残
	27	ー	ー	Bj48-45（表）	1.47	1.09	0.24	0.4	〃	凹部使用
	28	ー	ー	Bj48-45（表）	1.72	1.30	0.27	0.7	〃	剥片
	29	ー	ー	Bj27（撹乱土）	1.43	3.16	0.42	1.5	〃	凹部使用
	30	40-11	12-33	Bj29（表）	4.37	6.32	1.43	53.9	珪質泥岩	長側辺使用
	31	ー	12-34	Ca24（撹乱土）	7.39	5.04	1.05	35.4	〃	全周使用
	32	ー	ー	Ca21	2.07	1.62	1.01	3.5	硬質泥岩	稜棒工具
	33	ー	ー	Ca21	2.03	2.87	0.79	3.4	珪質泥岩	先端部使用
	34	40-10	12-35	Cb33（表）	3.59	2.10	0.89	7.5	〃	（石匙状形状）
	35	40-12	12-36	Cb33（表）	5.01	4.22	1.63	30.5	硬質泥岩	先端部使用
	36	ー	ー	Cb33（表）	2.08	2.56	0.52	3.4	珪質泥岩	1次加工のみ
	37	ー	ー	Cb33（表）	1.53	1.41	0.32	0.7	〃	凸面縁部調整
	38	ー	ー	Cb24（表）	2.51	2.88	0.44	2.2	〃	3側辺加工
	39	ー	12-37	Cb28（表）	2.98	2.15	0.52	1.5	〃	短側辺使用
	40	40-14	12-38	Cb21	5.75	6.49	1.66	37.6	〃	自然面残
	41	ー	ー	Cb21	2.12	2.32	0.90	2.4	砂質泥岩	調整痕止
	42	40-15	12-40	Cbe24-21	3.89	4.10	0.92	10.2	凝灰岩質泥岩	縁辺部使用
	43	ー	12-39	Cbe24-21	2.51	3.56	0.39	3.6	硬質泥岩	長側辺使用
	44	ー	ー	Cbe24-21	2.96	1.21	0.27	0.9	〃	先端部使用
	45	ー	ー	Cbe21	1.89	2.76	0.89	1.3	珪質泥岩	下部使用
	46	ー	ー	Cef24（表）	3.92	1.61	0.45	2.6	硬質泥岩	上部使用
	47	ー	ー	第一平場（表）	1.36	1.82	0.23	0.5	〃	剥片
	48	ー	ー	第一平場（表）	1.87	1.24	0.41	0.8	珪質泥岩	凹部使用
	49	40-16	12-41	ー	3.98	2.24	0.96	8.1	砂質凝灰岩質泥岩	剥片

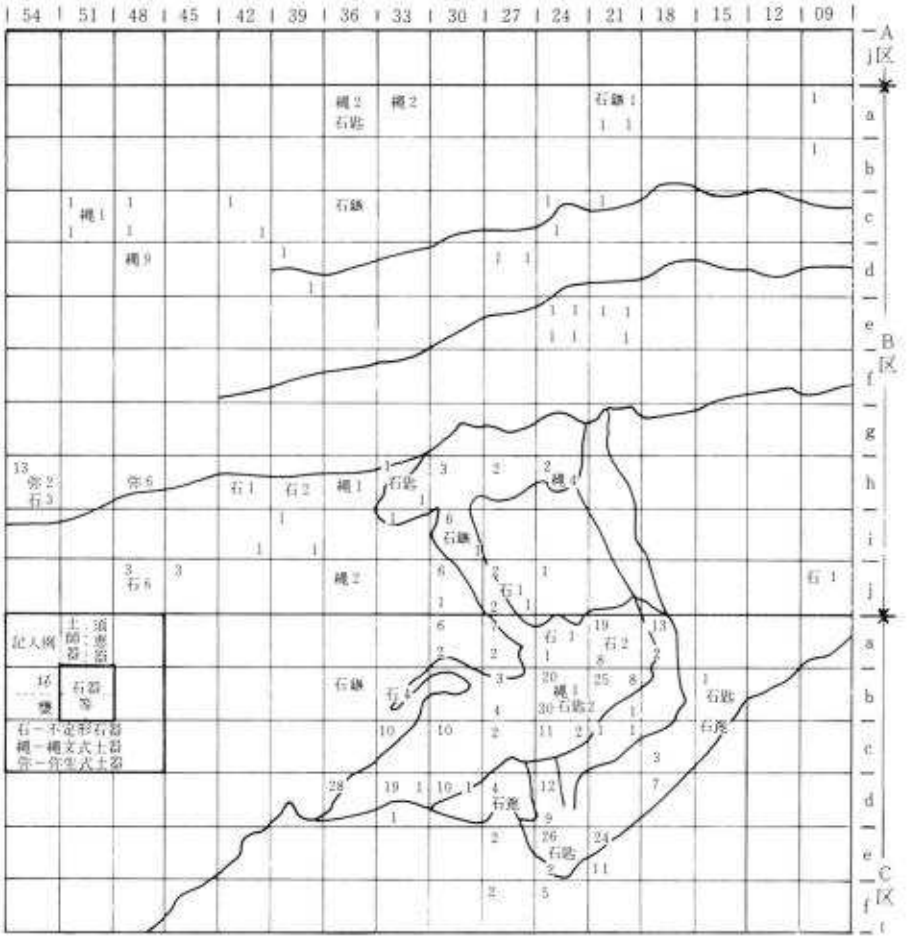


1－7：石鏃　8：磨製石斧　9：石皿　10・11：石錐　12～18：石匙　19～22：不定形石器
（S≒½）



第40図（S≒½）

1－16：不定形石器



第41図　遺物包含層遺物分布（縄文・弥生・土師・須恵各1器（底部あと重複あり）石器は重複表示（接合同一個体片は1点とする））

Ⅵ　まとめ

今回の調査結果の要約は次の様になる。　本遺跡は縄文時代早期末前期初頭より近世までの複合遺跡である。遺跡範囲は調査地の西部丘陵及び裾部と西部に広がる。検出遺構それぞれの時期については、竪穴式住居跡は土師器・底部回転糸切無調整内黒坏で示されるように10世紀代が考えられる。埋土及び包含層中に底部に調整を有する坏の存在は9世紀後半よりの変遷を示す。掘立柱建物は土壙墓との切合いと周辺の館との関係より江戸時代より古いと考えられる。土壙墓は副葬品の古銭が通用時に添えられたと仮定して江戸時代の初頭に位置付けられるものがある。第五平場の溝は埋土遺物より江戸時代に近い時期と思われる。

写　真　図　版

泊ケ崎遺跡

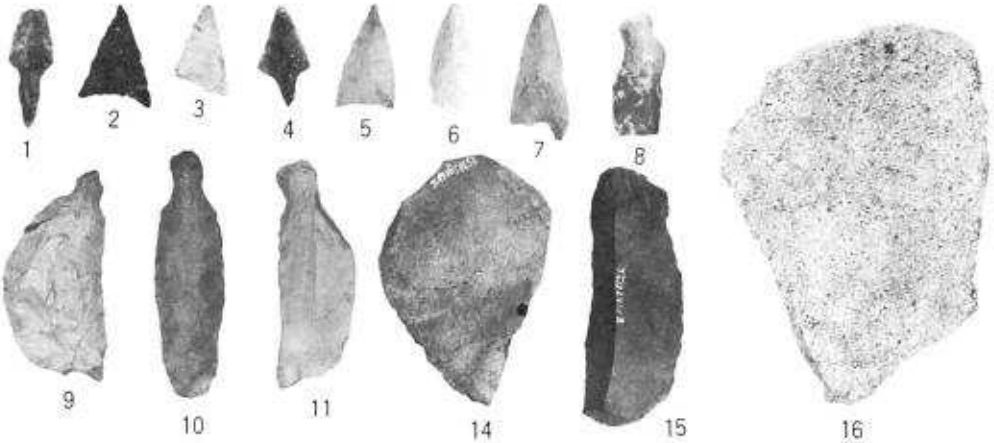
a．泊ケ崎遺跡全景
（南より）
b．須恵器壺出土状況

a

b

12

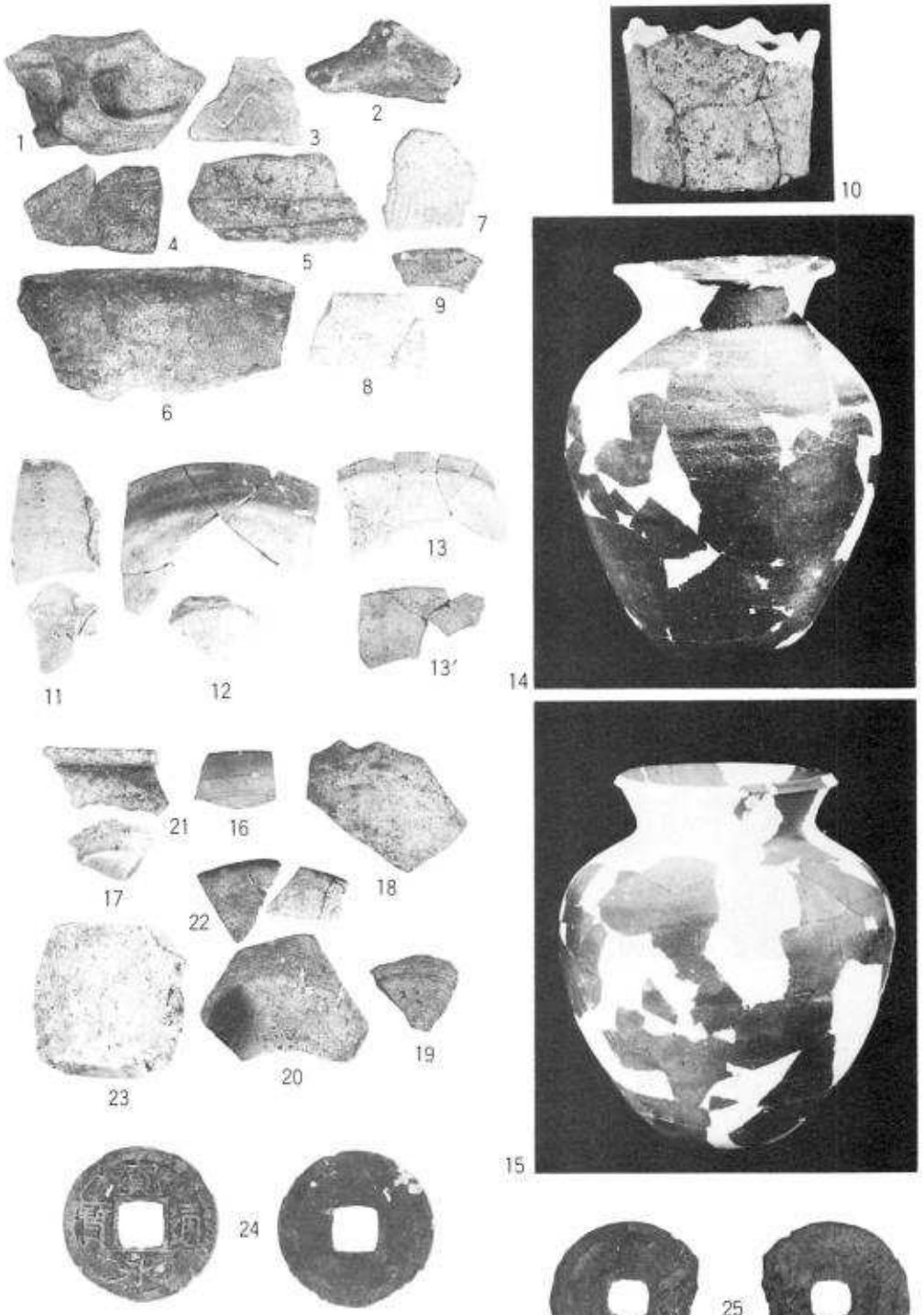
13



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 14 15 16

1～7：石鏃　1～7：石匙　12～13：石篦　14～15：掻器（½）　16：石皿（½）

図版 1



1・2・10：縄文式土器　3～8：弥生式土器
11～15：須恵器　16～23：土師器　24・25：古銭
（1～13′・16～23：⅓　14・15：⅙　24・25：½）

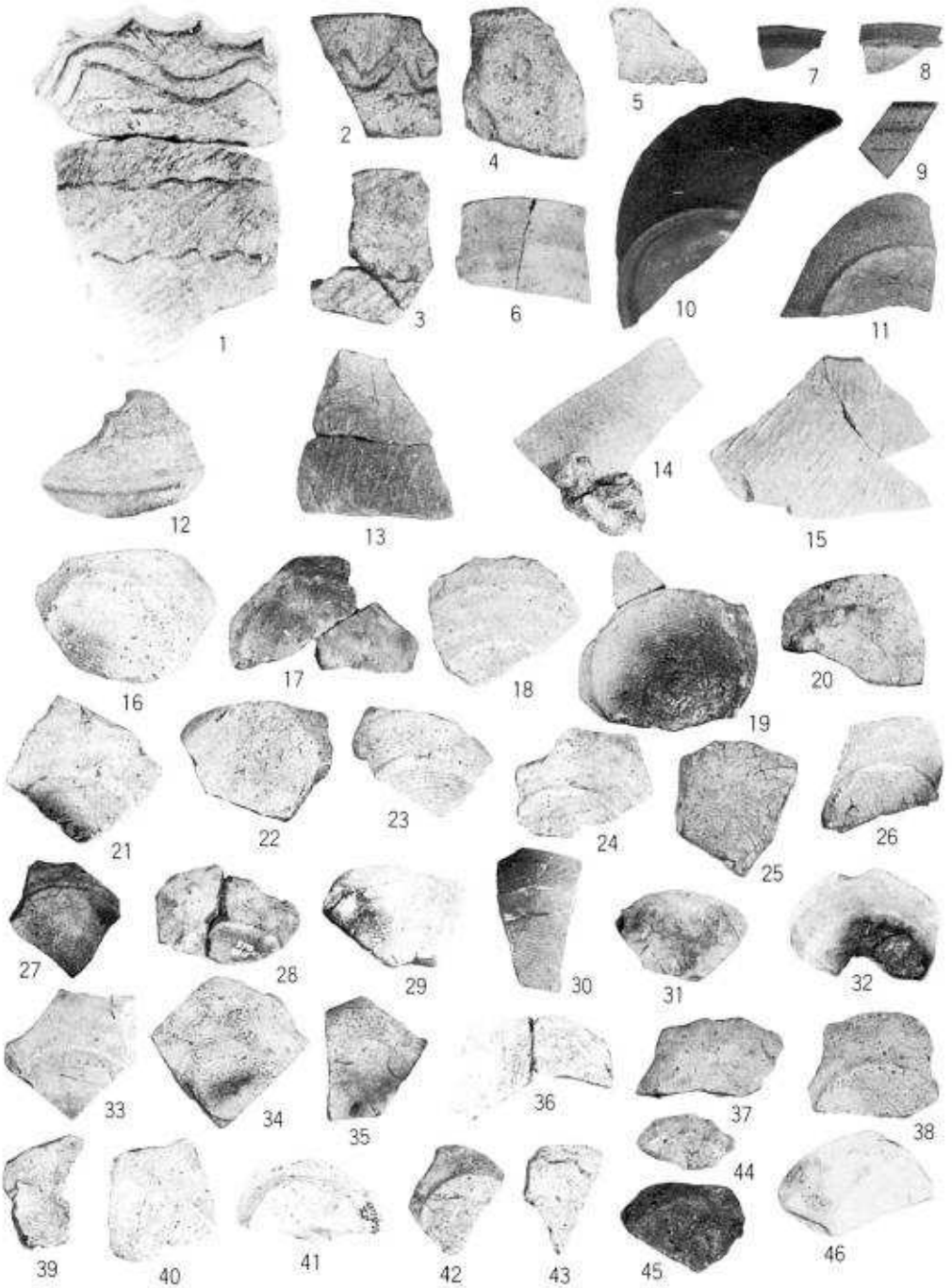
図版２

新城遺跡

新城遺跡全景

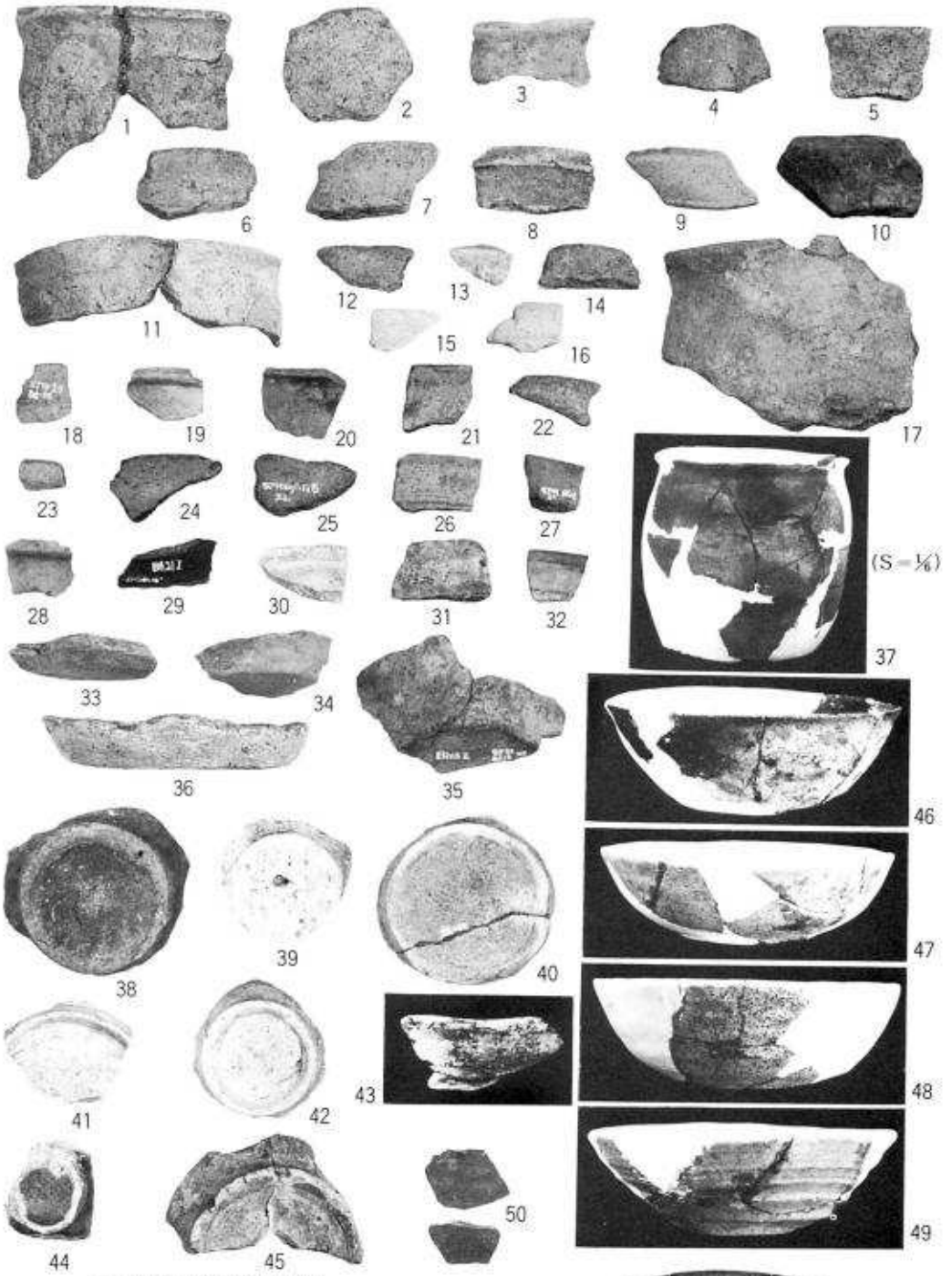
上：遺跡全景
1～3：石錐
4・5：石斧
6～15：石匙
16～19：石篦
20：掻器
21～36：削器（不定形石器）
37～48：石鏃

図版1　遺物（S≒¼）



1～5：縄文式土器片
6～15：須恵器片
16～28：土師無調整内黒坏
29～35：調整内黒坏
36～46：内黒処理なし坏

図版2 （1：½ 他は¼）



1～32：土師器甕口縁部
33～36：土師器甕底部
37　　：土師器甕
38～45：土師器台付
46～49：土師器坏
50・51：土師器坏（両黒）

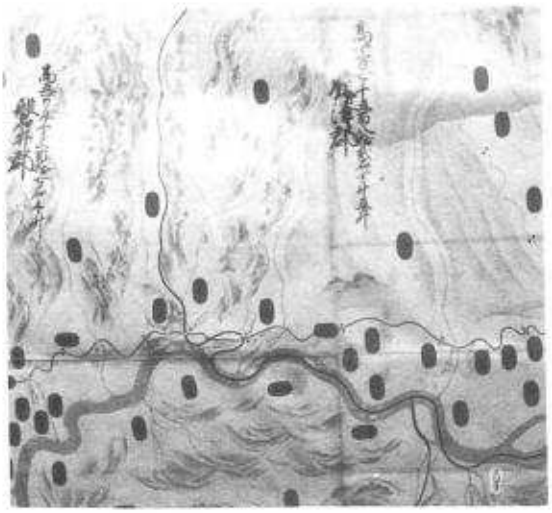
図版３（S＝⅓）

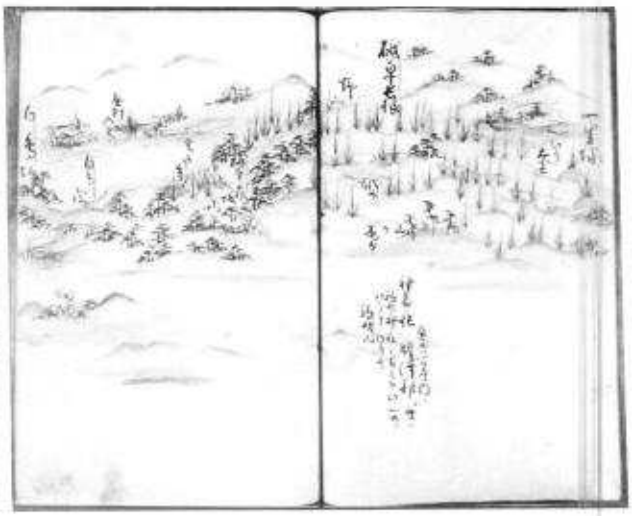
徳沢一里塚遺跡

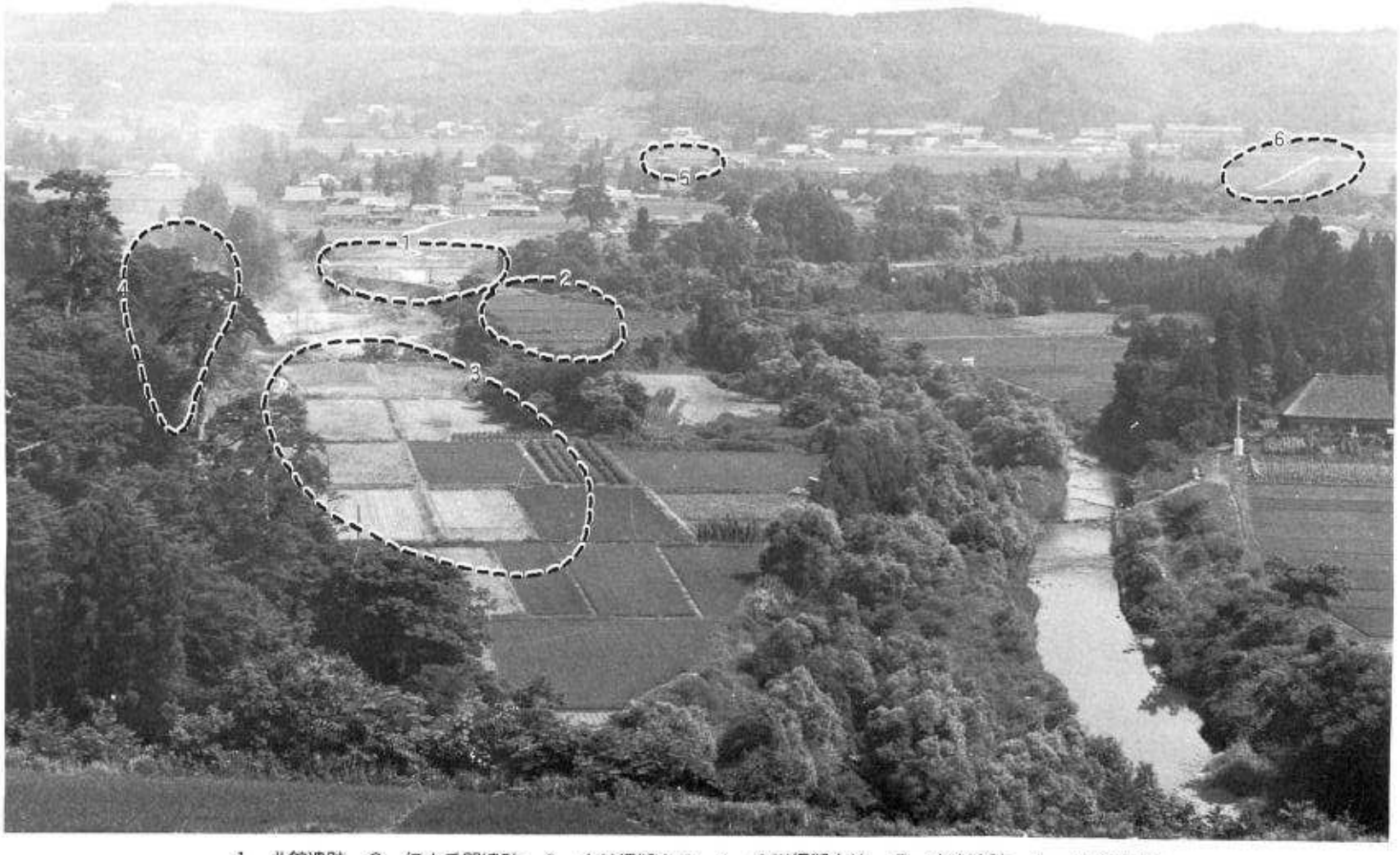
上：全景　（東から）
　　１号塚（東）
　　２号塚（西）

中：１号塚（北から）

下右：「増補行程記」
　　より
　　右側に見える一対
　　の塚である。
下左：「仙台藩御領分絵図」



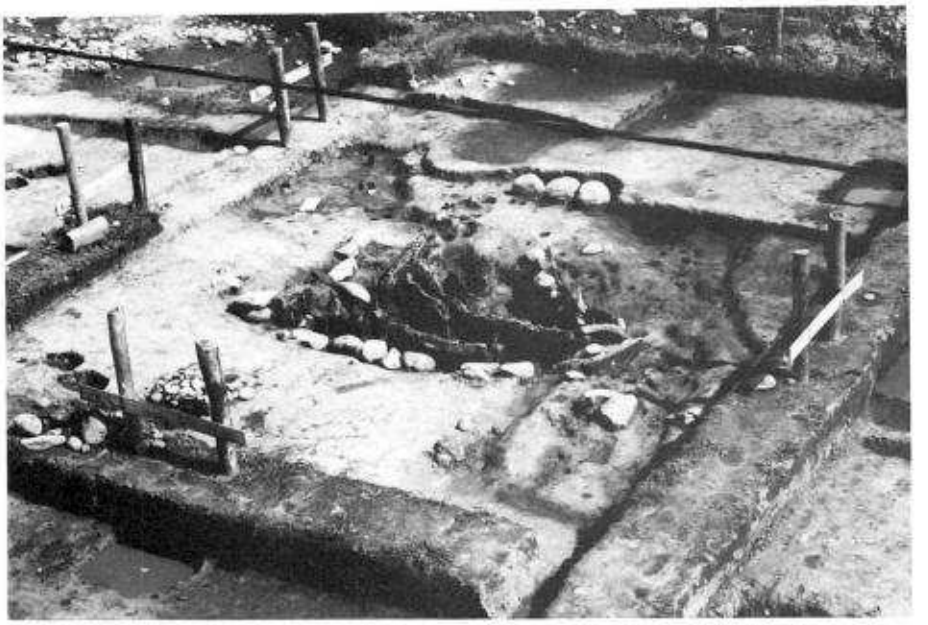




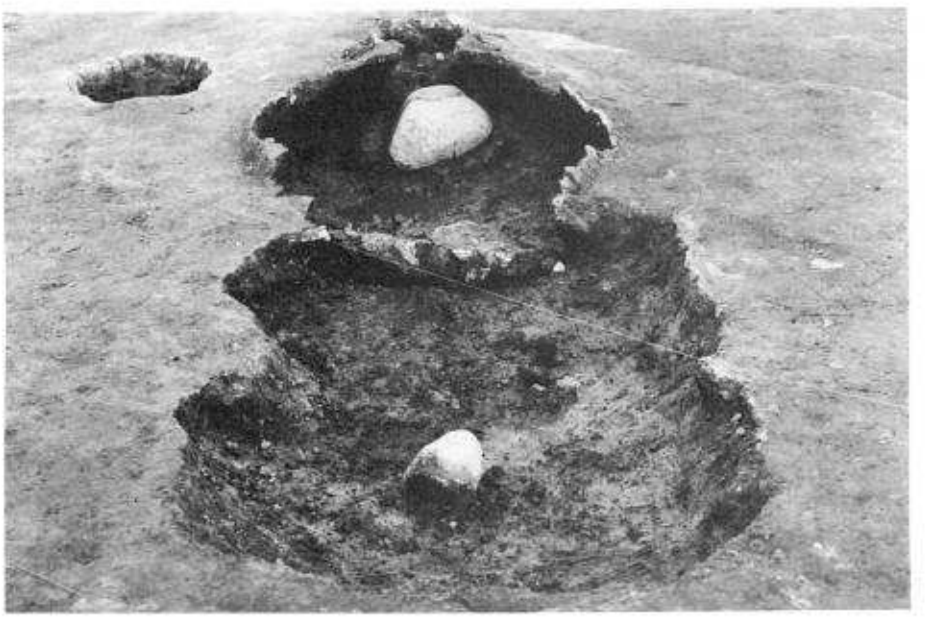
1．北館遺跡　2．伝大手門遺跡　3．小松柵擬定地　4．衣川柵擬定地　5．東裏遺跡　6．長者原廃寺

図版1　北館・伝大手門遺跡遠景（南から）

建物遺構全景
（西から）



池跡
（西から）



竈遺構
（南から）

図版２　北半部の遺構

Cj12建物P92

Cj12建物P29

Cj12建物P74

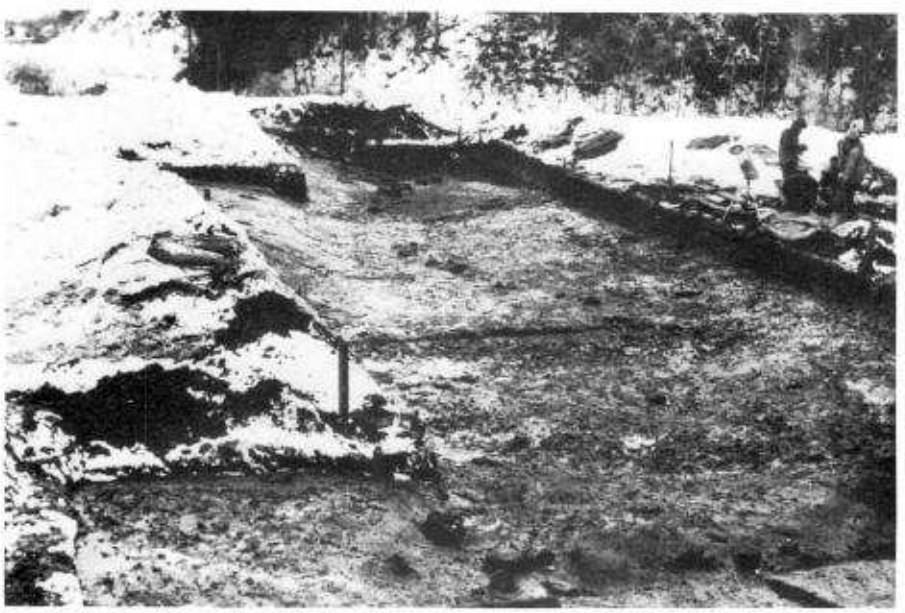
石敷遺構（南西から）

石積土壙（東から）

図版３　北半部の遺構

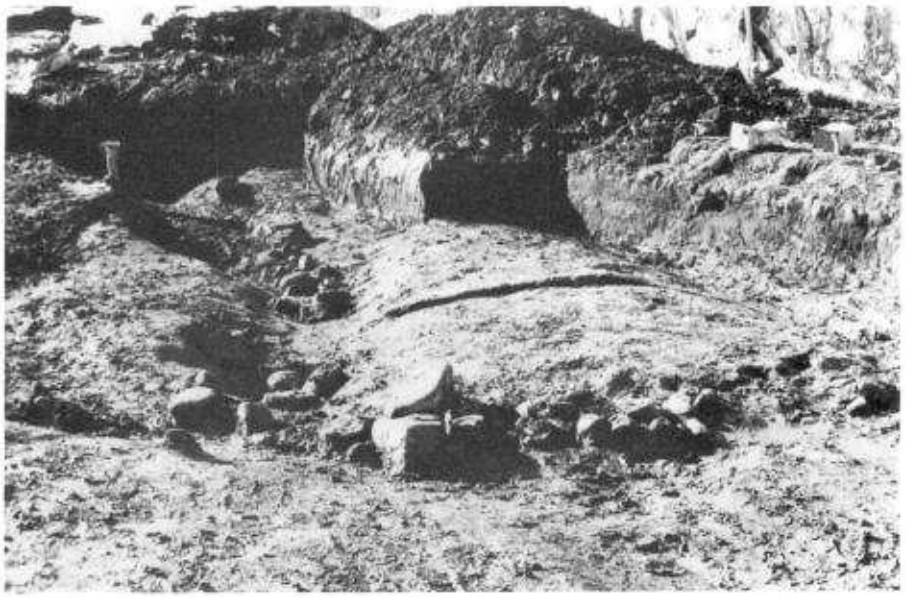
第１号住居跡
（東から）

第２号住居跡
（北西から）



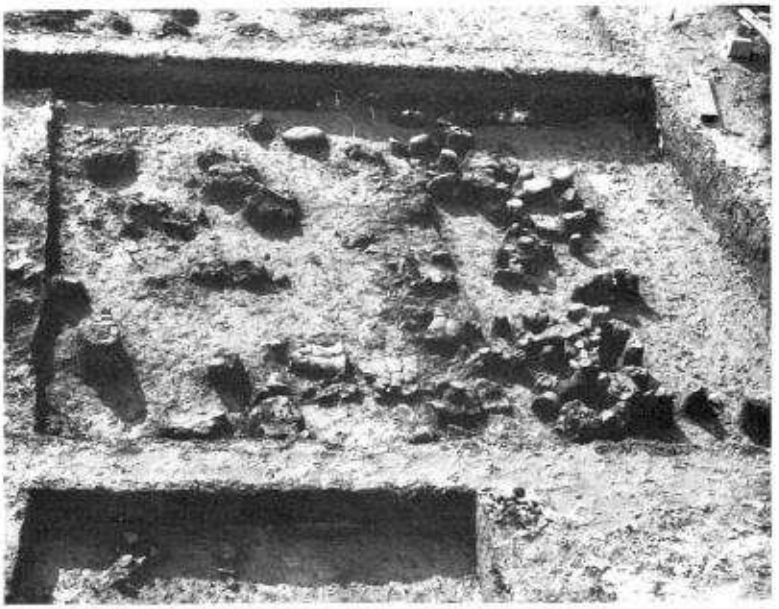
ＦＧブロック落ち込み遺跡
遺物包含地（北から）

図版４　南半部の遺構



溝状遺構１、２号溝

Ie59石組み遺構
とP₃土壙（西から）



ＦＧブロック落ち込み遺構
Gabグリット出土状況
（北から）

図版５　南半部の遺構

土錘（２号住居跡）

実測図 115の土器（Gabグリット）

実測図12（向側）,89（手前）の土器

実測図32の土器（Gcdグリット）

包含地Gefグリット

矢印は実測図100の土器（Gefグリット）

土偶の出土地点（Gefグリット）

三脚陶器（Gefグリット）

図版６　遺物出土状況

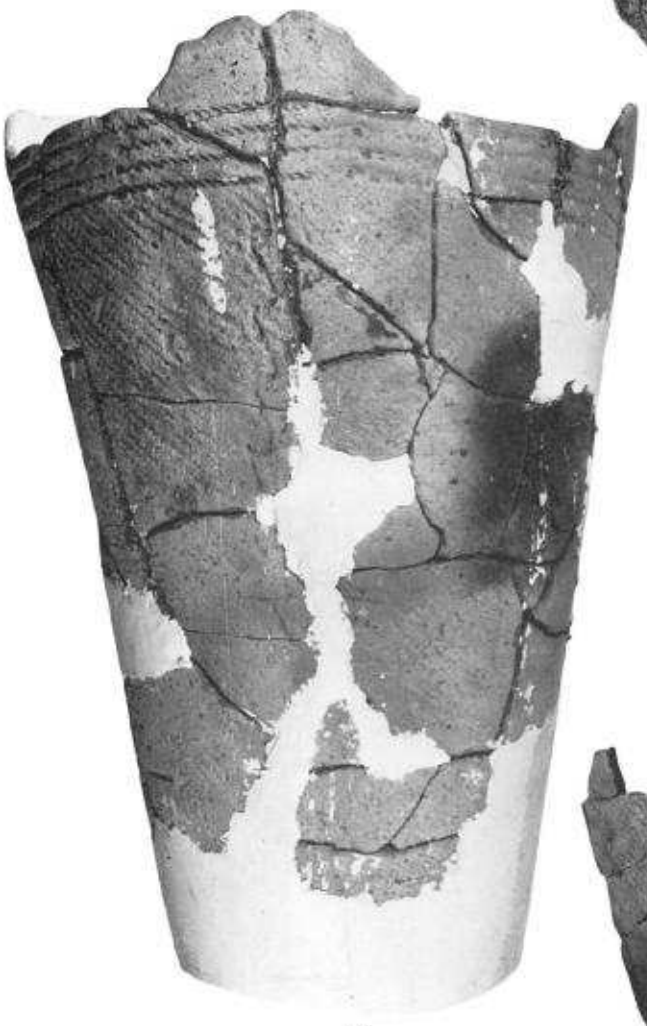
1：第1群1類　2～6：第1群3類　7～10：第2群1類a

図版7　包含地出土土器（¼）

11

12

14



13

15

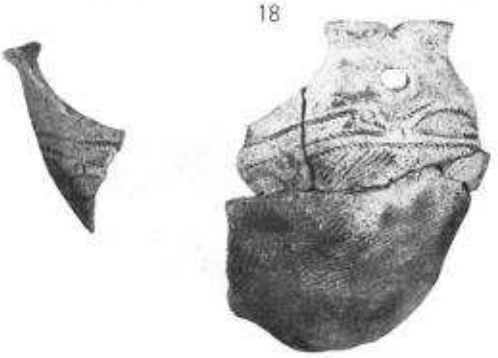
11～15：第2群1類a

図版8　包含地出土土器（¼）

16

17

18



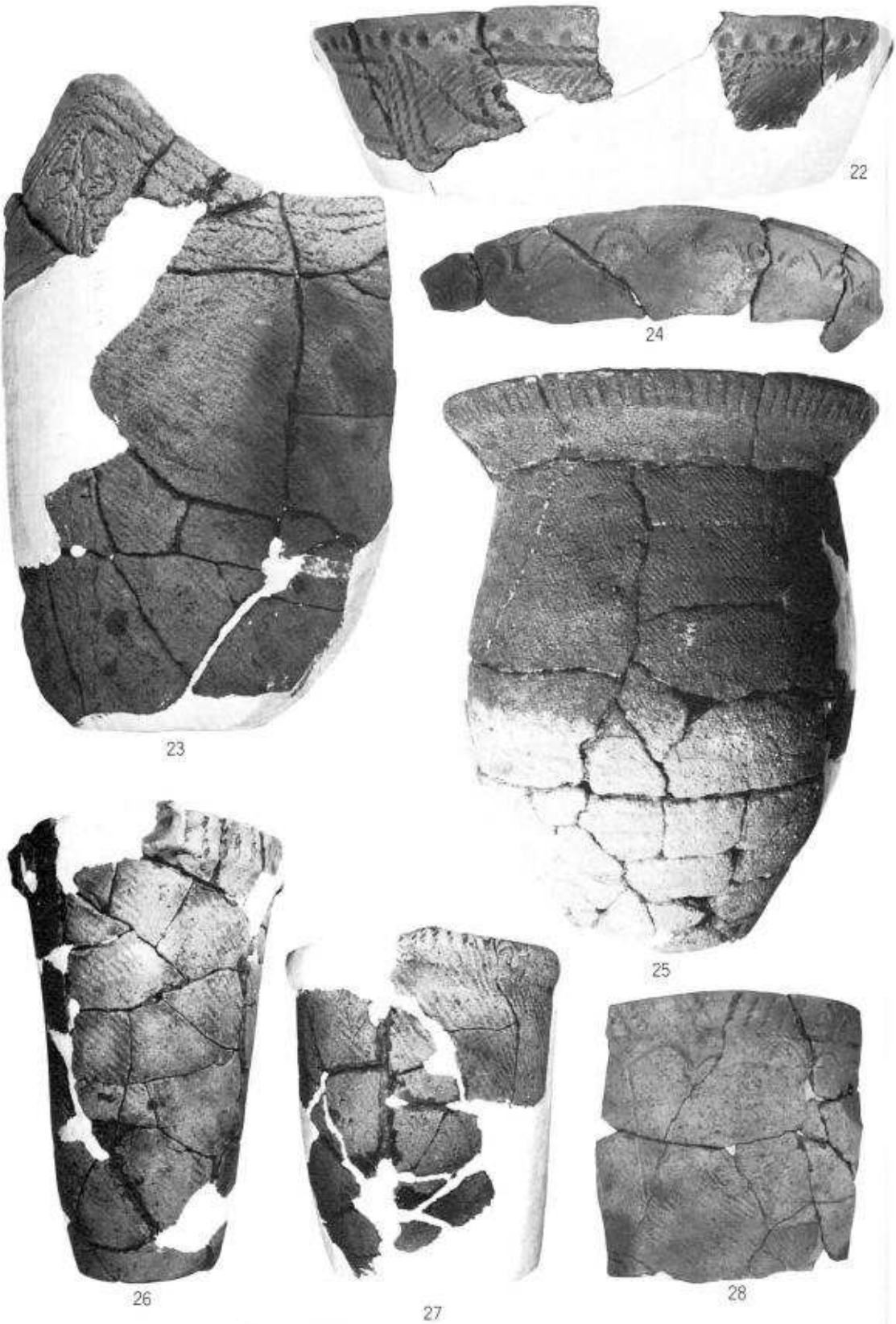
19

20

21

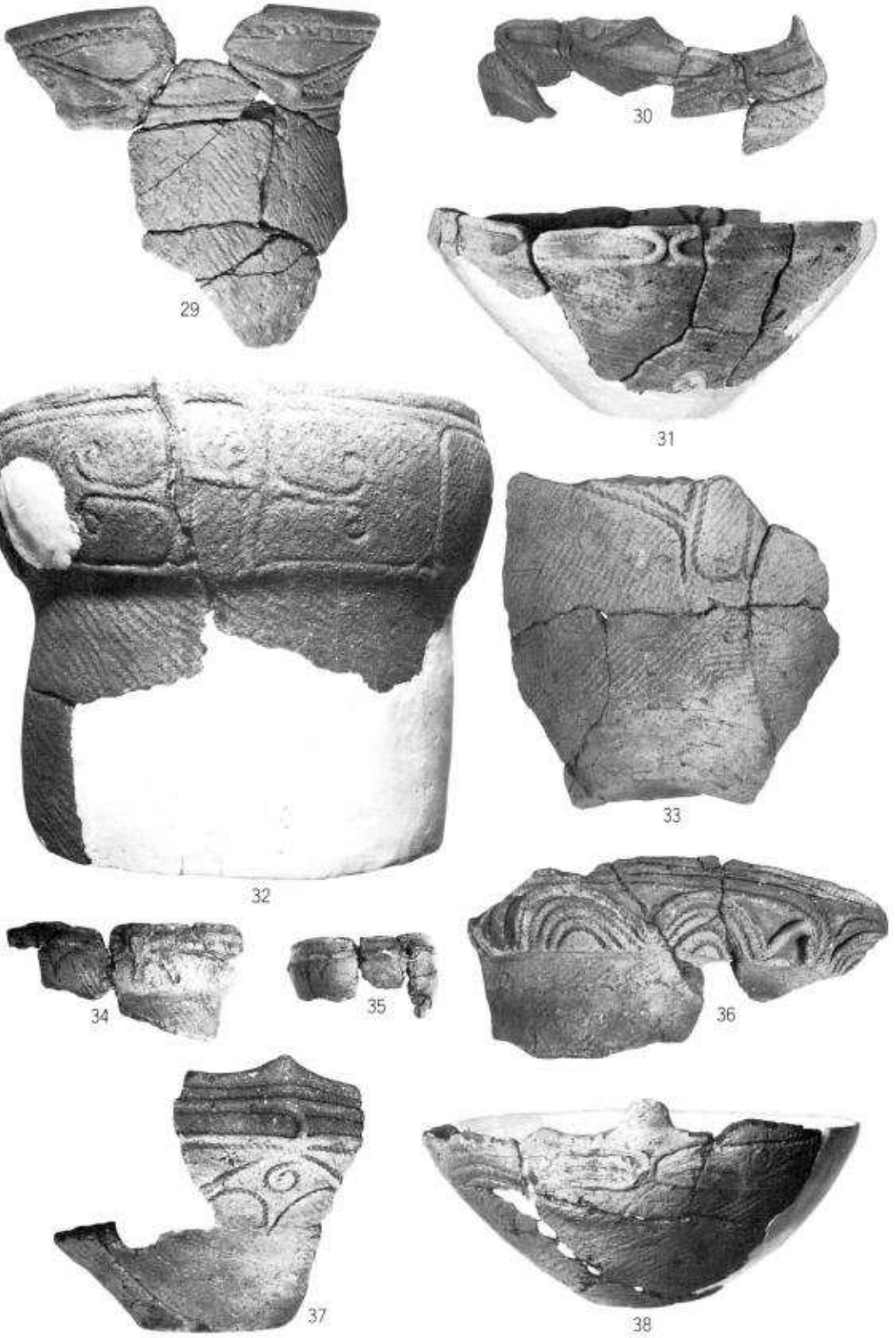
16~21：第2群1類b

図版9　包含地出土土器（1/4）



22～24：第2群1類b　25～28：第2群1類c

図版10　包含地出土土器（1/4）



29～38：第２群１類ｄ

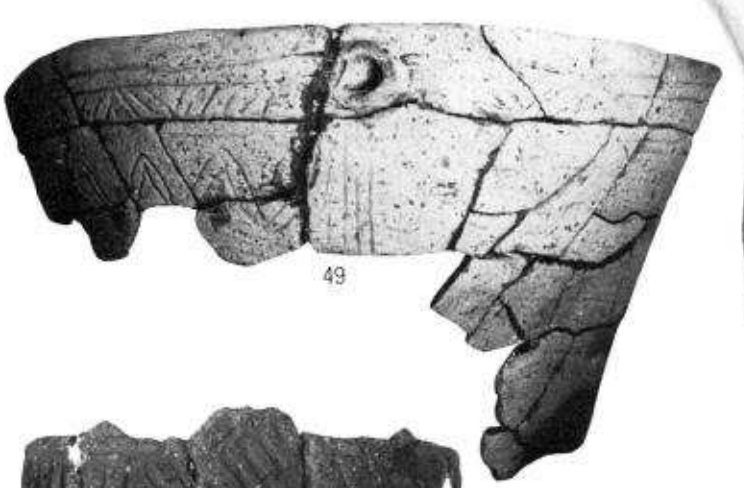
図版11　包含地出土土器（¼）

39～43：第2群2類a
44～46：第2群2類b

図版12　包含地出土土器（¼）

47

48



49

50

51

52

47～52：第２群２類ｂ

図版13　包含地出土土器（1/4）

53

54

55

56

57

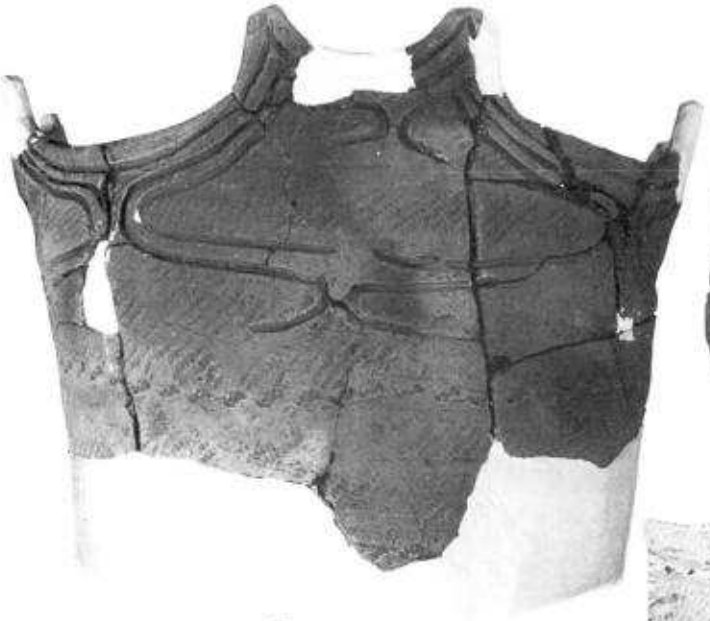
60

53~60：第2群2類b

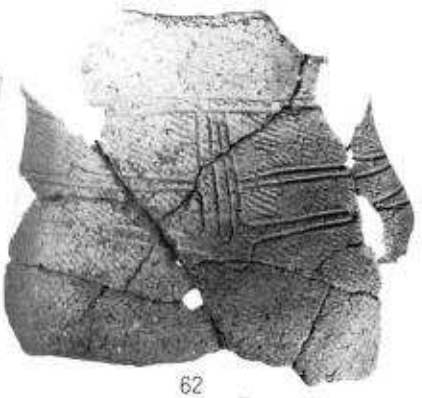
58

59

図版14　包含地出土土器（1/4）

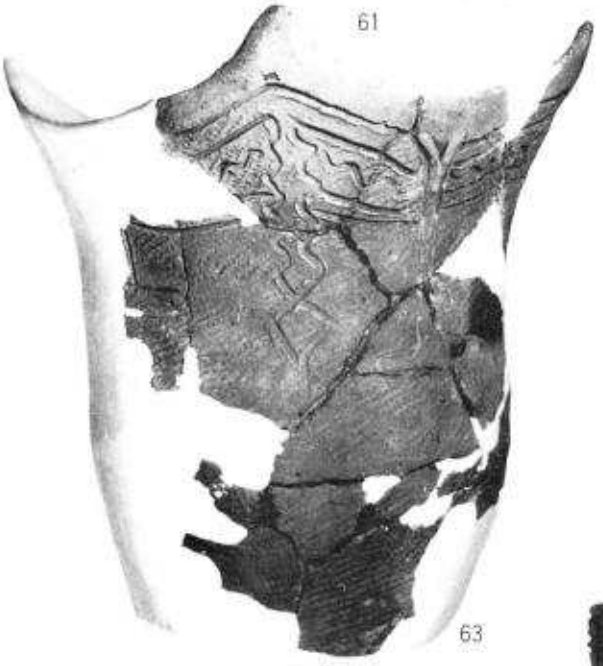


61

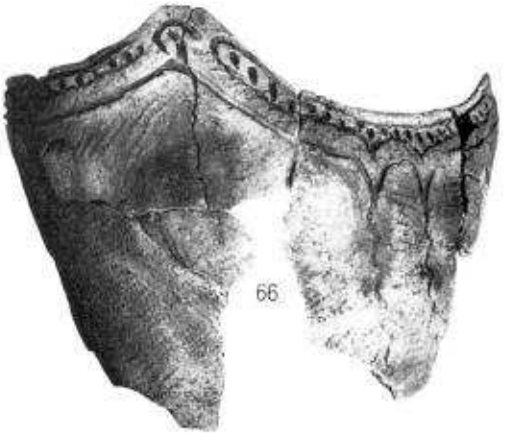


62

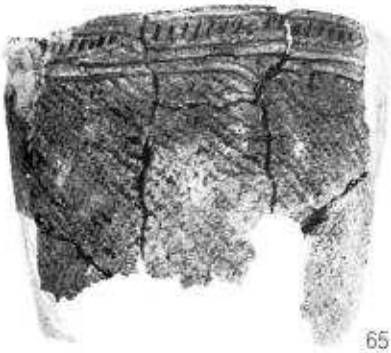
64



63



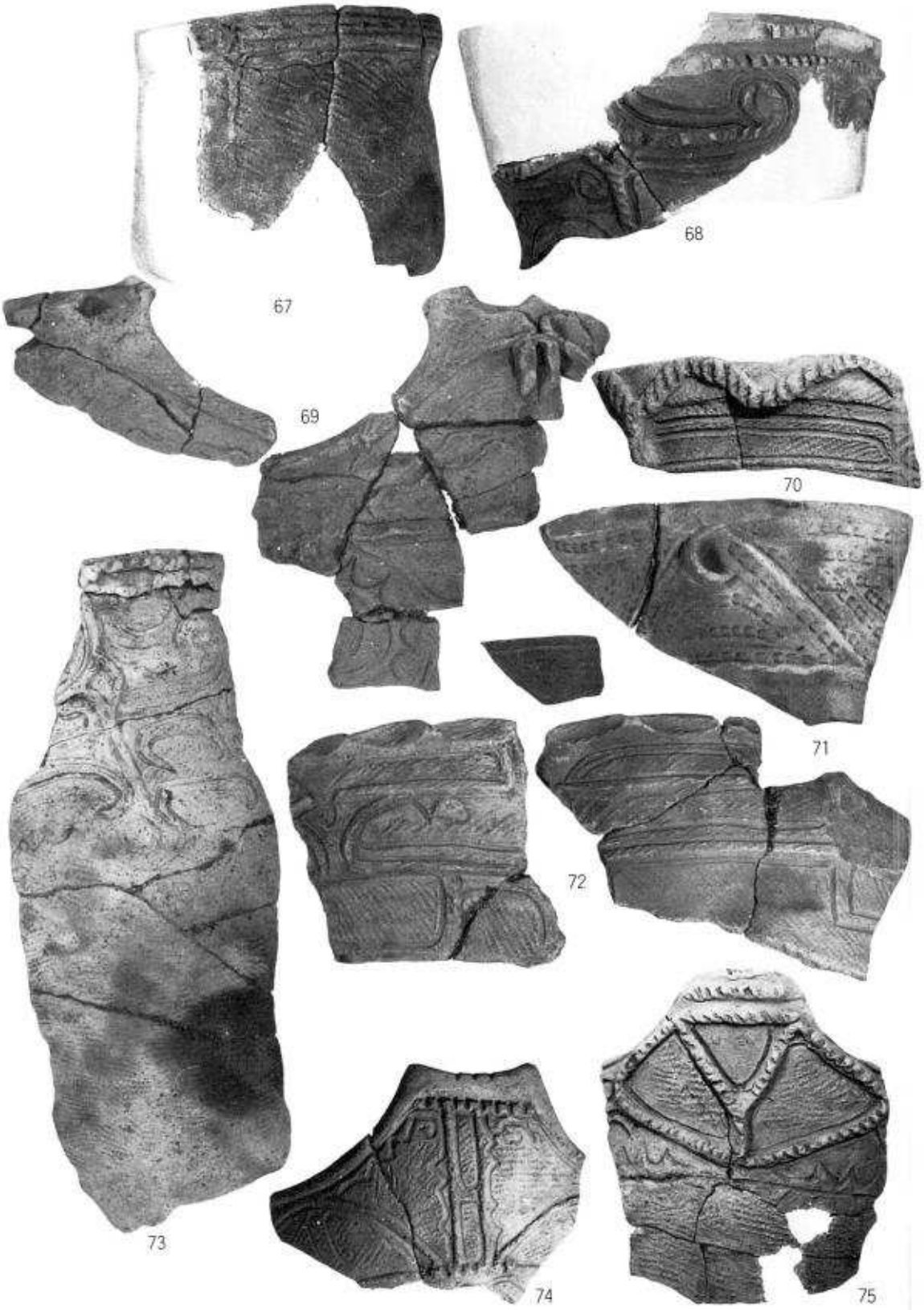
66



65

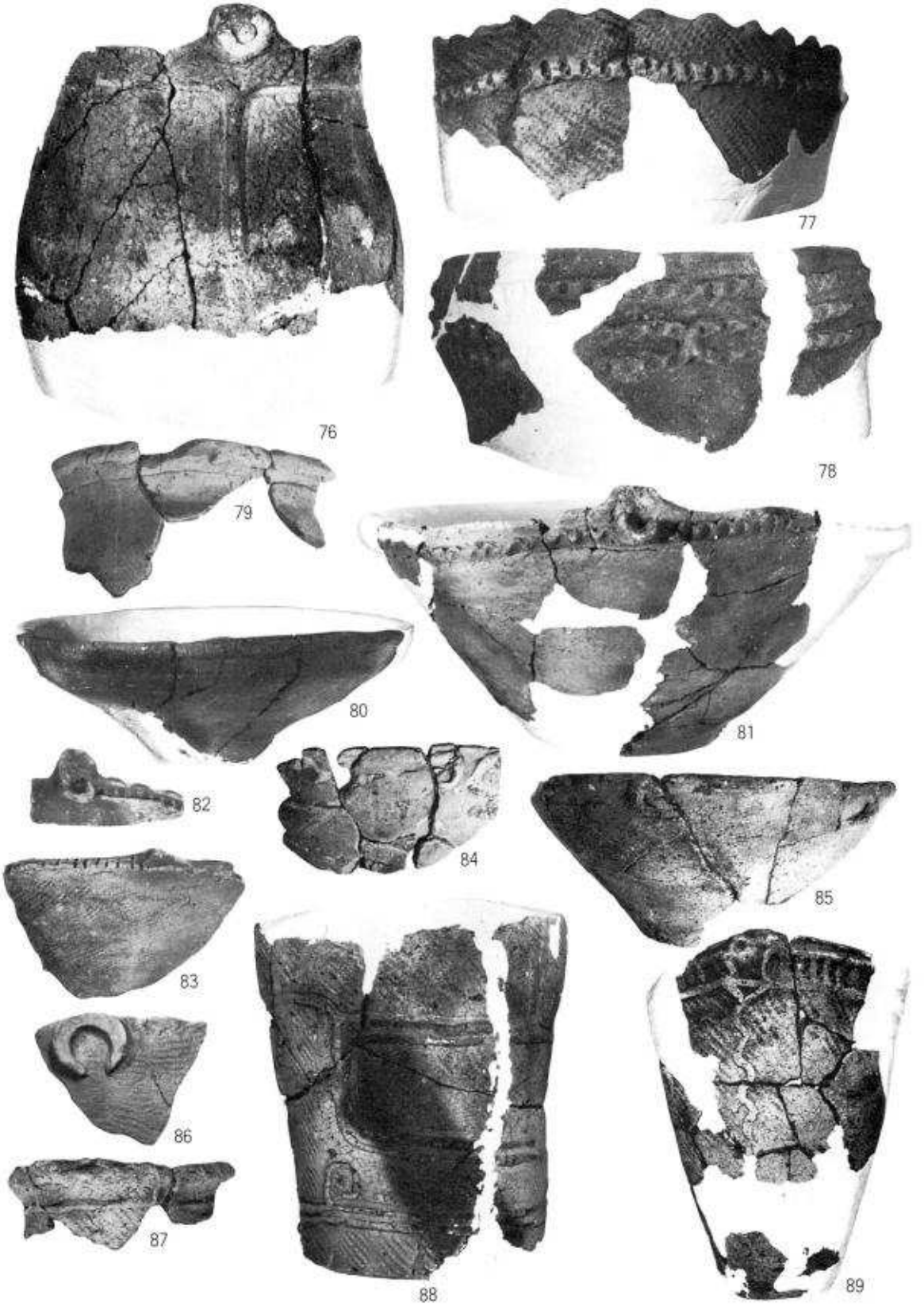
61～64：第2群2類b　65～66：第2群2類c

図版15　包含地出土土器（1/4）



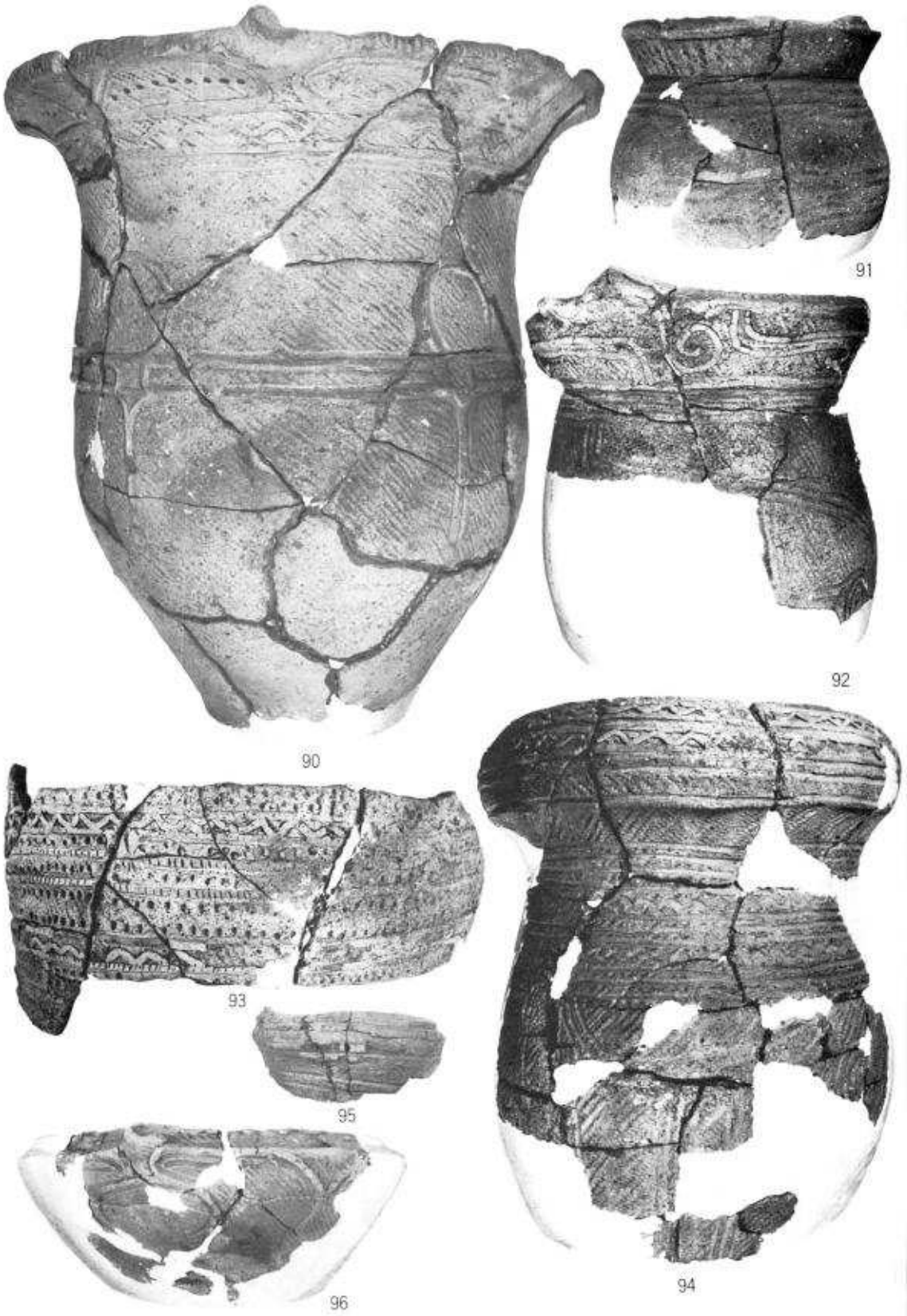
67：第2群2類c　68～75：第2群2類d

図版16　包含地出土土器（¼）



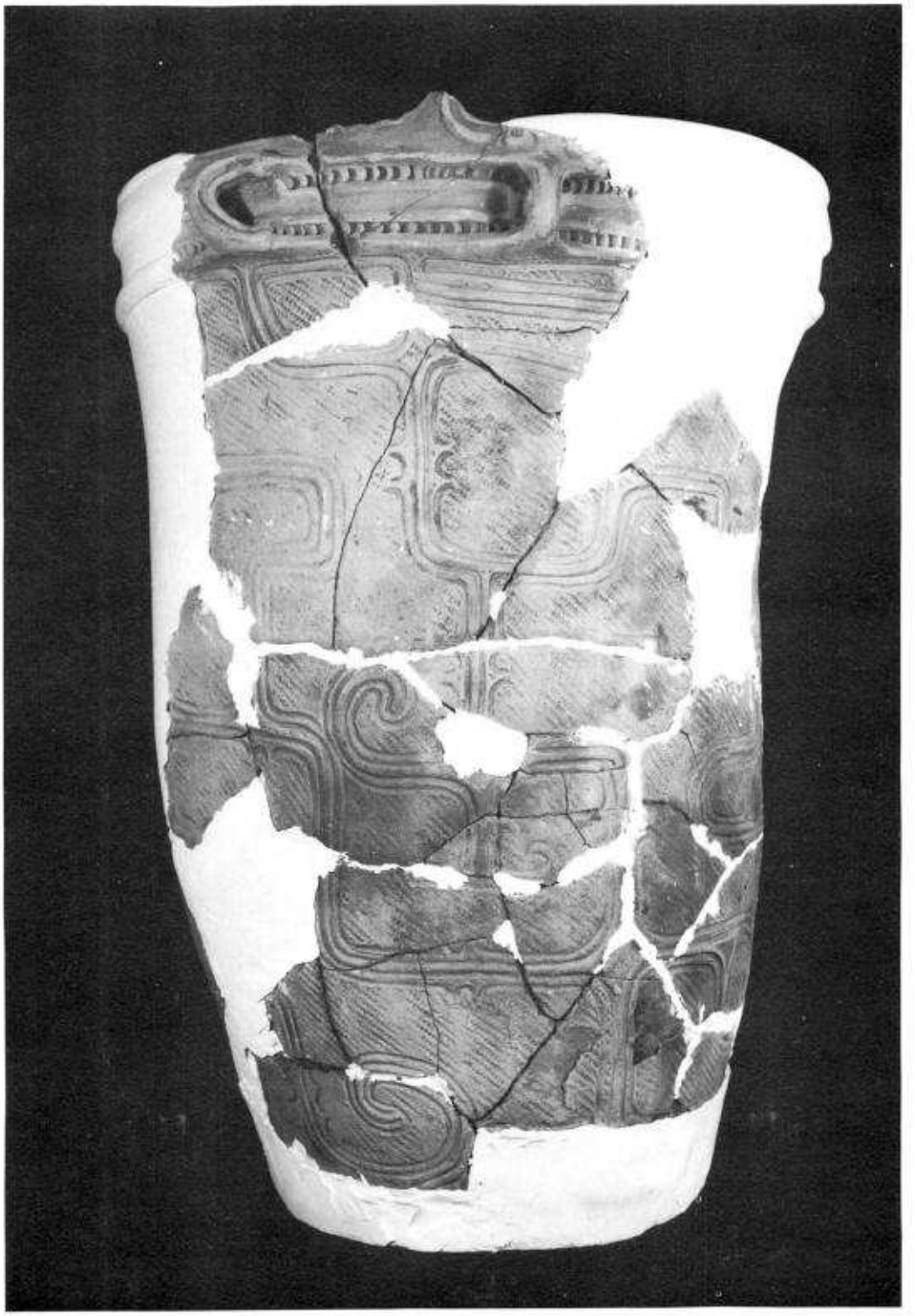
76：第２群２類ｄ　77～81：第２群３類ａ　82～83：第２群３類ｂ
84・86：第２群４類　87～89：第３群１類

図版17　包含地出土土器（¼）



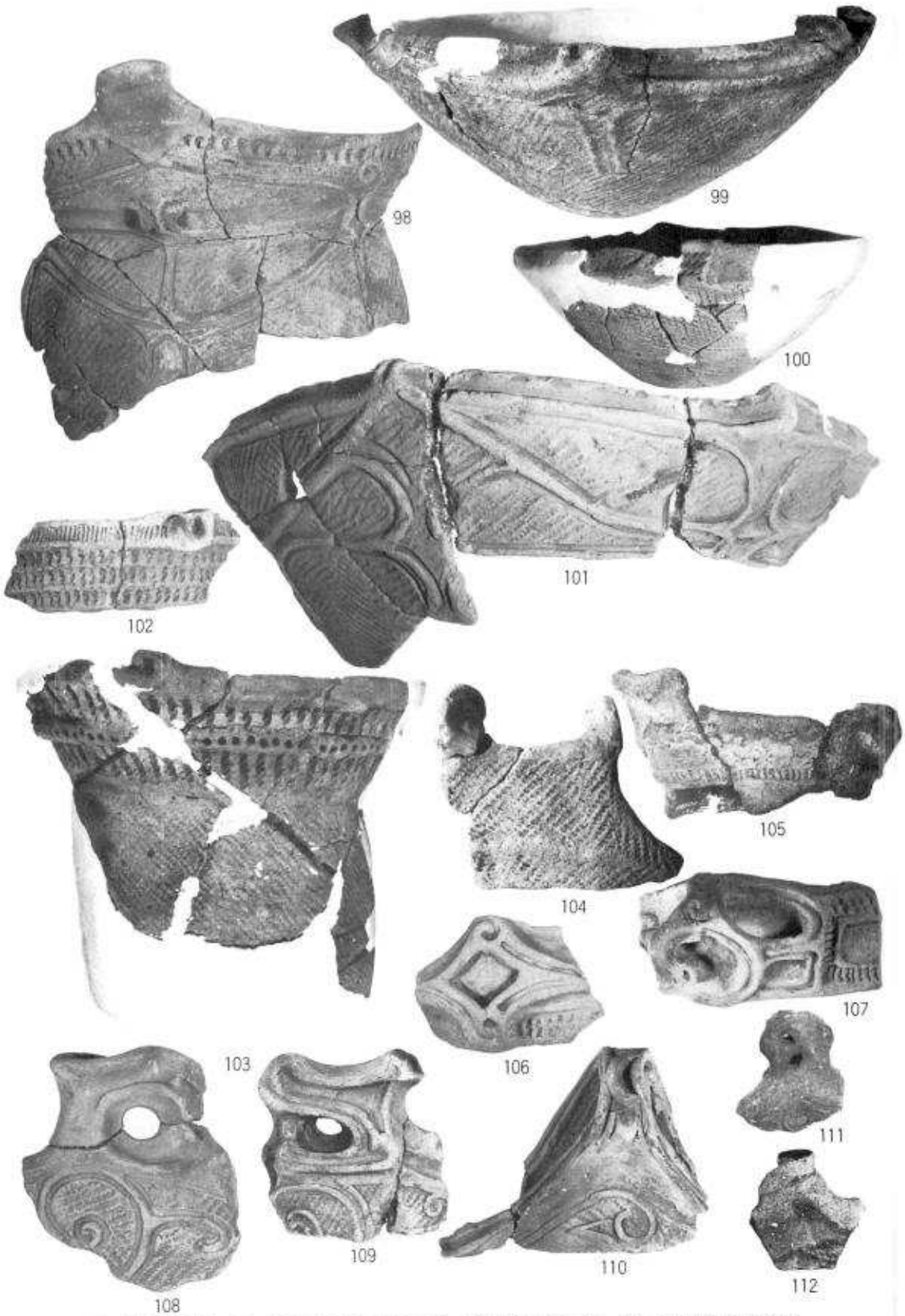
90・93：第3群1類　91・92・94：第3群2類　95：第3群3類　96：第3群4類

図版18　包含地出土土器（¼）



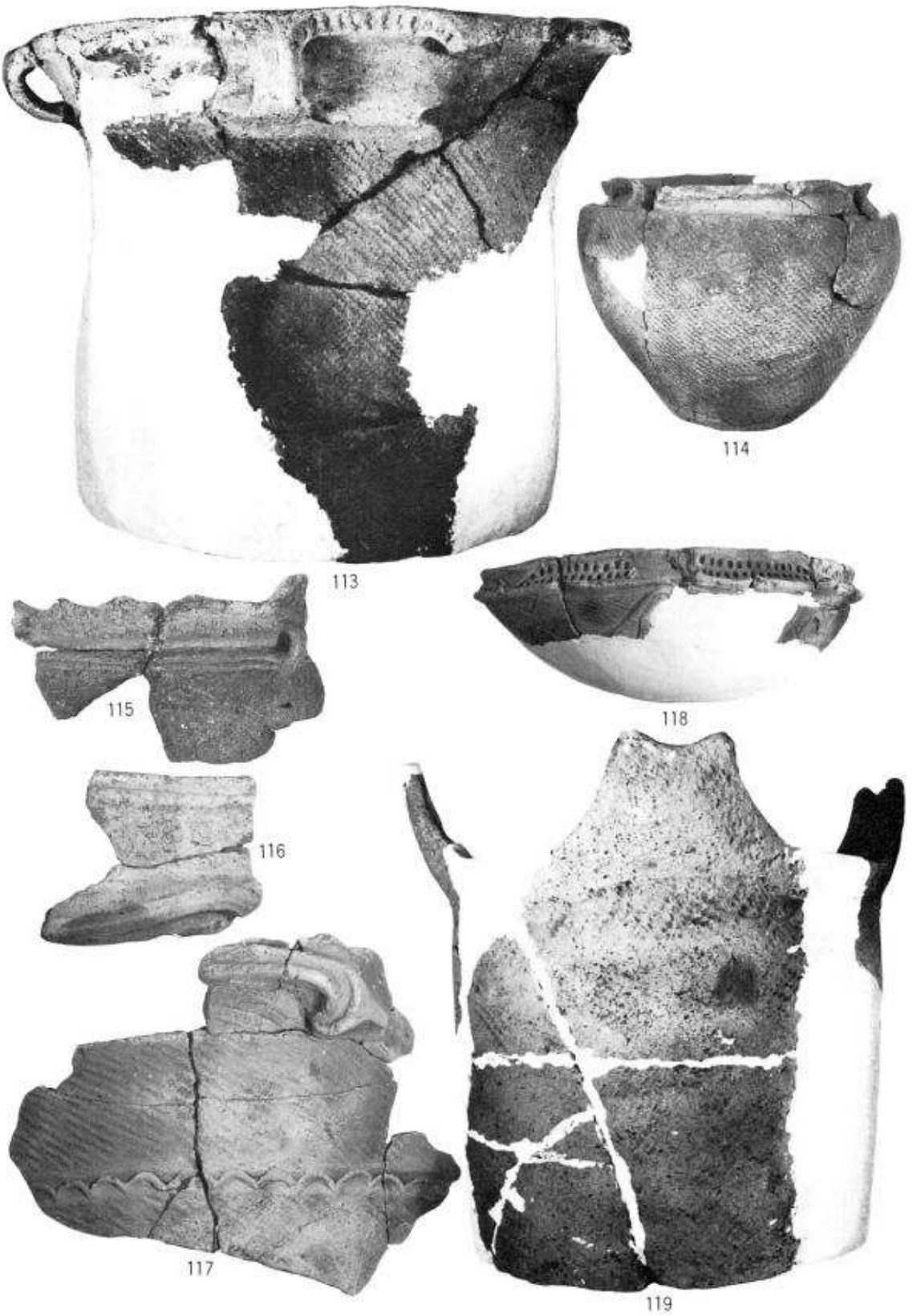
第３群３類土器

図版19　包含地出土土器（¼）



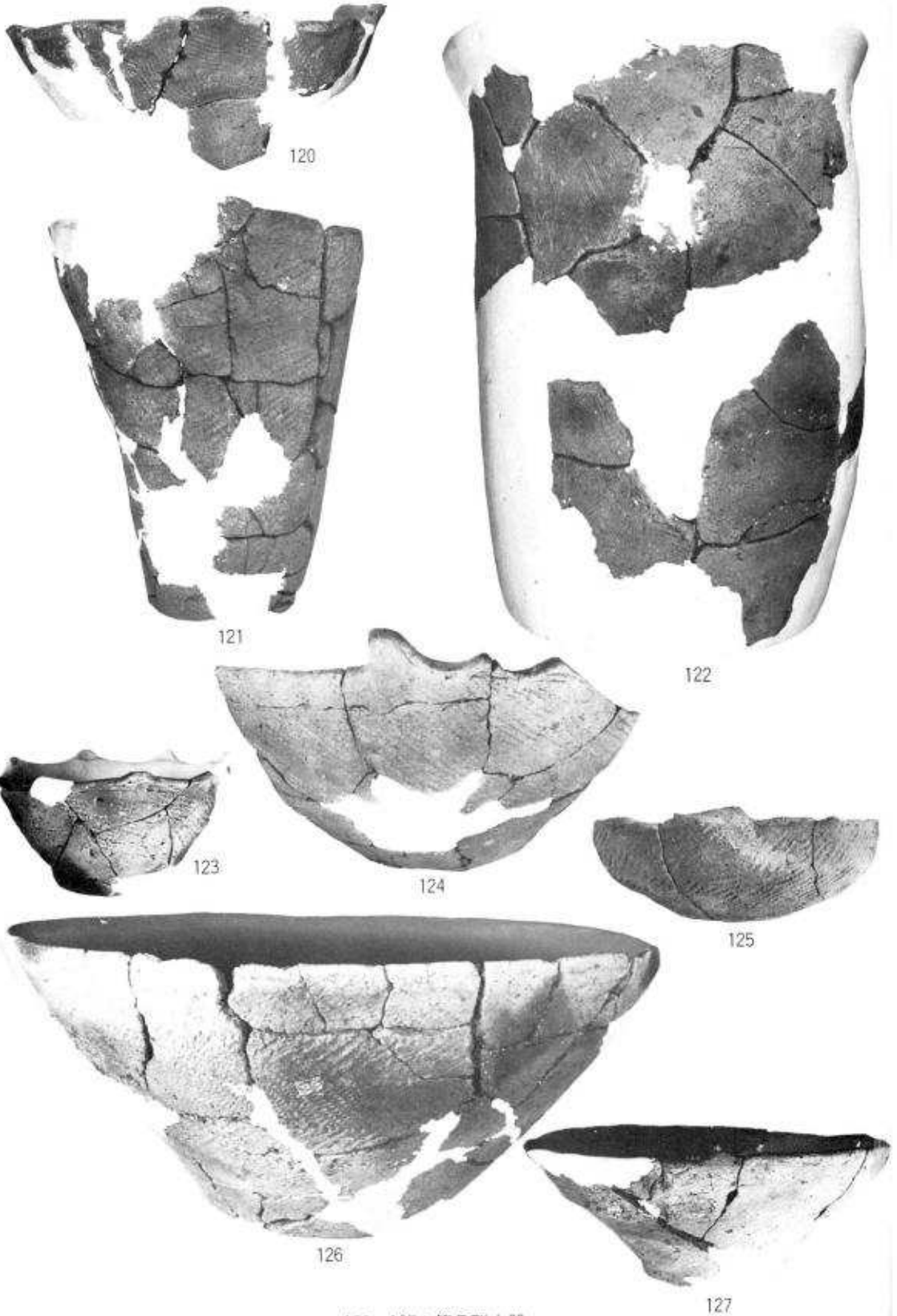
98：第3群3類　99～101：第3群4類　102～103：第3群5類　104～112：第3群6類

図版20　包含地出土遺物（1/4）



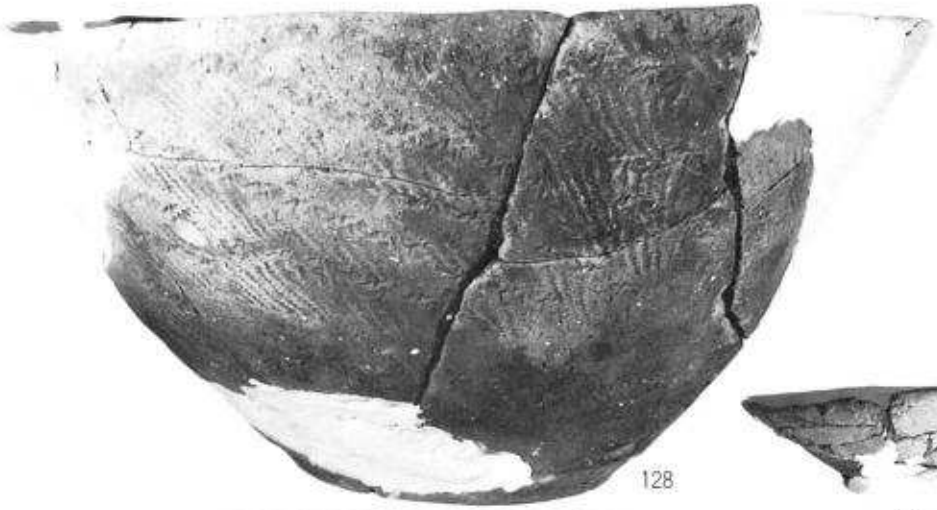
113~117：第3群6類　118：第4群　119：第5群

図版21　包含地出土土器（¼）



120～127：第5群土器

図版22　包含地出土土器（1/4）



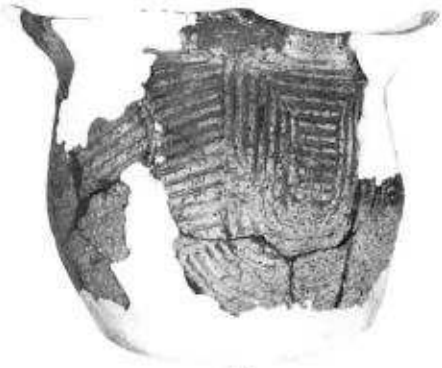
128

129

130

131

132

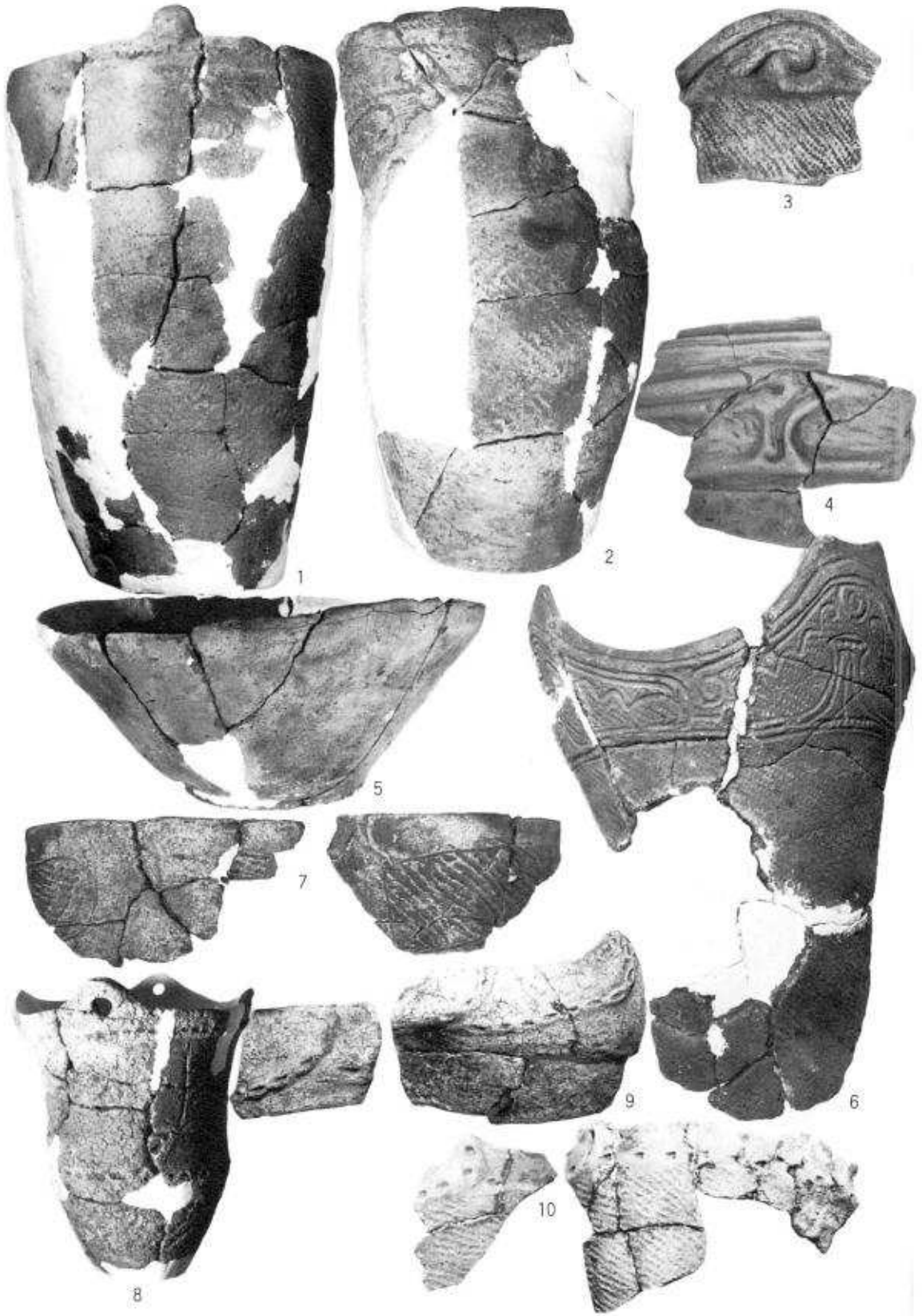


134

133

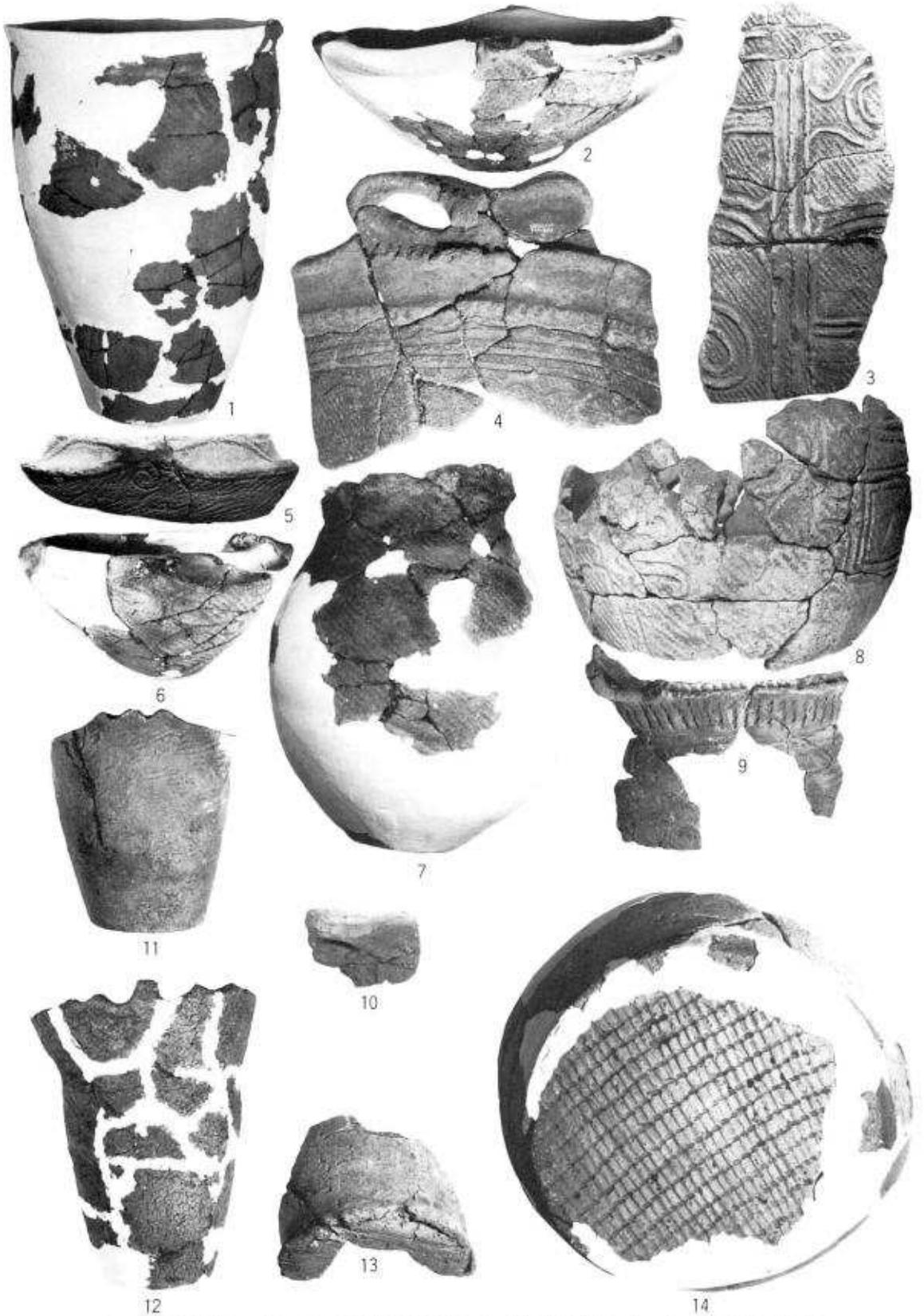
128・130・131・第5群　129・132・133：第6群　134：第7群

図版23　包含地出土土器（1/4）



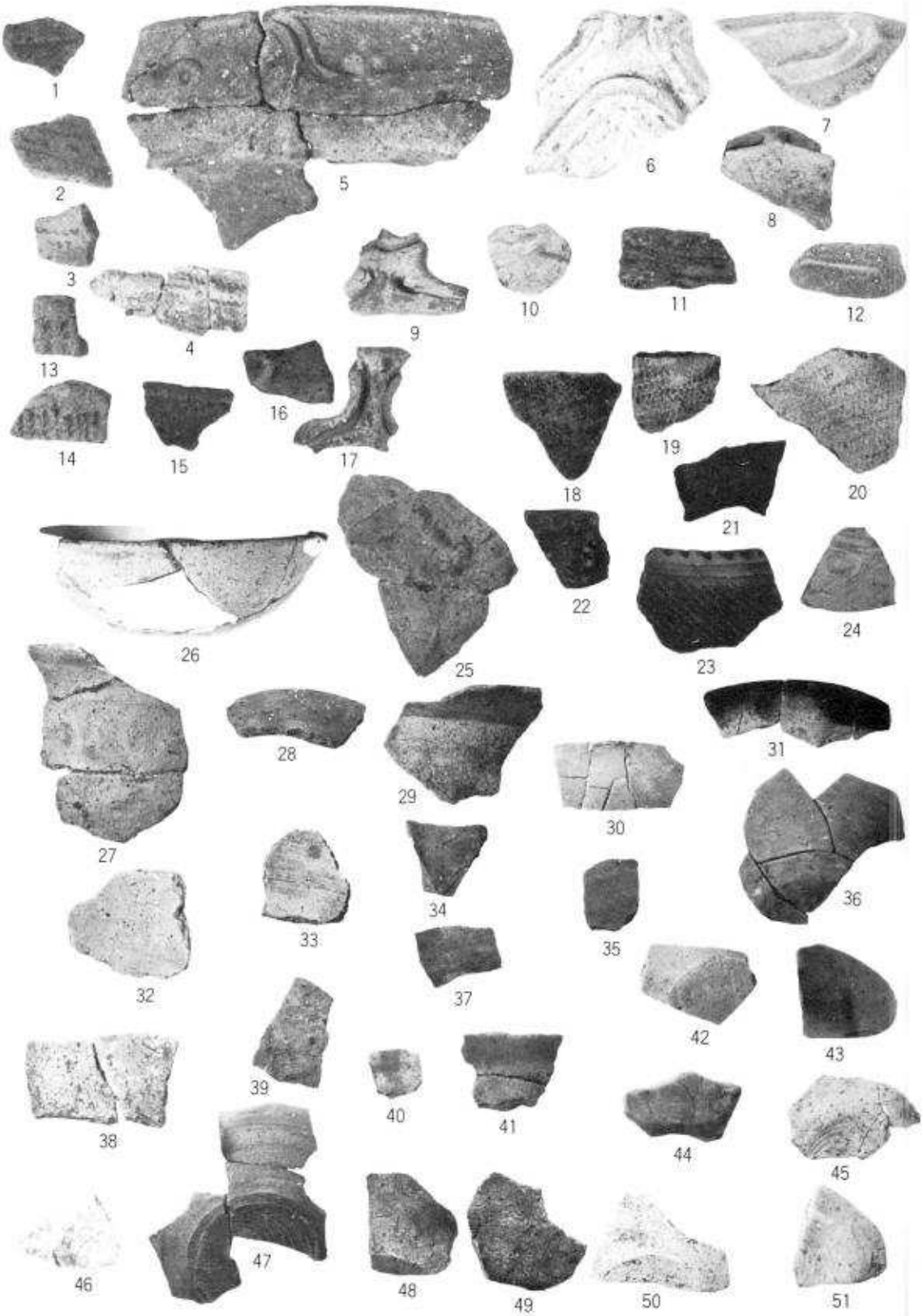
1：第2群1類a　2：第2群1類b　6：第2群2類b　3：第3群6類　4：第4群　5：第5群　7～10：第7群

図版24　Hブロック出土土器（1/4）



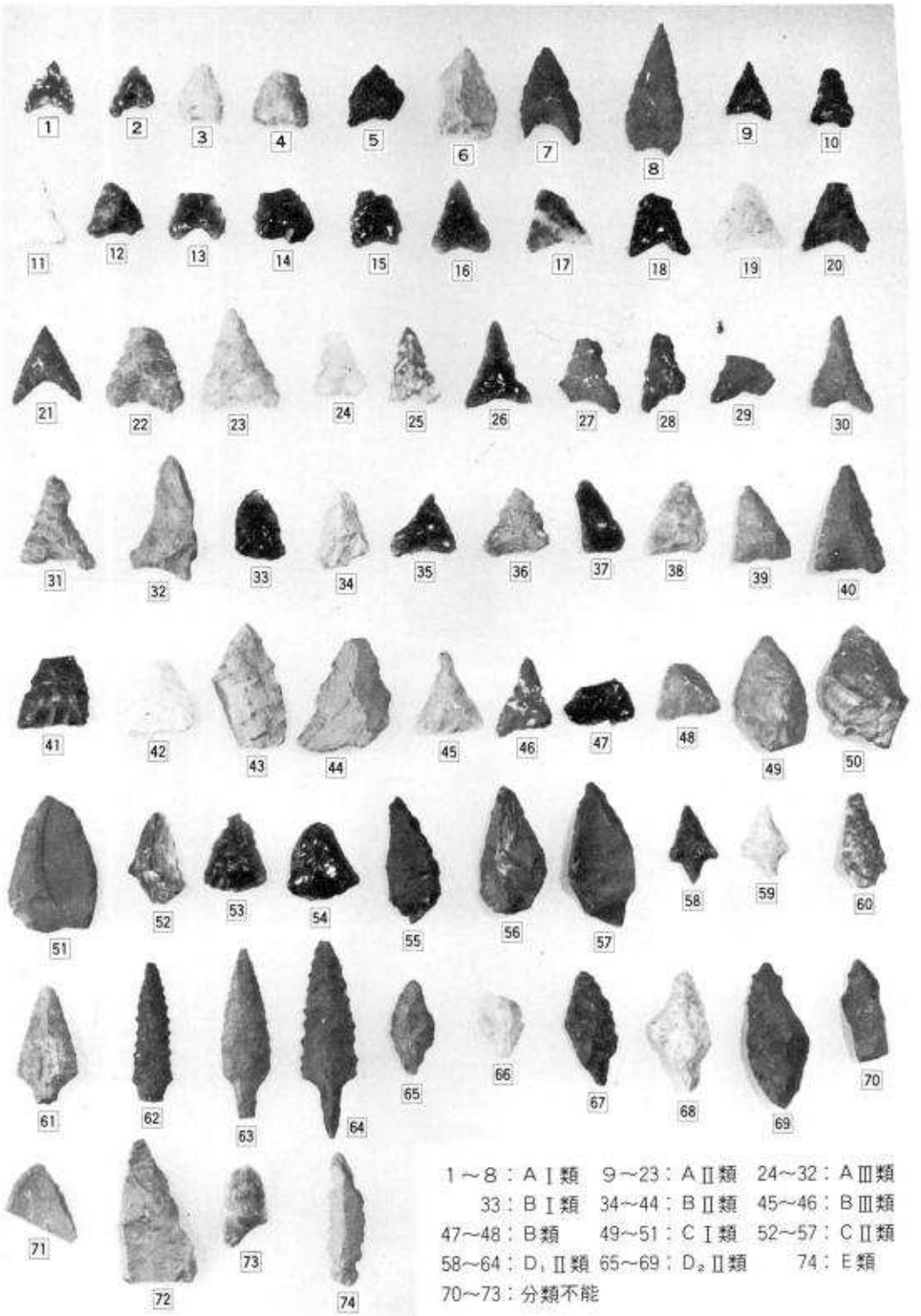
4：第2群3類a　1・8・9：第3群2類　3：第3群3類　2・5・6：第3群4類
10：第3群6類　7：第5群　11・12：　地点不明第5群　13・14：底部網代痕

図版25　Iブロック出土土器及び出土地点不明土器（1/4）



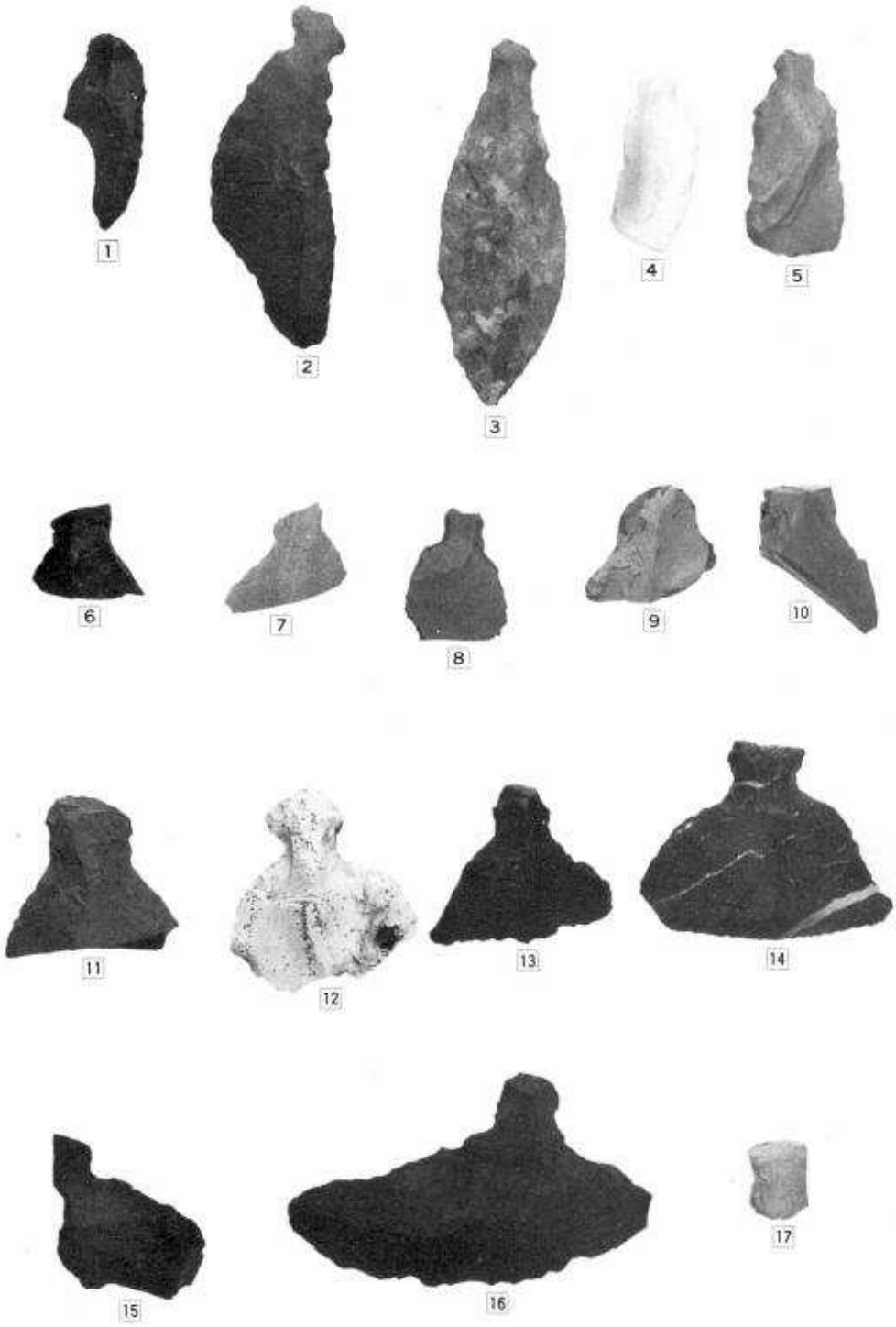
1～4：第2群1類　5～20：第3群　22～25：第7群　26：内黒坏
27～31：甕坏口縁部　32～40：体部　41～51：底部

図版26　2号住居跡出土土器（¼）



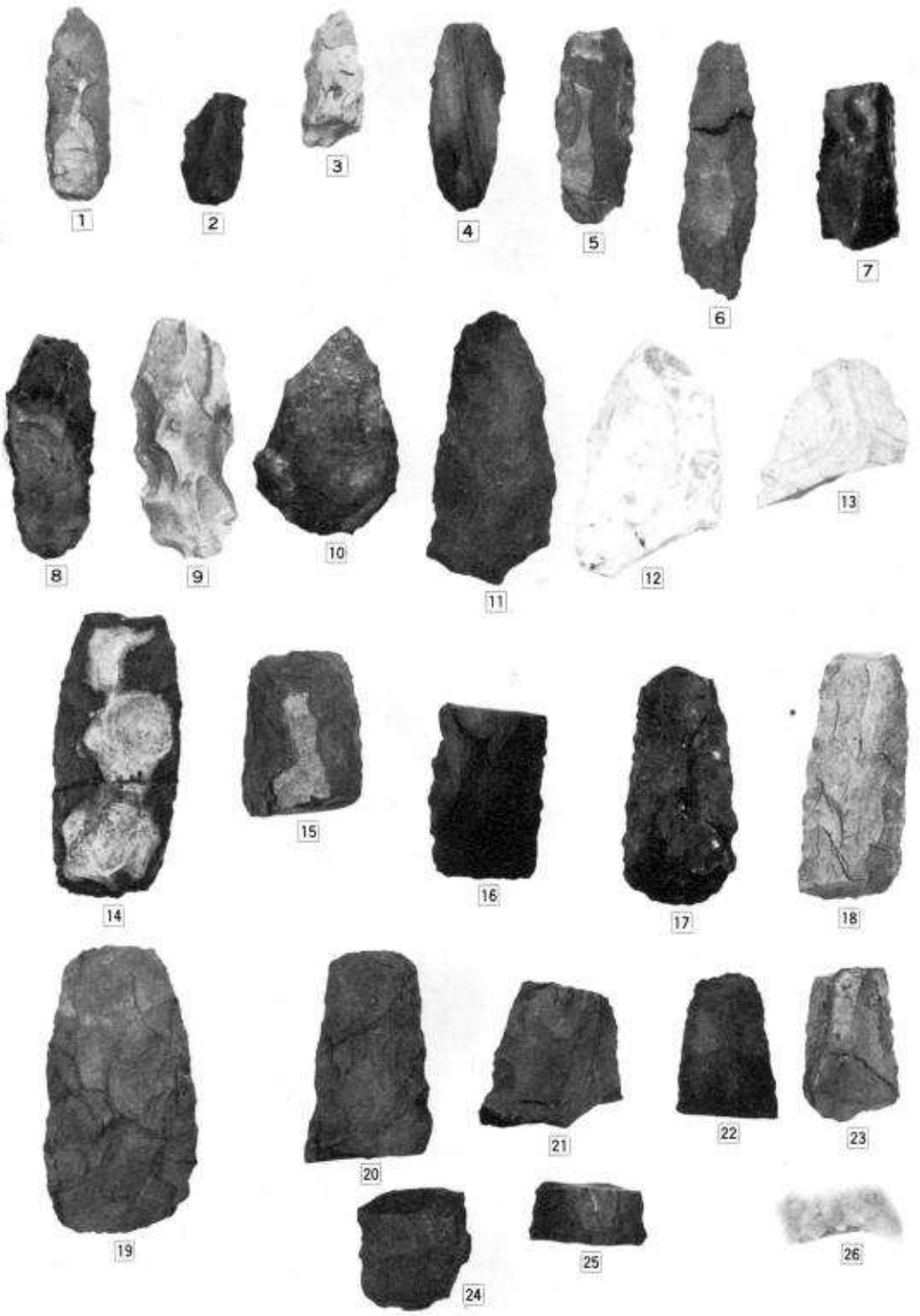
1～8：A Ⅰ類　9～23：A Ⅱ類　24～32：A Ⅲ類
33：B Ⅰ類　34～44：B Ⅱ類　45～46：B Ⅲ類
47～48：B類　49～51：C Ⅰ類　52～57：C Ⅱ類
58～64：D_1 Ⅱ類　65～69：D_2 Ⅱ類　74：E類
70～73：分類不能

図版27　剝片石器第1群（縮尺2/3）



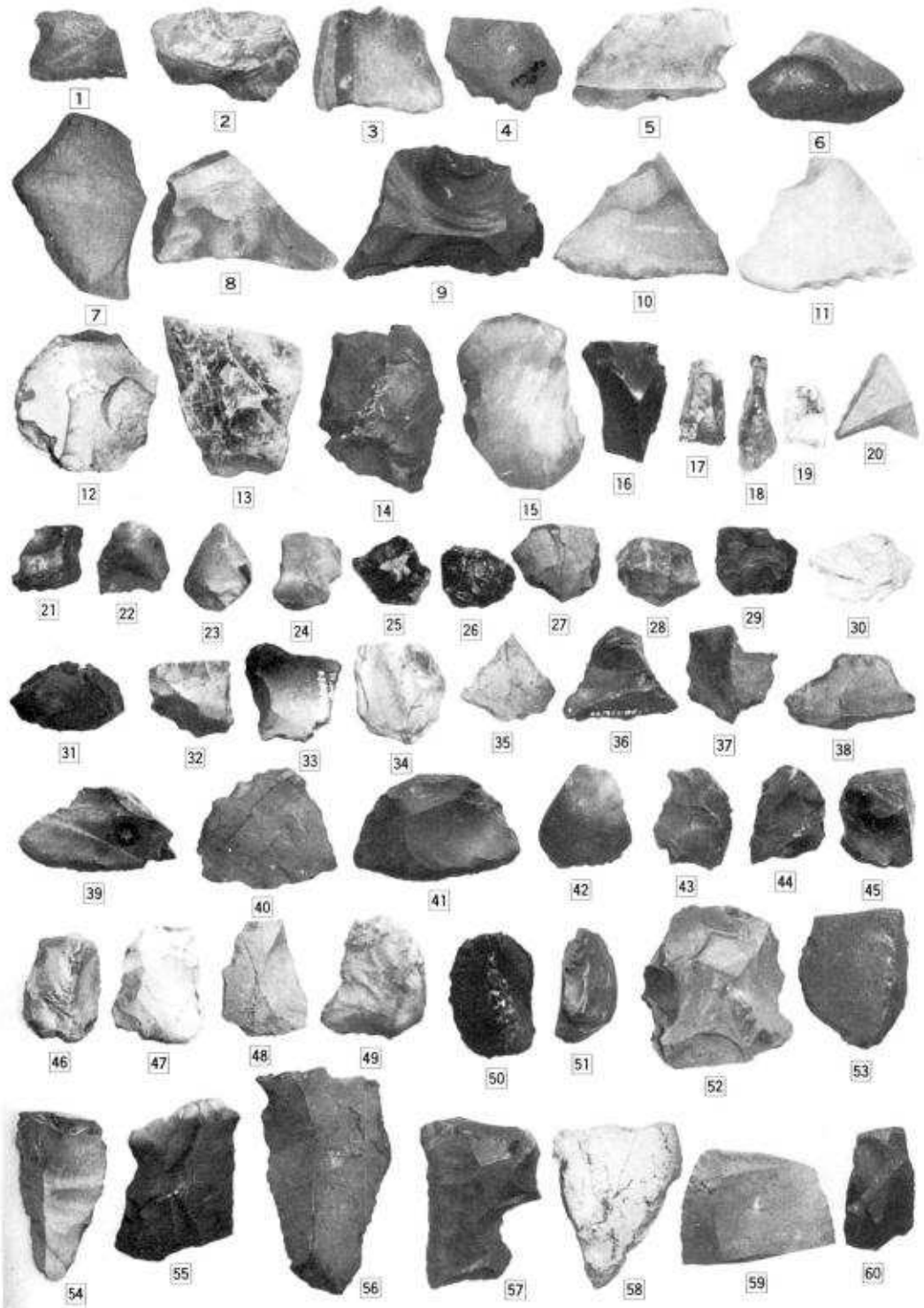
1～3：AⅠ類　4～5：AⅡ類　6～12：A類　13～16：BⅡ類　17：分類不能

図版28　剝片石器第2群（縮尺⅔）



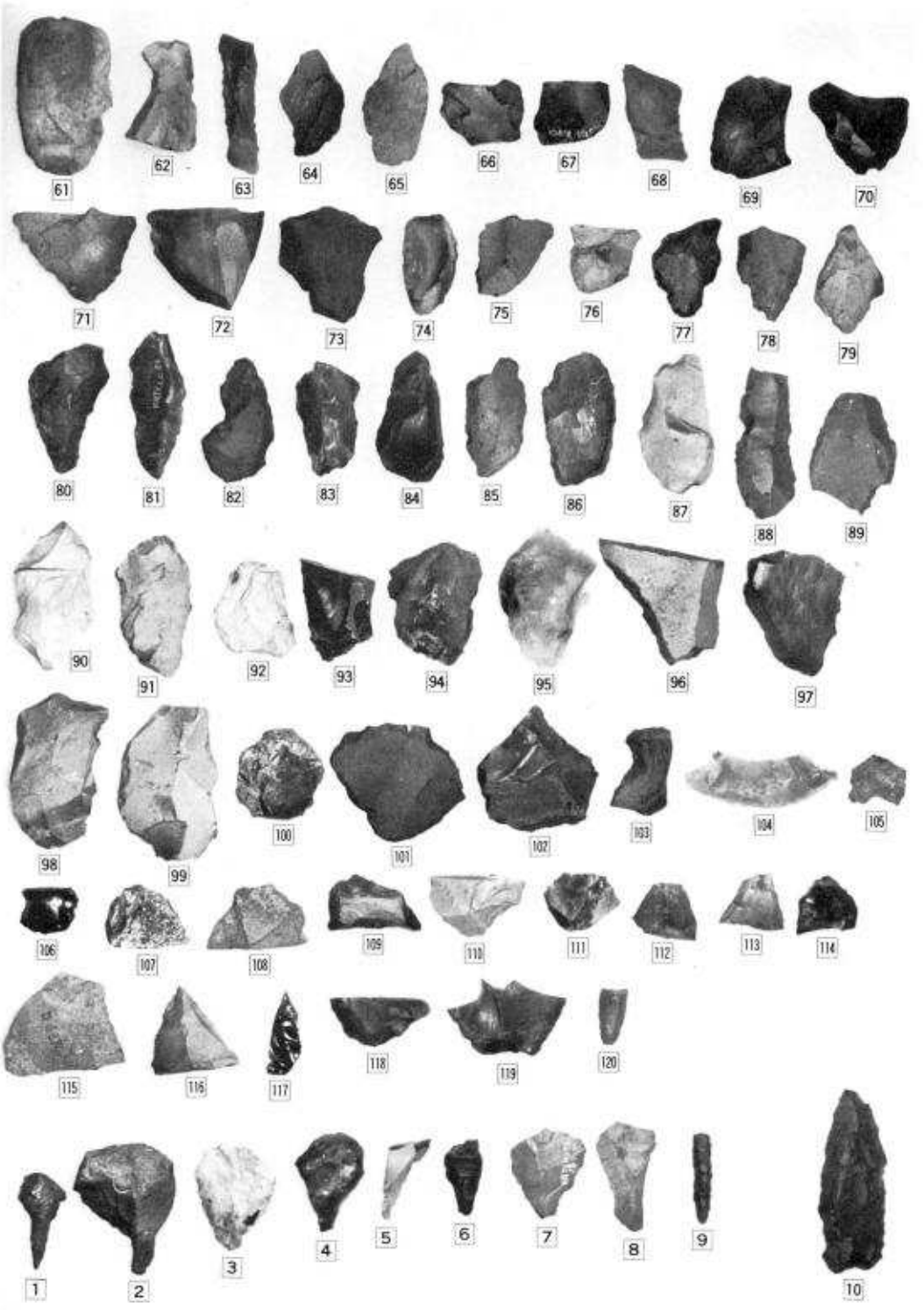
1～9：第1類　10～13：第2類　14～23：第3類　24～26：分類不能

図版29　剥片石器第4群（縮尺⅔）



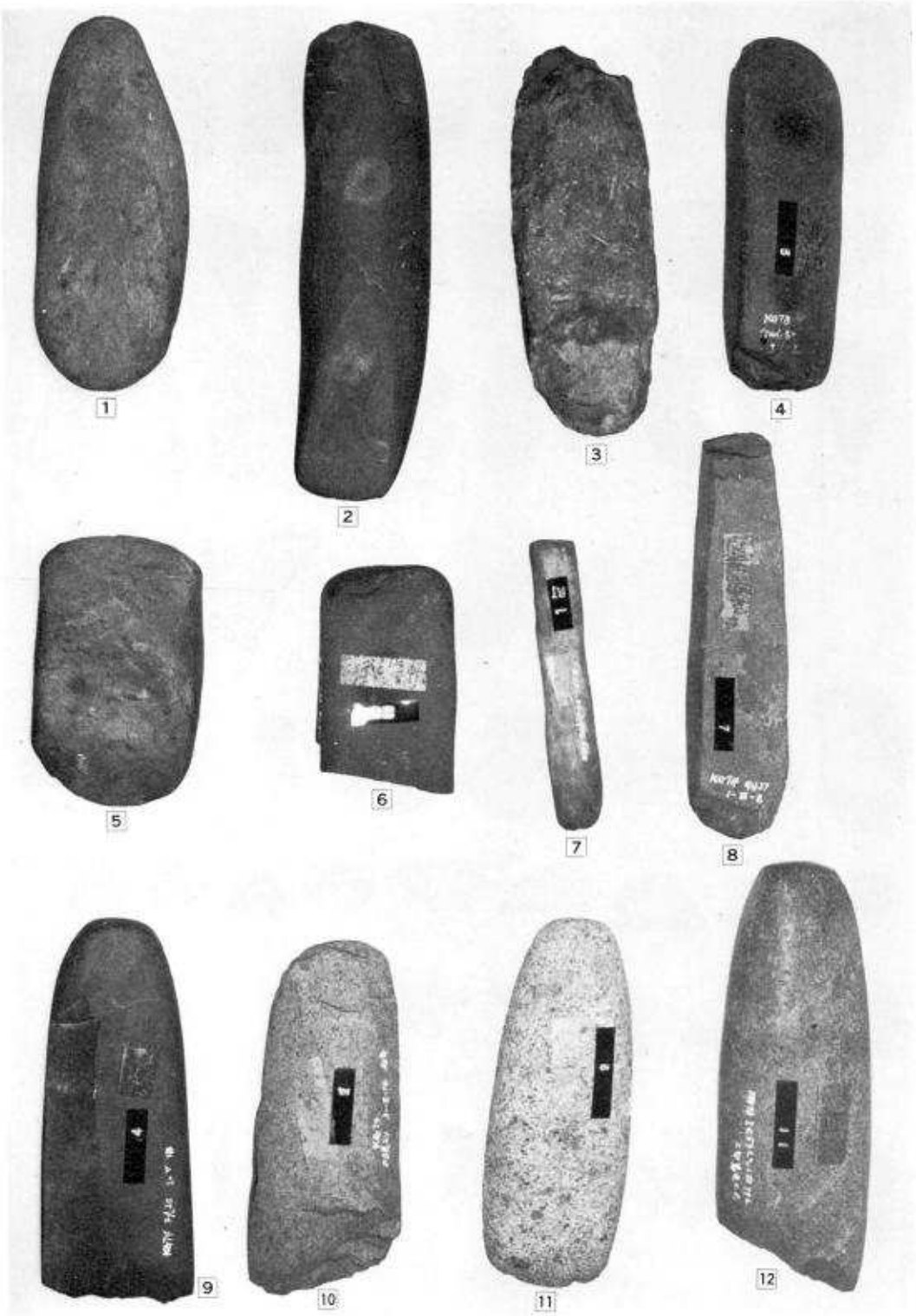
1～20：ＡⅠ類　21～52：ＡⅡ類　53～60：ＢⅠ類

図版30　剝片石器第５群（縮尺⅔）



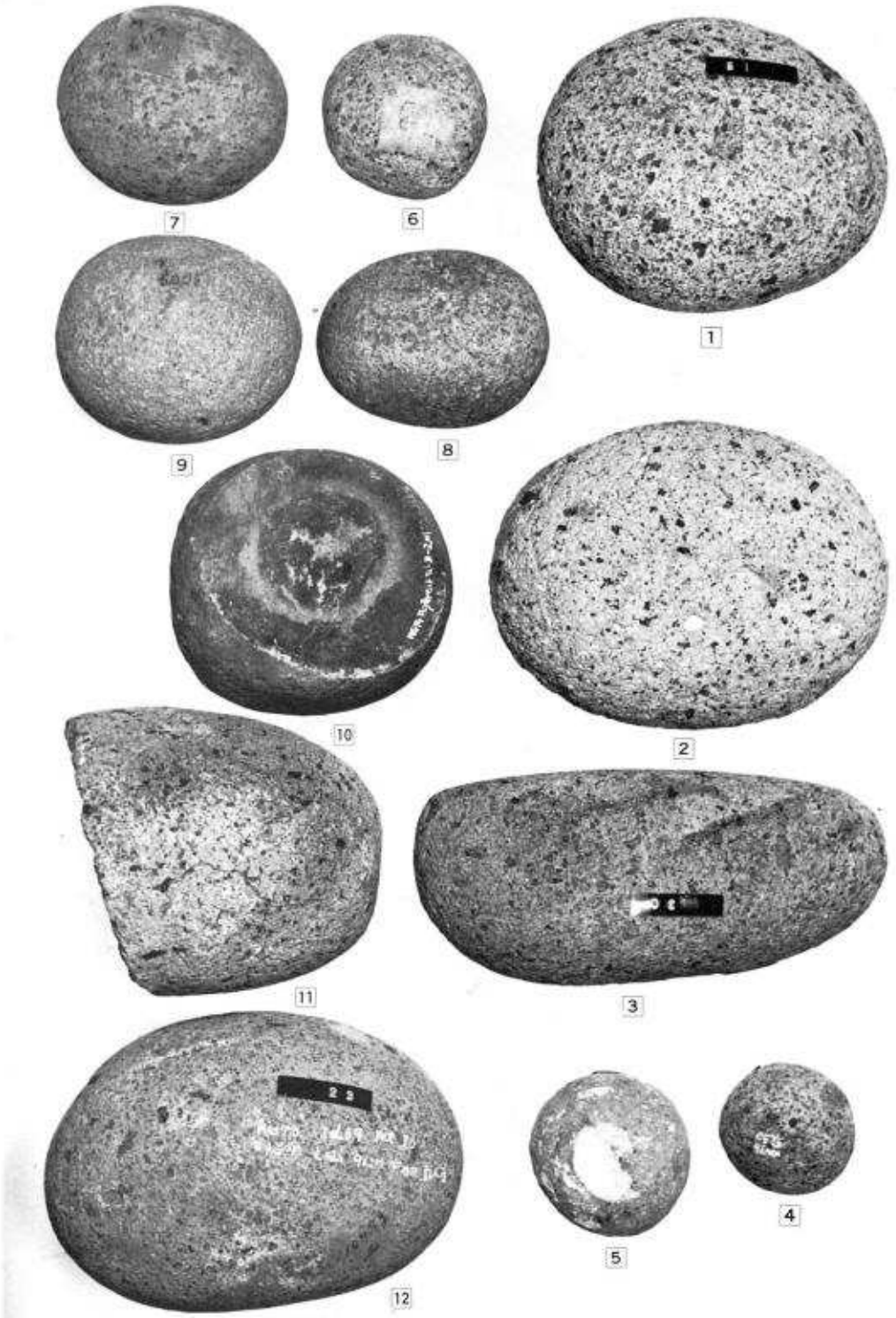
第5群　61～73：ＢⅠ類　74～102：ＢⅡ類　103～120：分類不能
第3群　1～3：ＡⅠa類　4：ＢⅡa類　5～8：ＢⅡb類　9：9類　10：石槍

図版31　剥片石器第5群・第3群



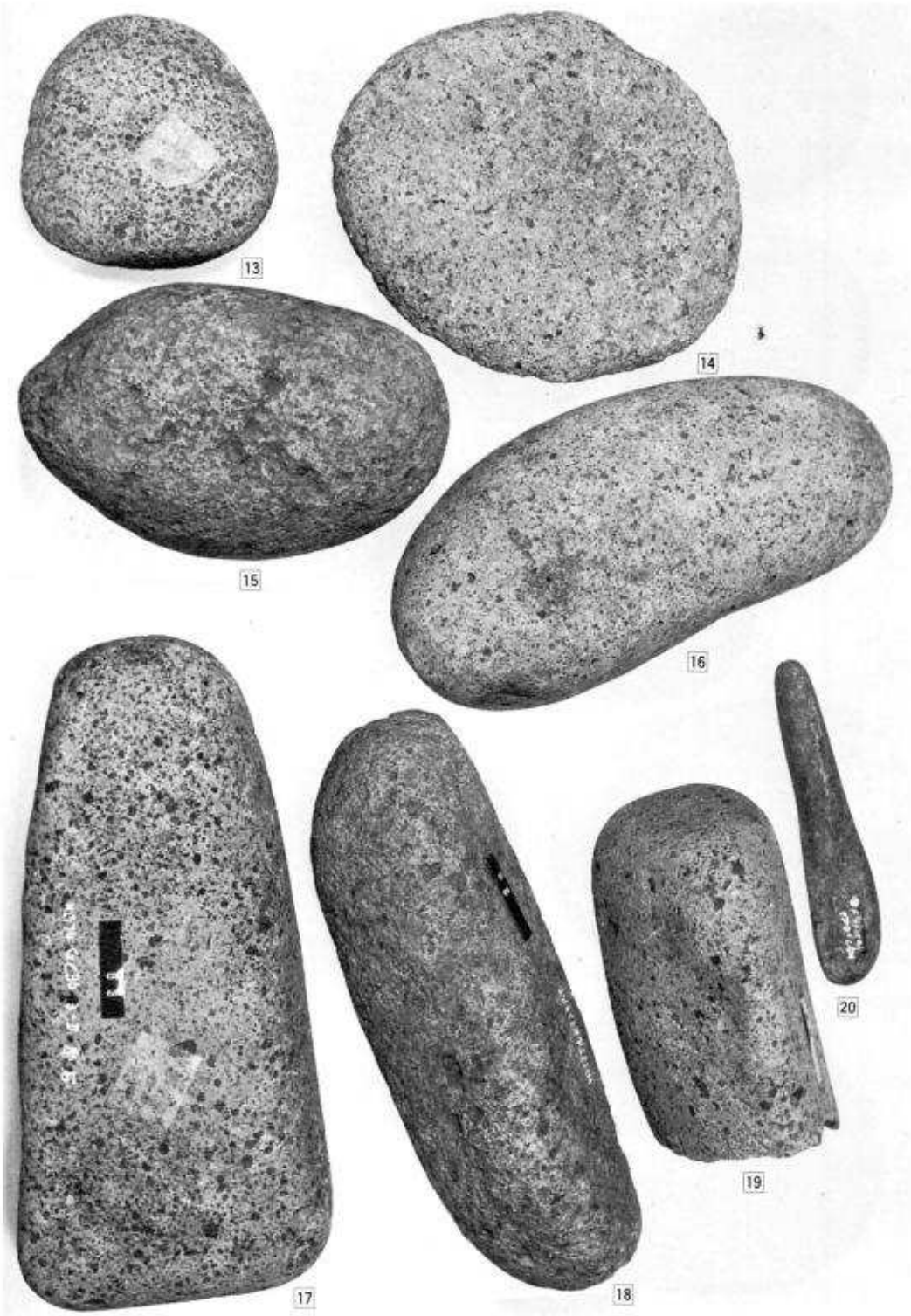
1～3：Ⅰa類　4・5：Ⅰb類　6～8：Ⅰc類　9：Ⅱc類　10～12：Ⅱd類

図版32　磨製石斧（縮尺½）

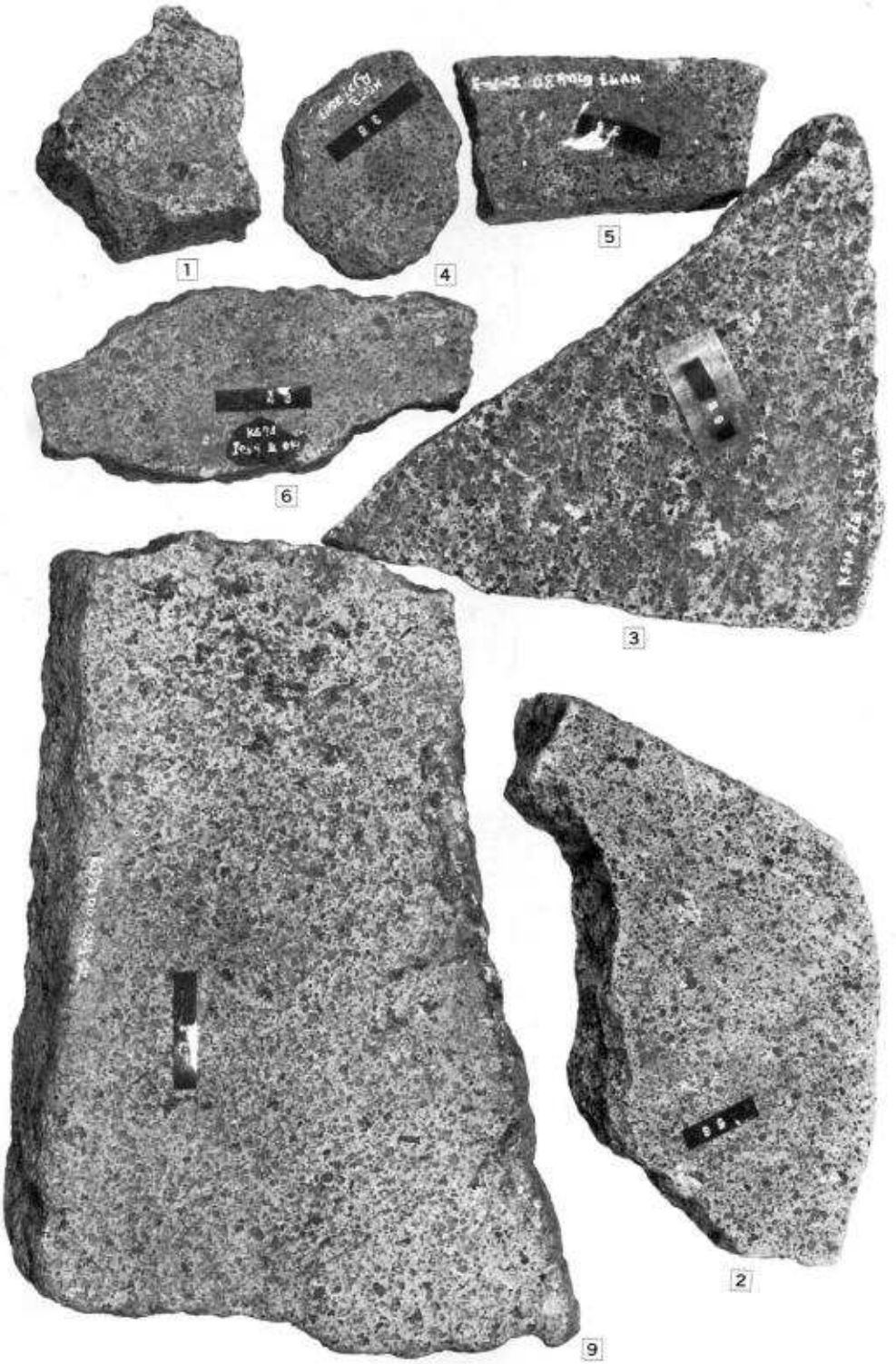


1～3：凹石　4～12：磨石1類

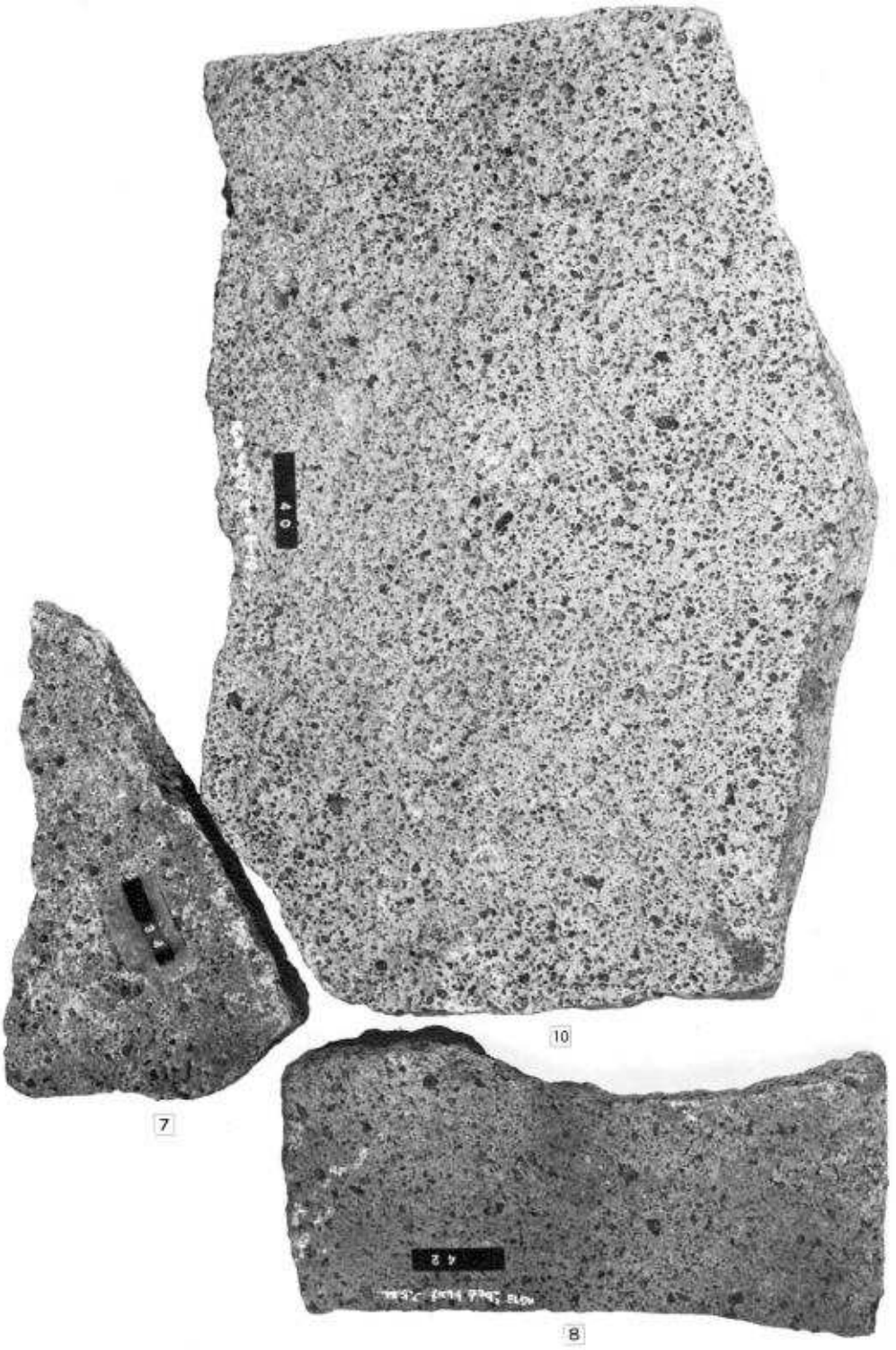
図版33　凹石・磨石（縮尺⅓）



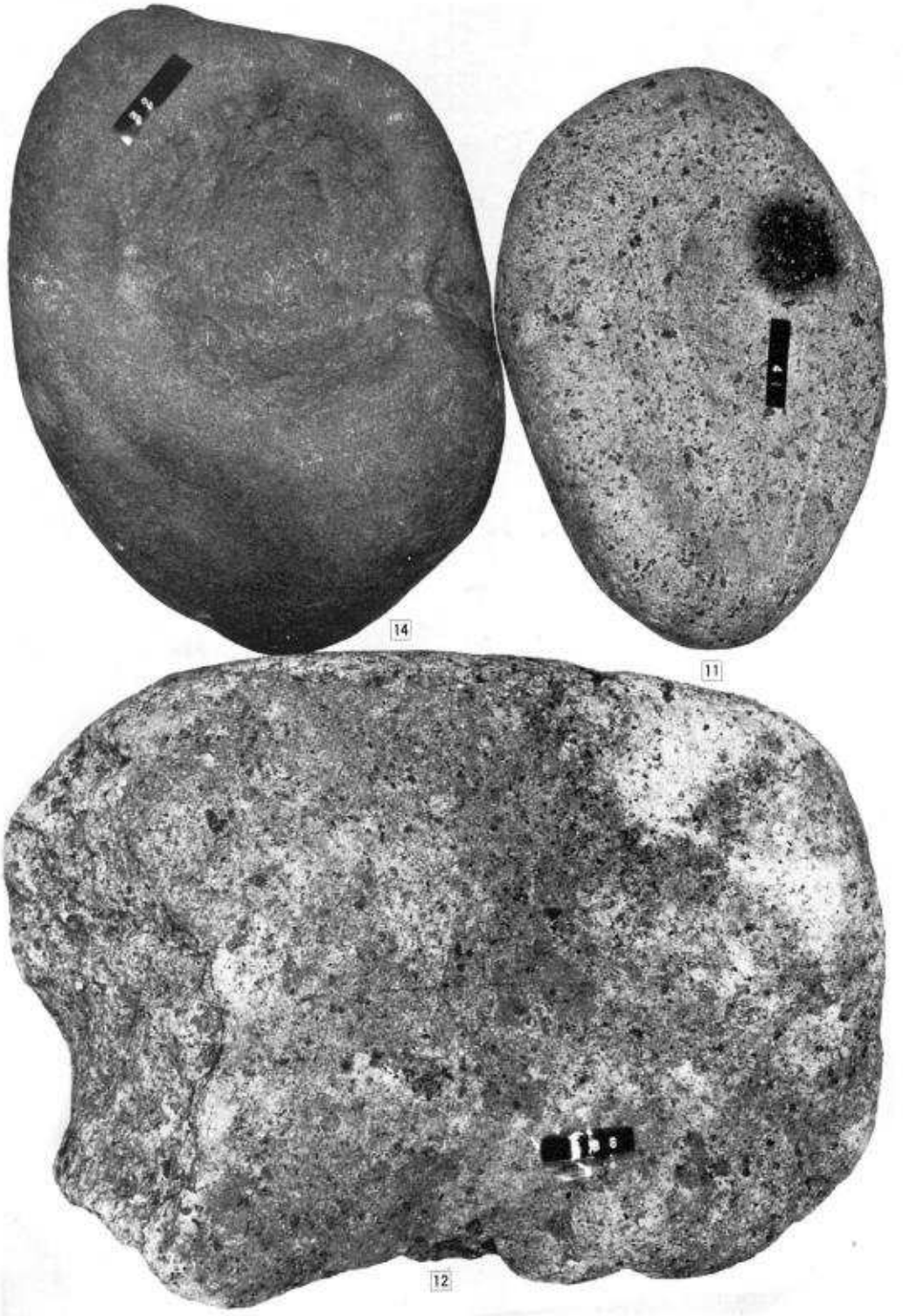
13～17：第2類　18・19：第3類　20：すり棒
図版34　磨石（縮尺½）



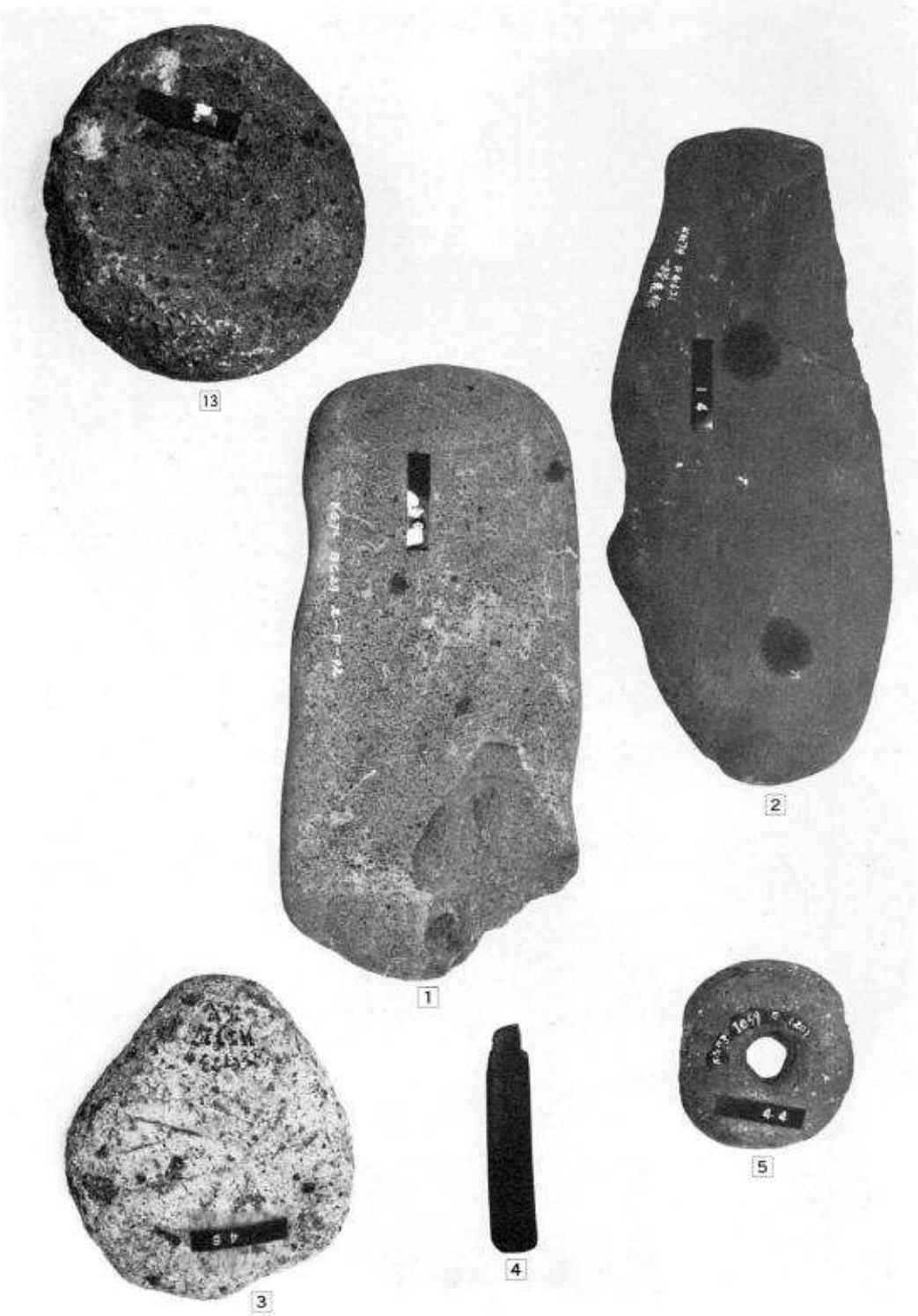
図版35　石皿等（縮尺1/2）



図版36　石皿等（縮尺½）

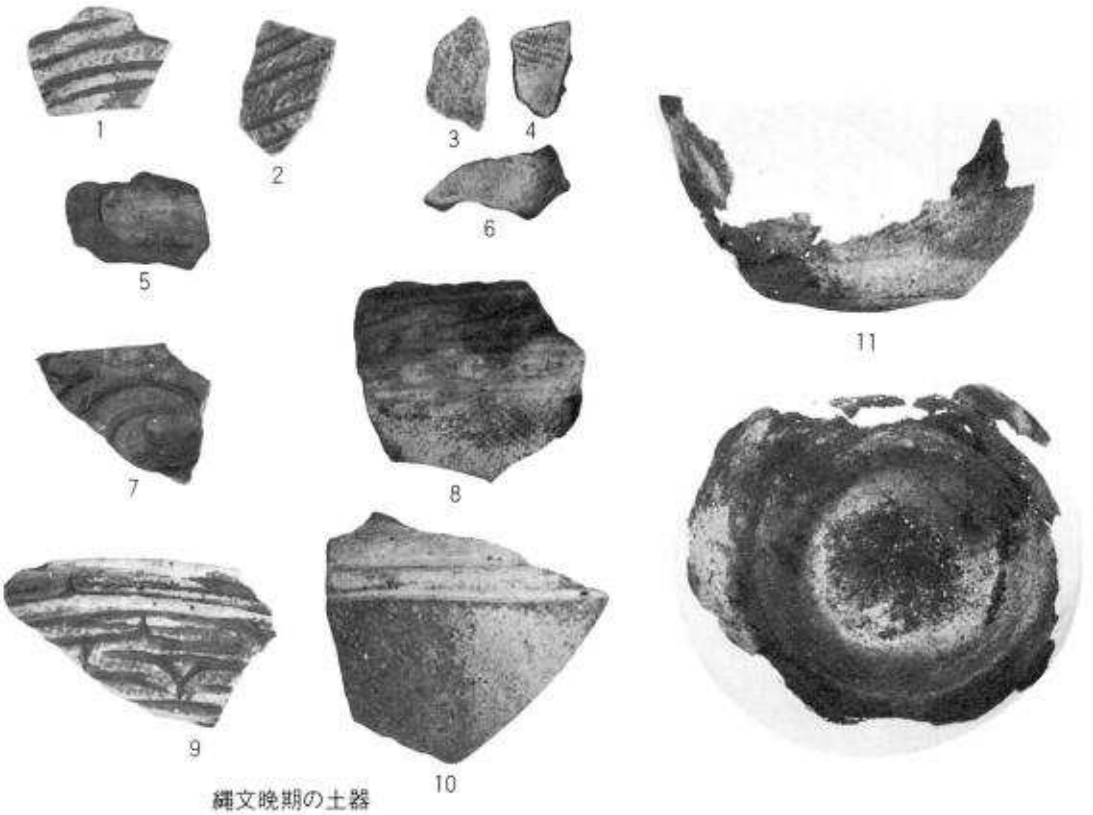


図版37　石皿等（縮尺½）

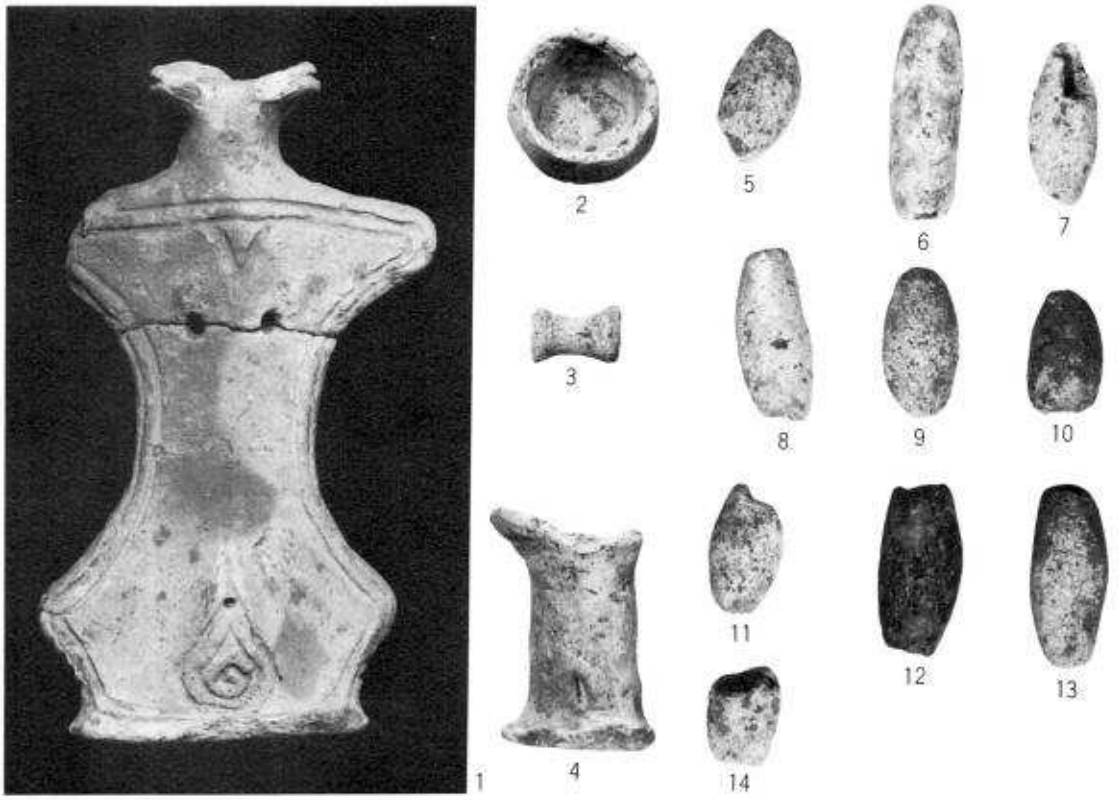


13：石皿等　1・2：両刃石器　3：研磨溝ある石器　4：抉状耳飾　5：有孔石製品

図版38　石皿・両刃石器・研磨溝ある石器・抉状耳飾・有孔石製品（縮尺½）

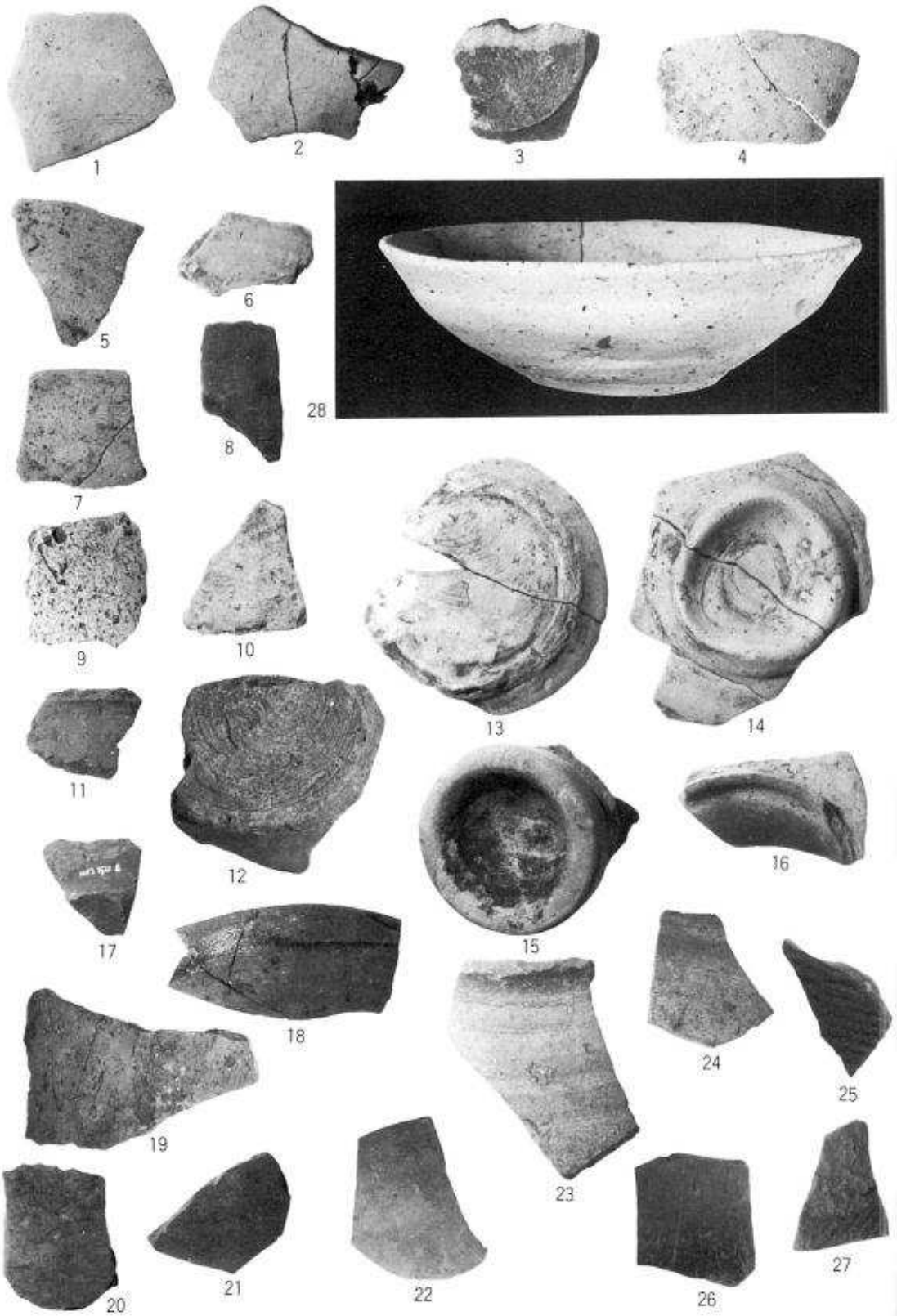


縄文晩期の土器



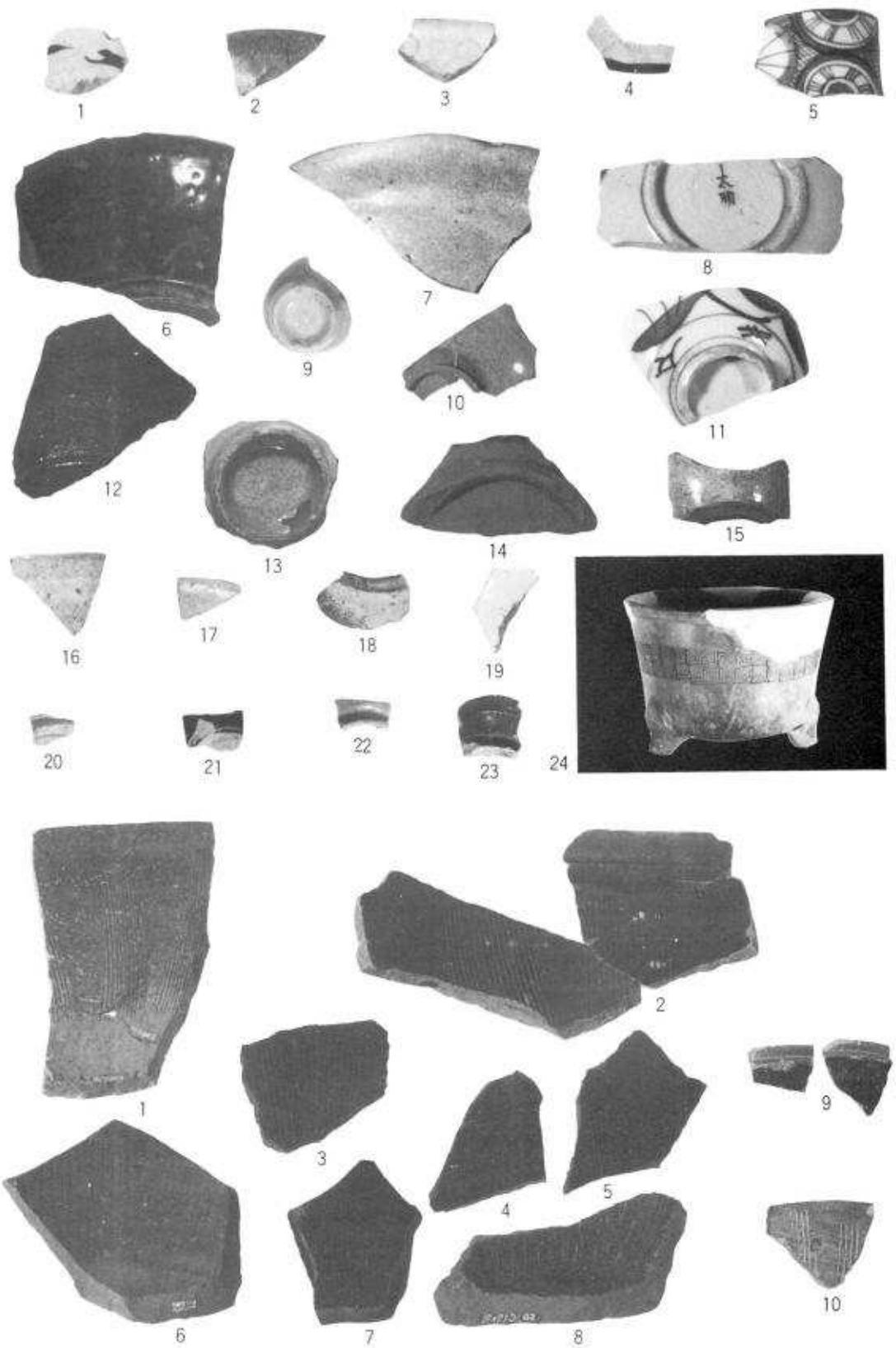
土製品　1：土偶完形品　2：小形手づくね土器　3：耳栓　4：土偶の足部？　5～14：土錘

図版39　縄文晩期土器・土製品（½）



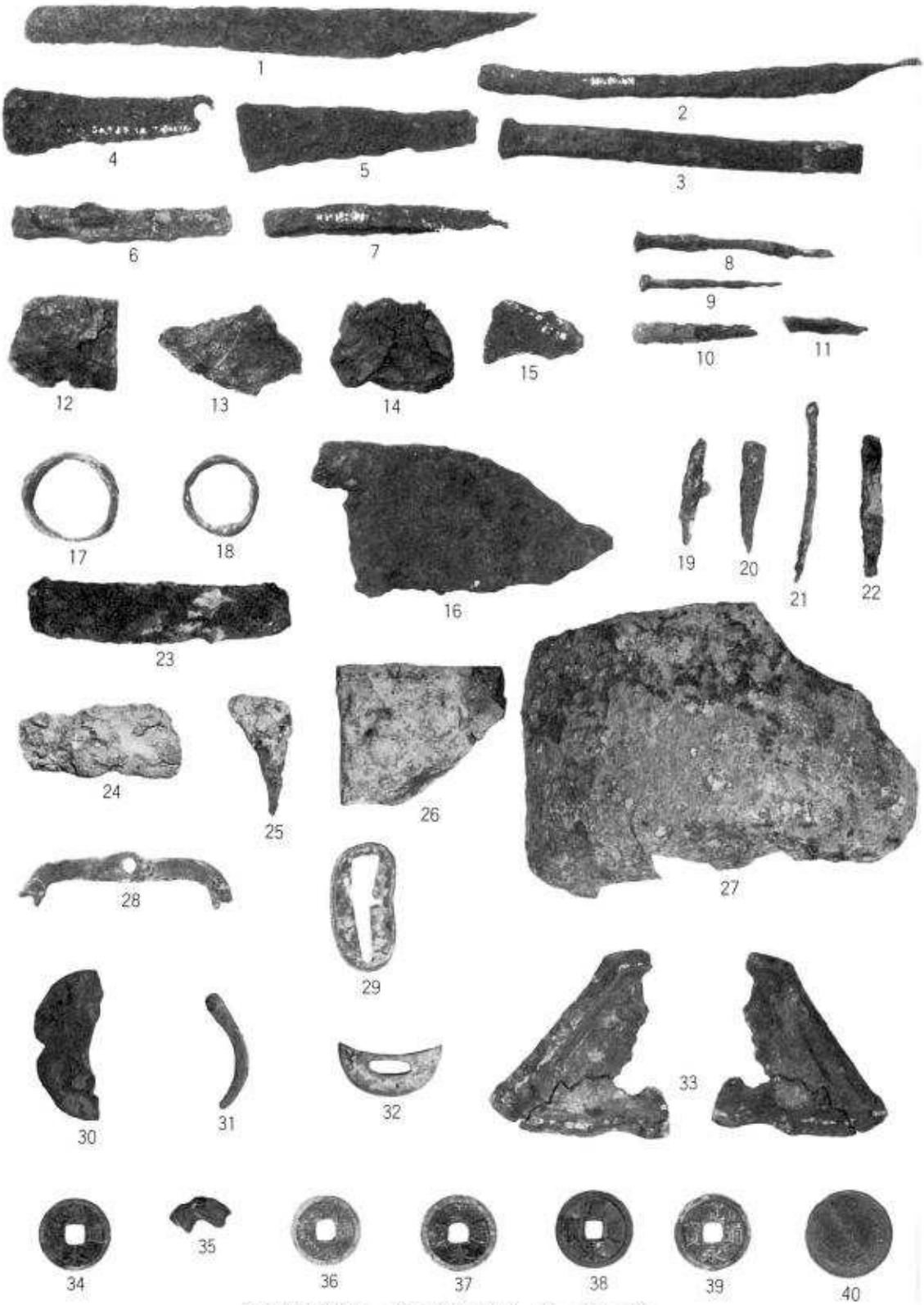
1～4：内黒坏　5～8·28：土師質坏　9～12：土師の甕　13～16：高台坏
17～18：須恵坏　19～27：須恵器の壺や甕

図版40　各地区出土土師、須恵器（3/4）



1～24：陶磁器　下半の1～10：擂鉢

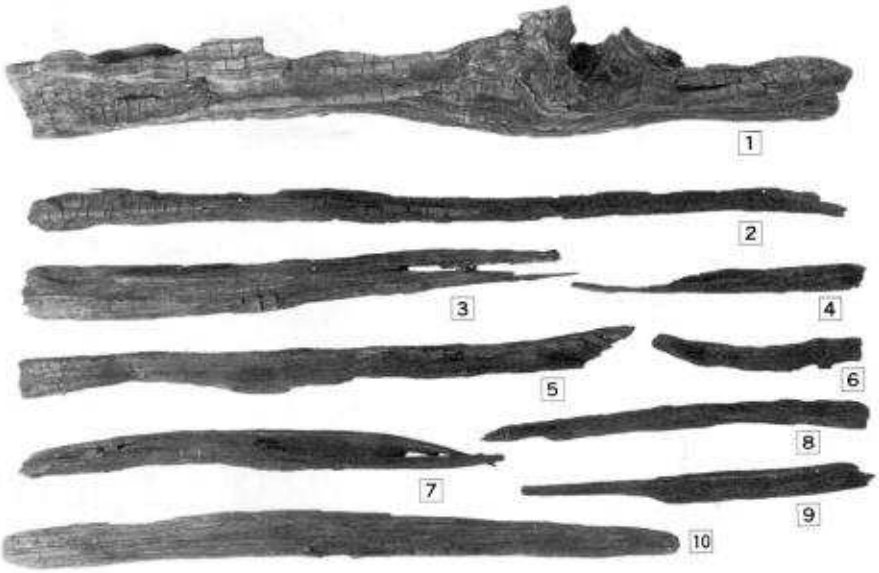
図版41　主要陶磁器・擂鉢（1/3）



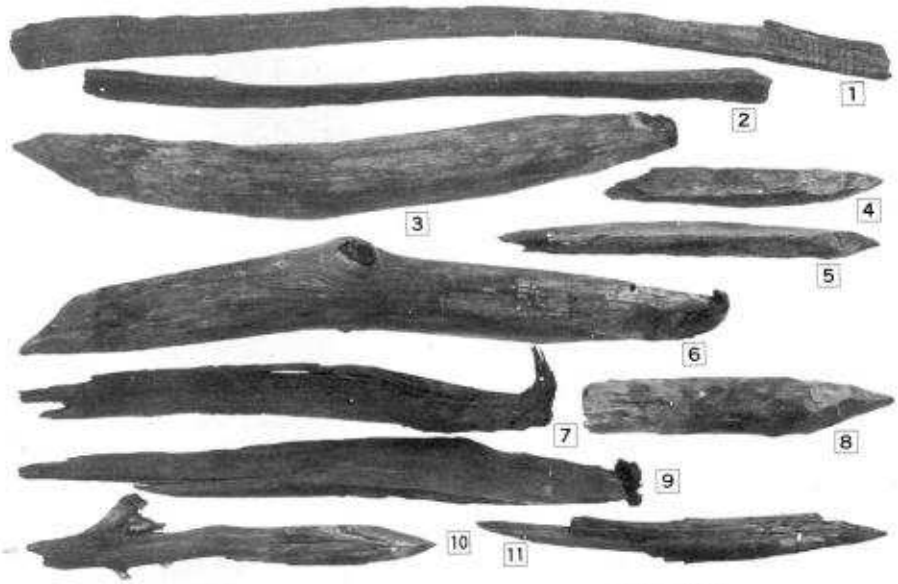
1～27：鉄製品　28～33：銅製品　34～40：古銭

図版42　主要金属製品（½）

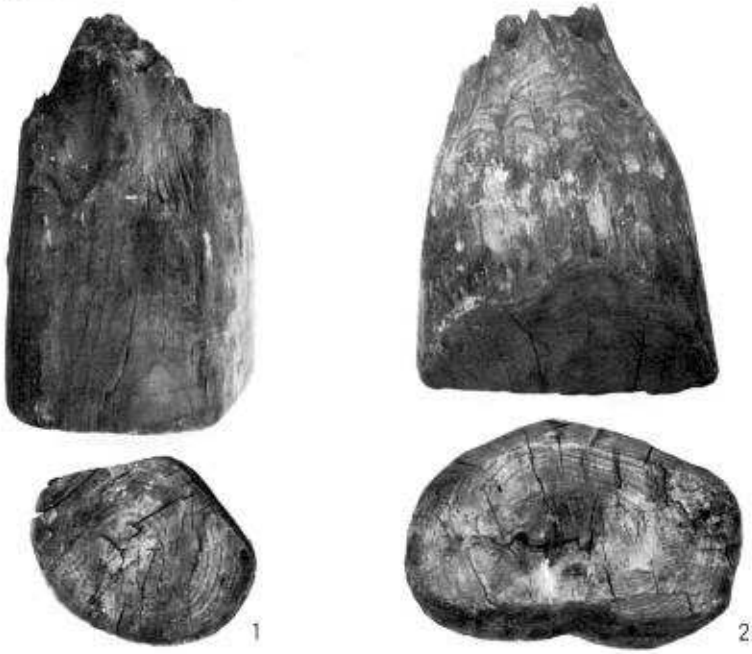
木材（1）（1/6）



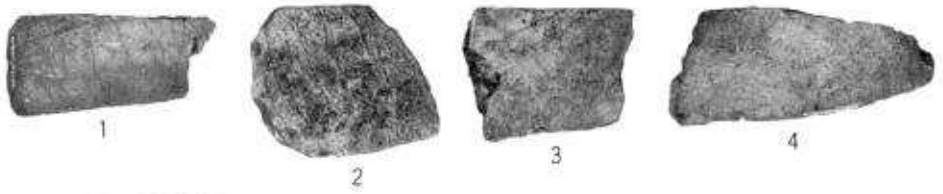
木材（2）（1/6）



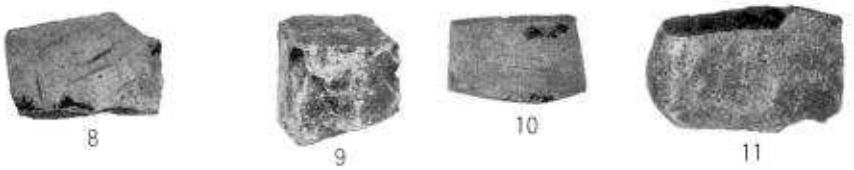
木材（3）（1/10）

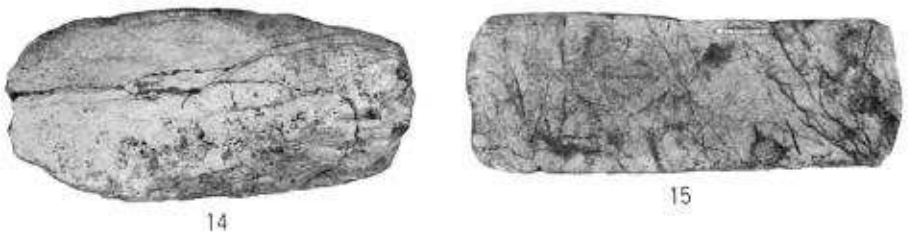


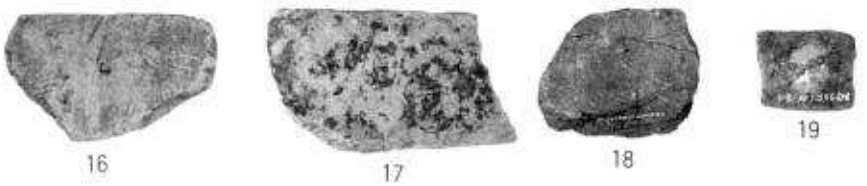
図版43



砥石（1/3）







石製品（1/4・1/6）

図版44

衣川柵擬定地

遺跡遠景（北方より南方をのぞむ）
中央の低地が小成沢
右手（西方）の高地が衣川柵擬定地
左手（東方）の高地が小松柵

図版１　衣川柵擬定地

1

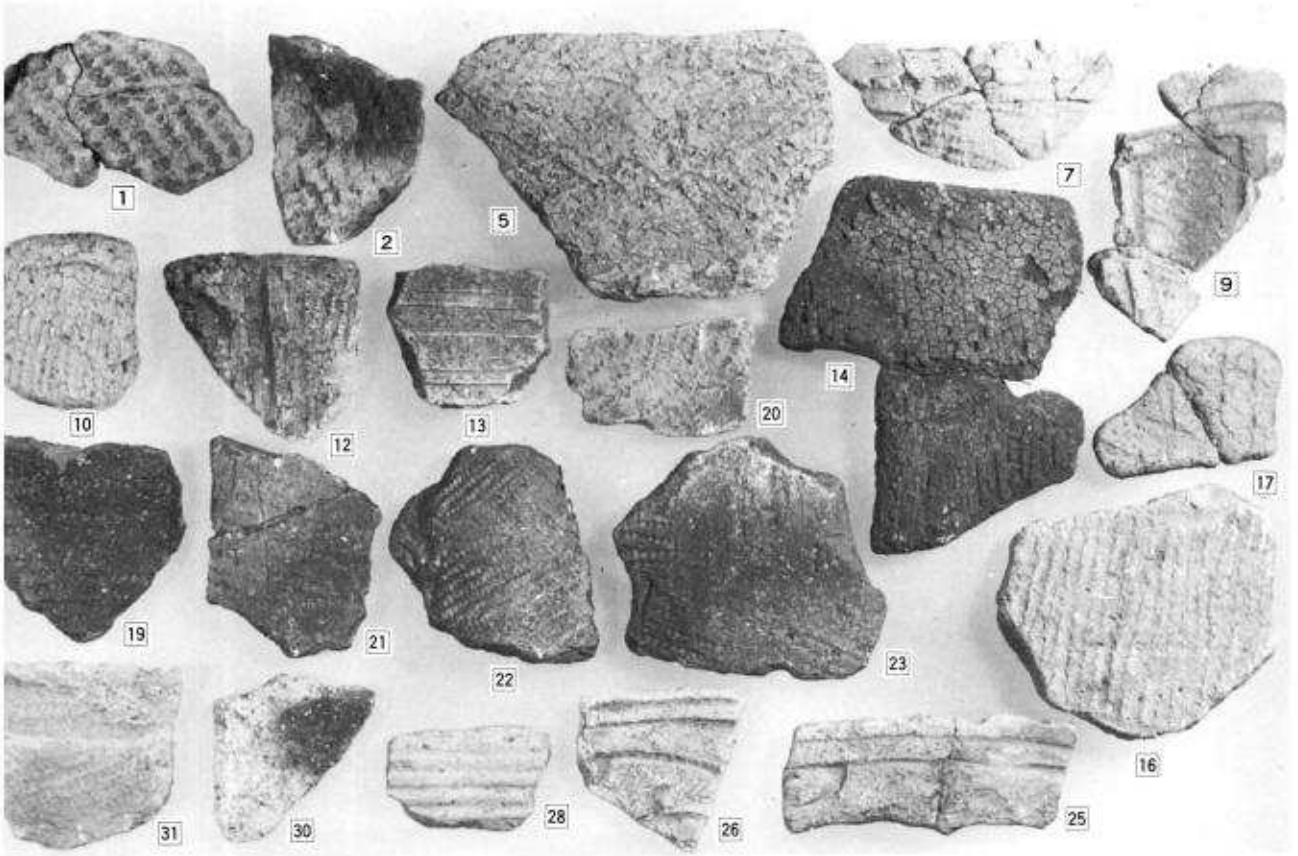
2

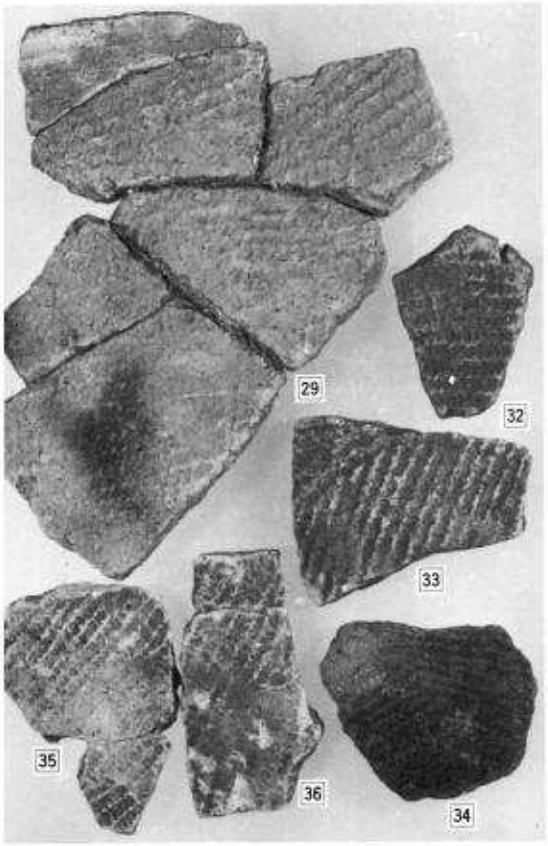
3

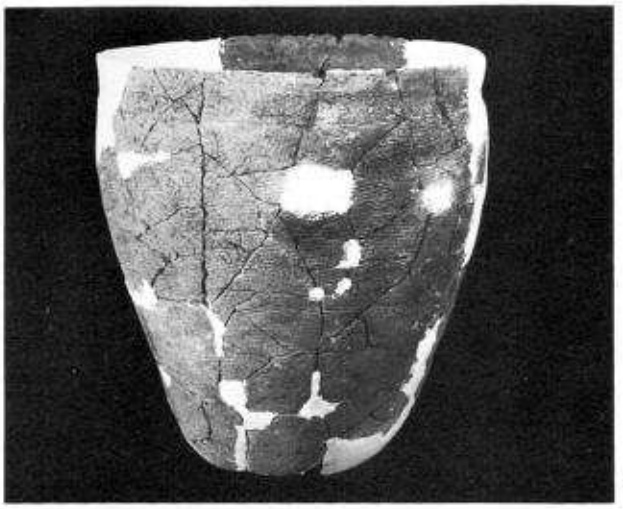
4

1：大沢遺跡全景　2：掘立柱建物跡　3：柱穴（P9）　4：埋設土器出土状況

図版 1

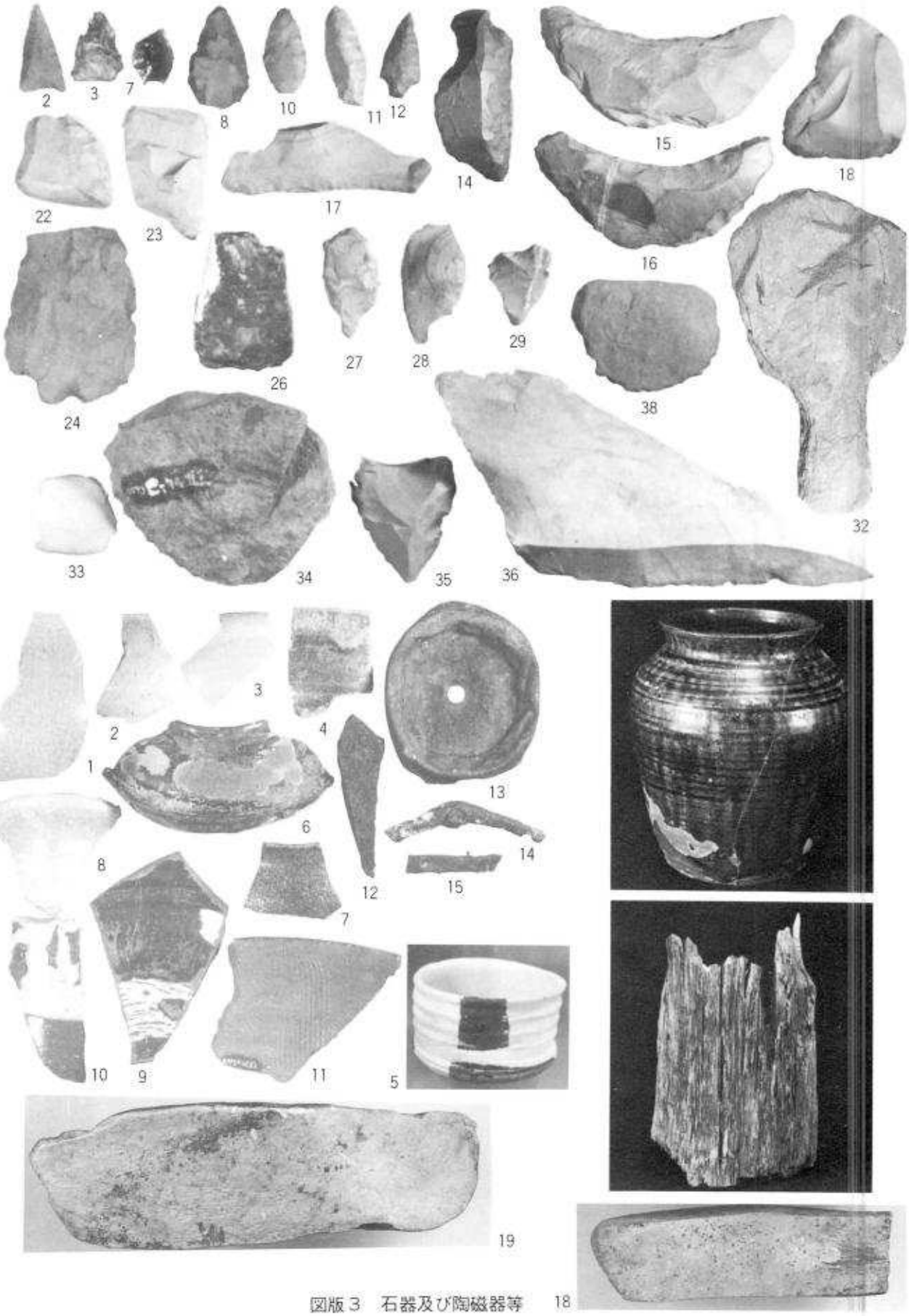




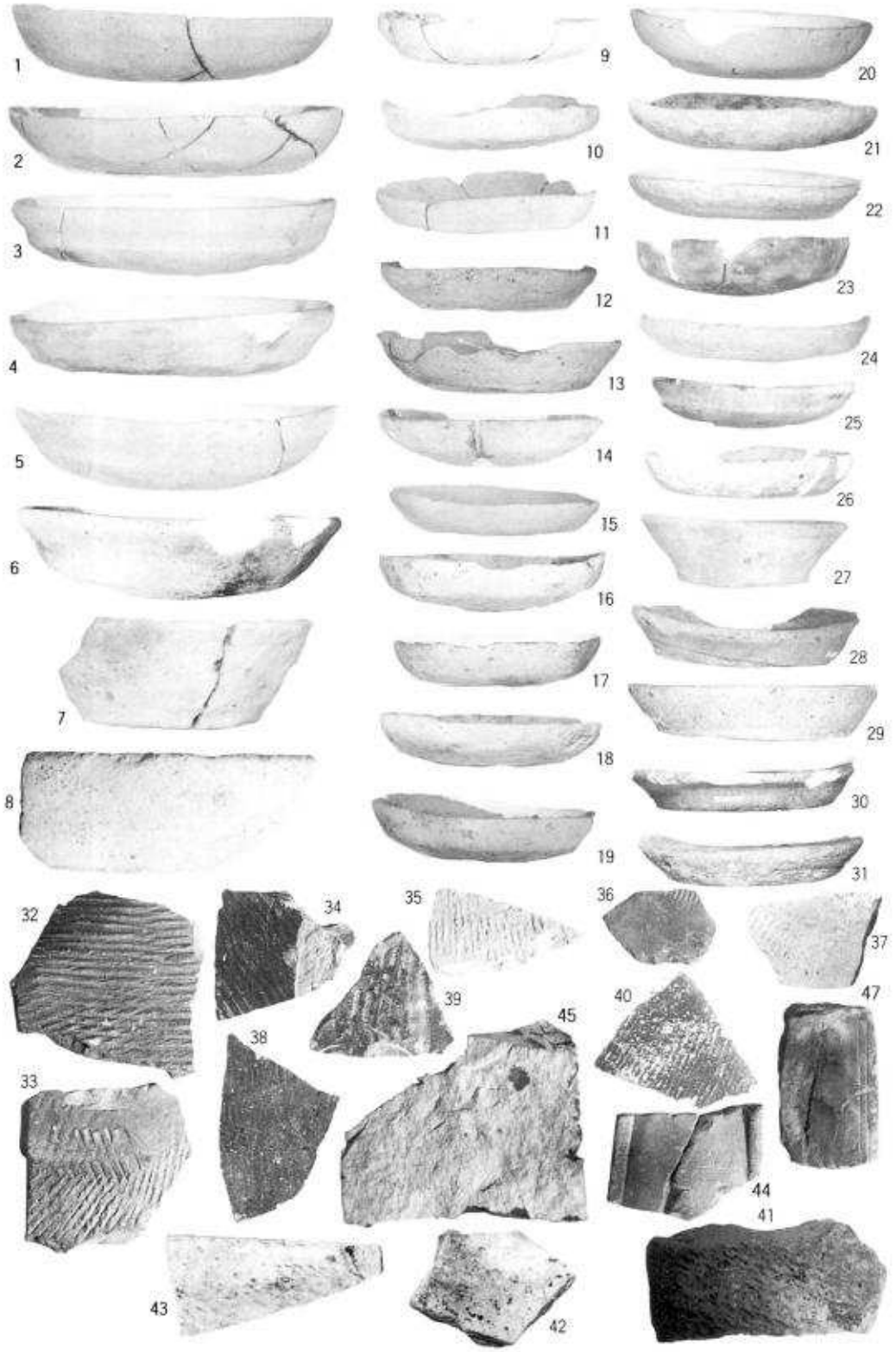

1

2

図版２　縄文土器

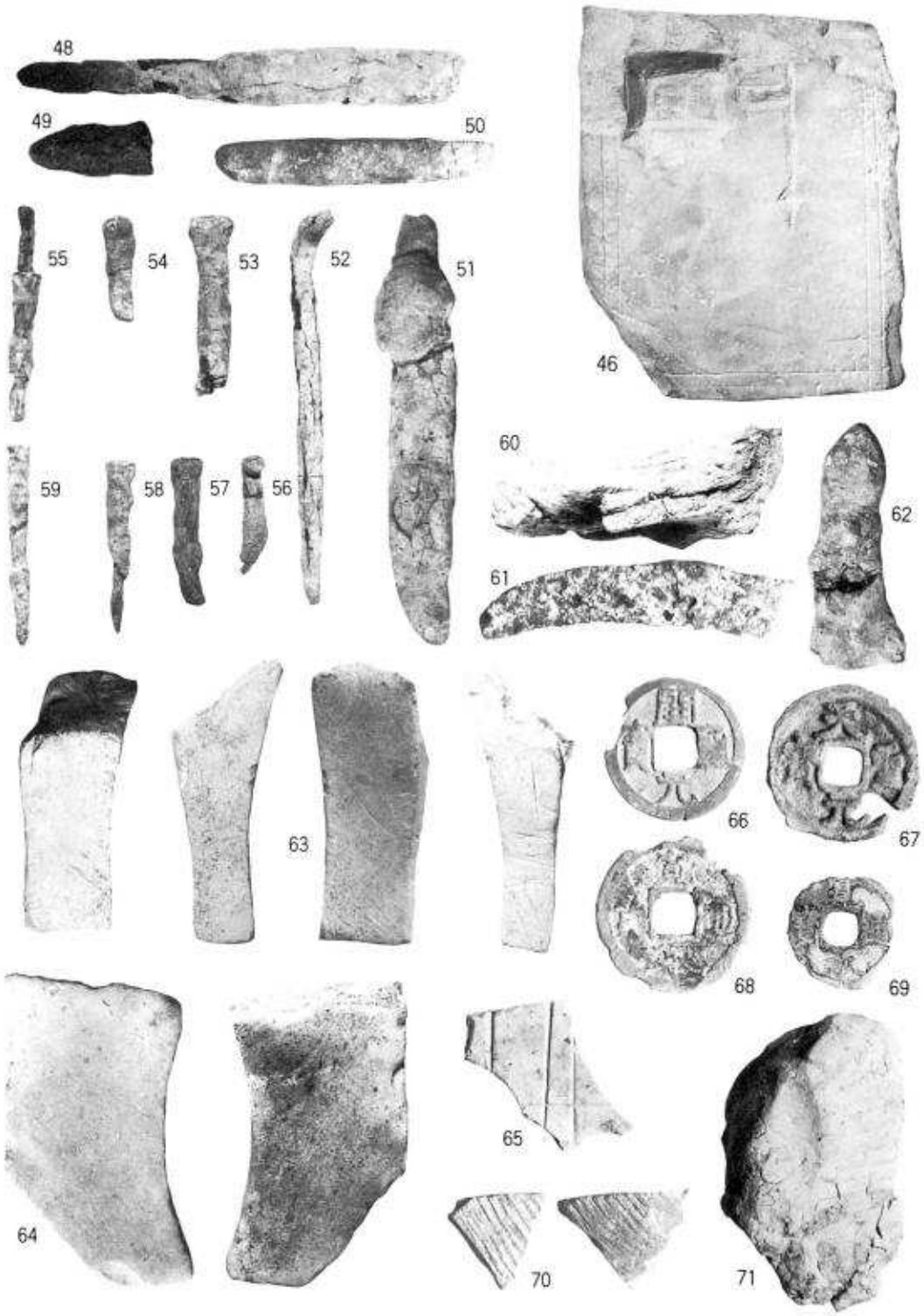


図版３　石器及び陶磁器等　18



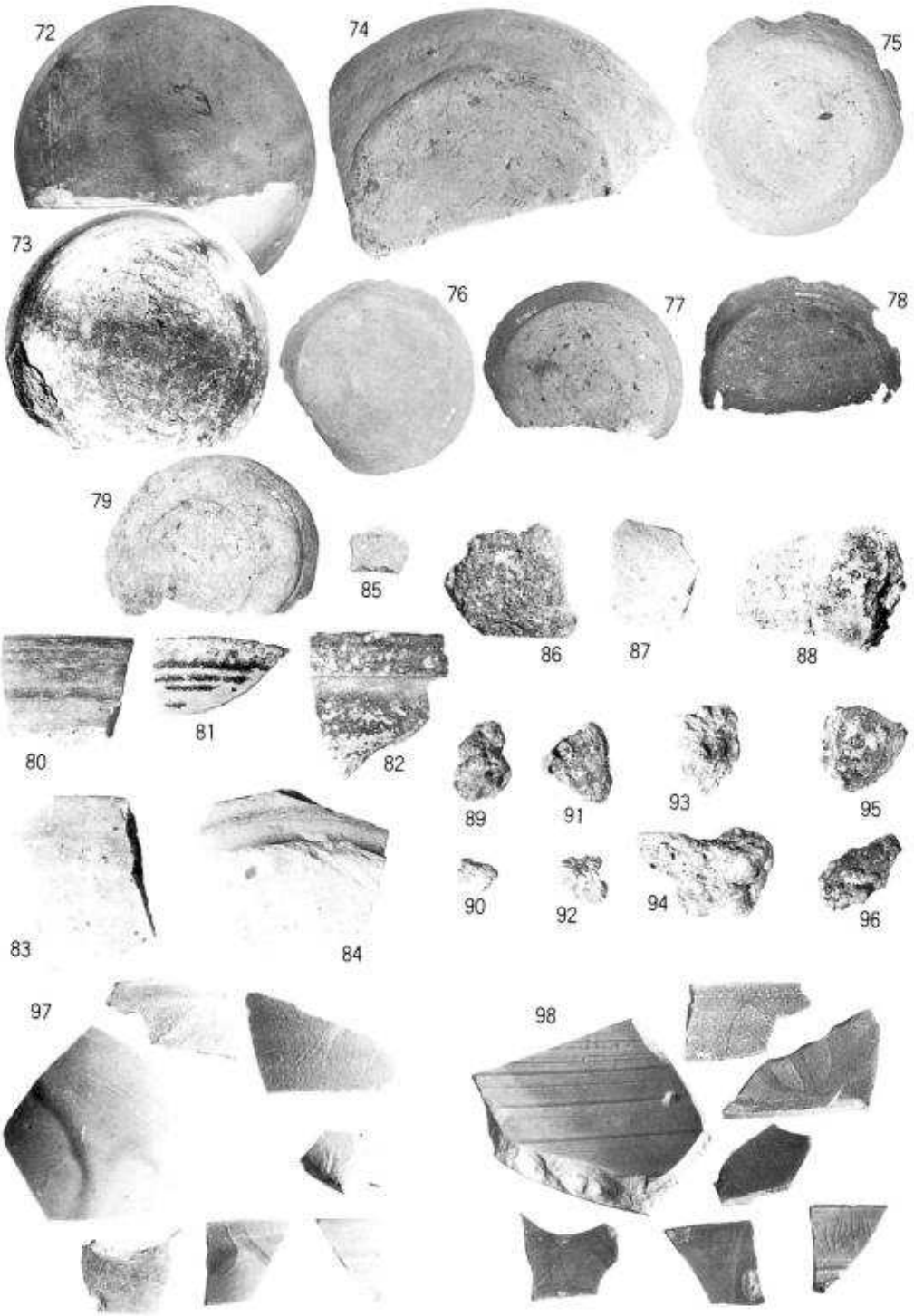
1～47：実測図番号と同じ

図版１　毛越Ａ南西側出土遺物Ⅰ



46～69：実測図番号と同じ　70：須恵器　71：貝化石

図版２　毛越Ａ南西側出土遺物Ⅱ



72：3の下底面　73：6の下底面　74：8の下底面　75：13の下底面　76：28の下底面
77：29の下底面　78：30の下底面　79：31の下底面　80～83：陶器口縁部
84：陶器底・高台部　85～88：ふいご羽口　89～96：鉄滓　97：磁器外面　98：磁器内面

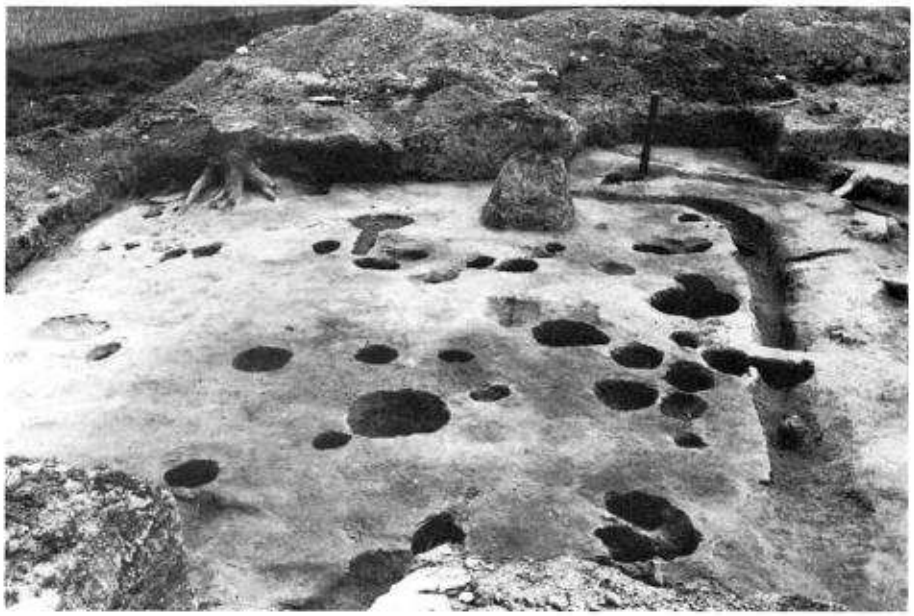
図版３　毛越Ａ南西側出土遺物Ⅲ

1．毛越A遺跡遠景
（東北より）

2．E～F区の
柱穴状ピット群
（東南方より）

3．溝及び溝状遺構
（南方より）

図版4



1．溝及び柱穴状ピット群
（北方より）

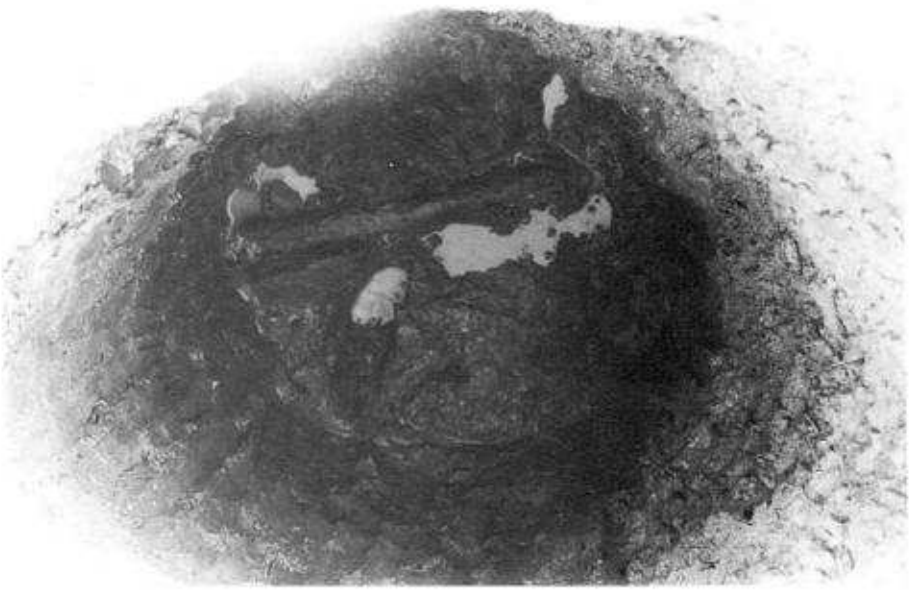
2．溝遺構（南方より）

3．土壙（東方より）

図版５

1．包含層遺物出土状況

2．溝状遺構遺物出土状況



3．井戸跡（第一次調査）

図版６

1．1号塚（Gh27塚）
（南方より）

2．2号塚（Hc 24塚）
（北方より）

3．3号塚（Ia24塚）
（南方より）

出土遺物（1）（⅓）
土師質土器（1）

1

2

3

4

土師質土器（2）

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

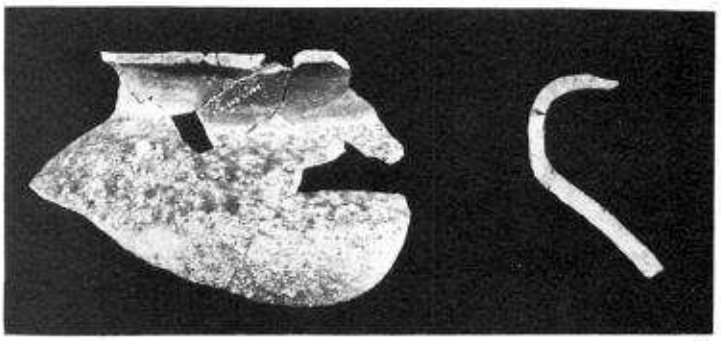
21

22

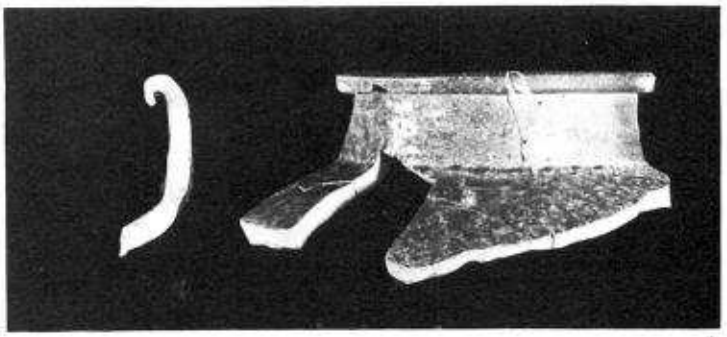
23

図版８

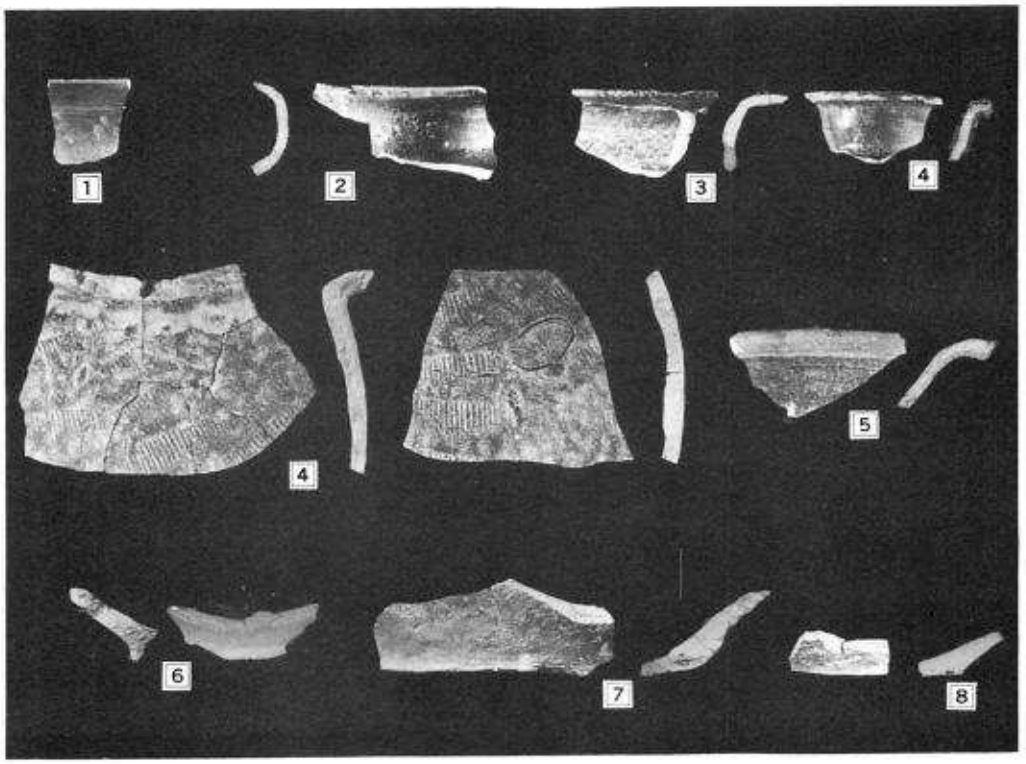
出土遺物（2）陶器（¼）



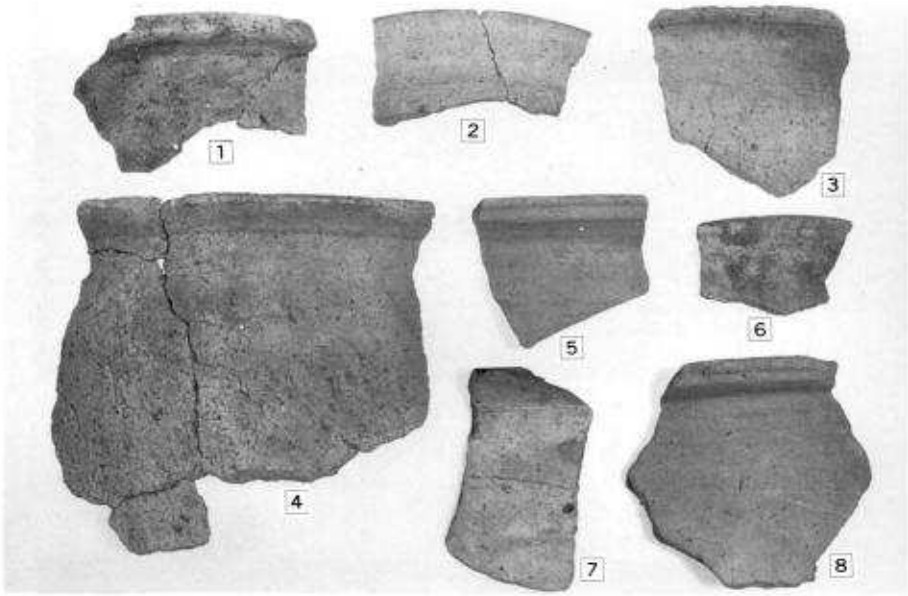
1



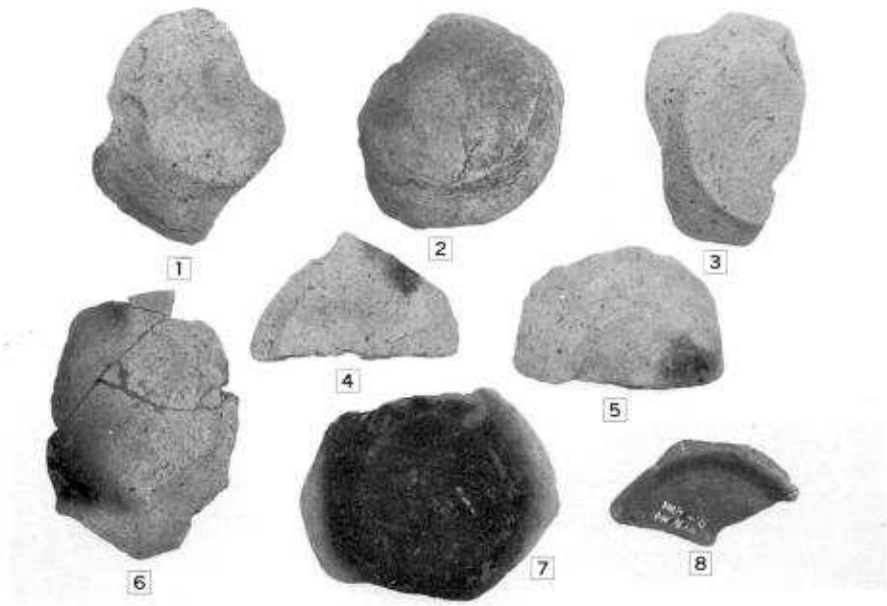
2



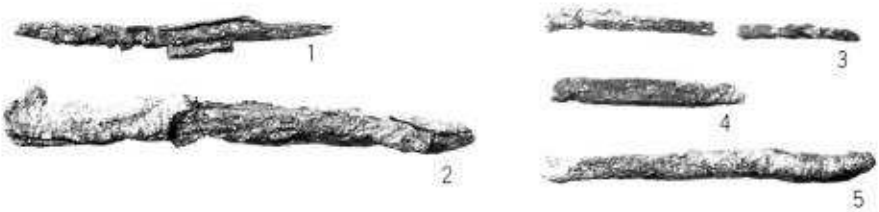
図版 9



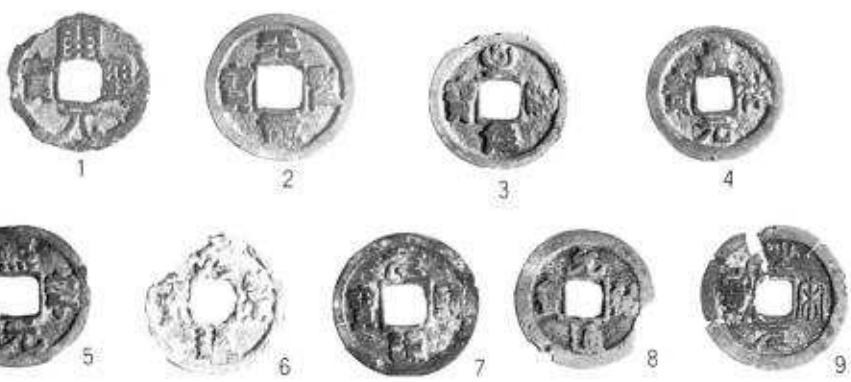
出土遺物（3）（⅓）
土師器（1）



土師器（2）



出土遺物（4）鉄製品

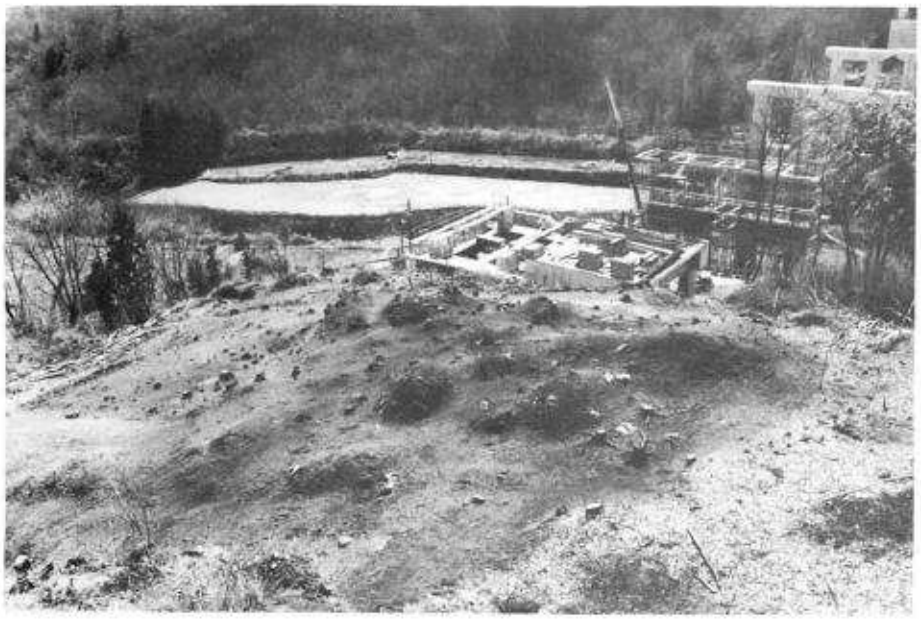


出土遺物（5）古銭（¾

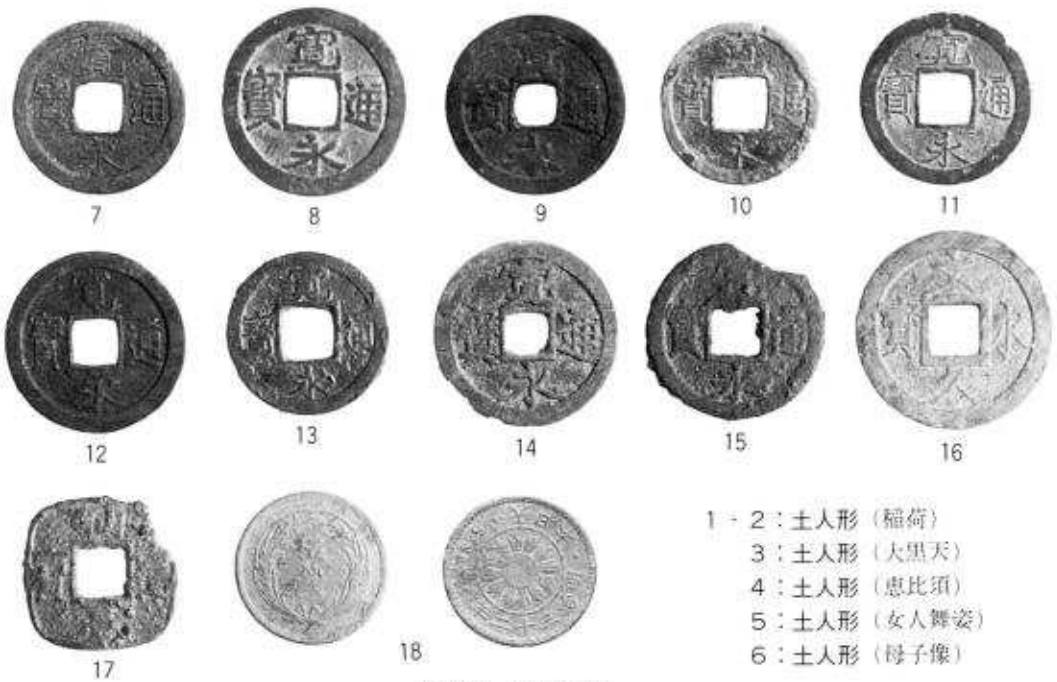
図版10

白幡神社遺跡

遺跡全景
上：（北西から）
中：（北から）
下：（西から）
中・下は東側平場



図版 1

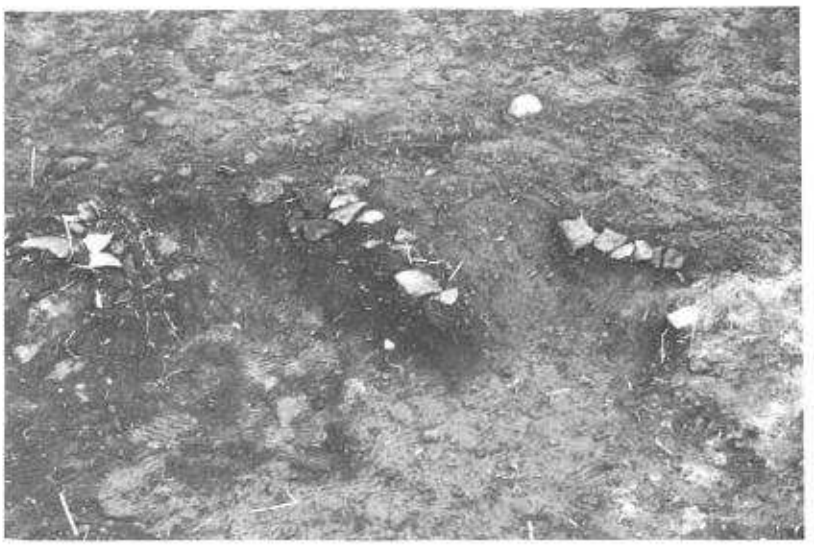


1・2：土人形（稲荷）
3：土人形（大黒天）
4：土人形（恵比須）
5：土人形（女人舞姿）
6：土人形（母子像）

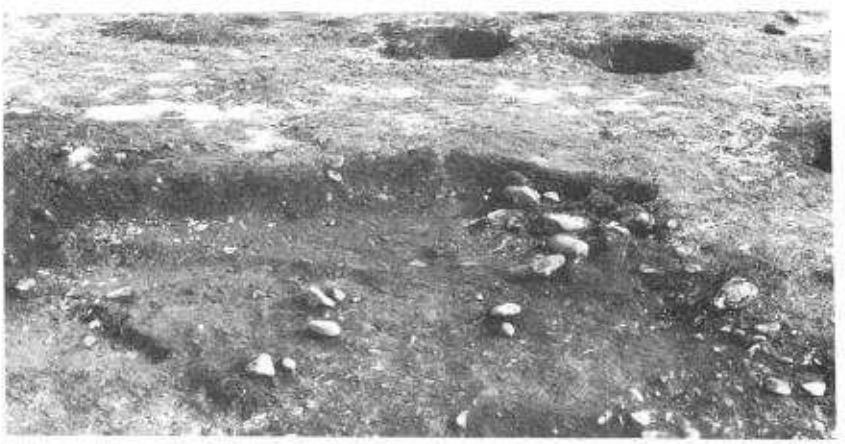
図版２　出土遺物

図版１　遺跡周辺航空写真

1．調査地遠景（南方より望む）



2．ＮＧ62焼土集積部における
土師器出土状況



3．Ｃd21竪穴住居跡全景
（西方より）

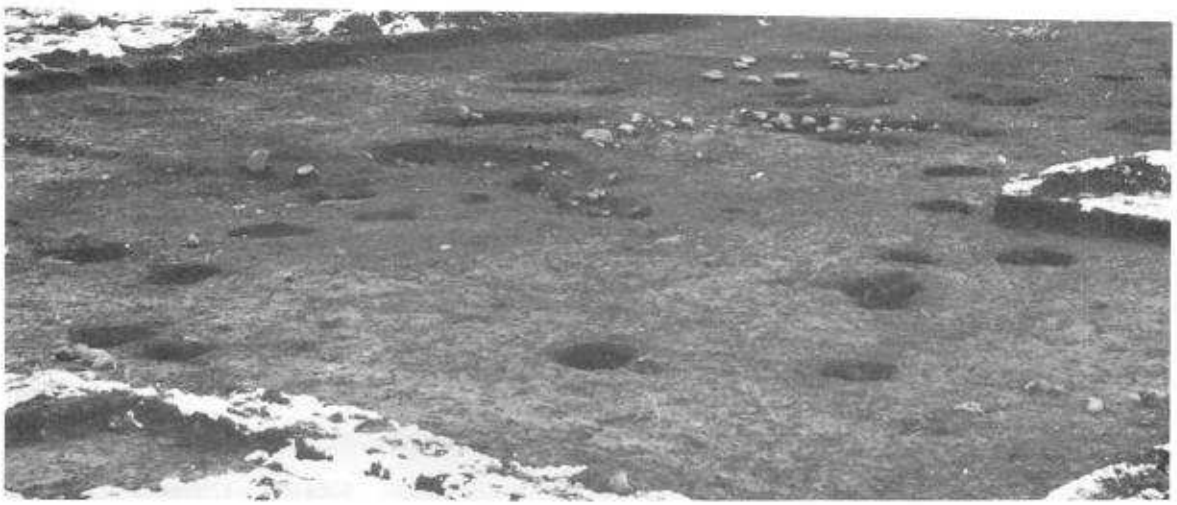
図版２

1．Cd09竪穴住

1．Cd09竪穴住居跡全景
（東方より）
2．同貯蔵穴における土師
器出土状況
3．Ce18掘立柱建物全景
（西方より）

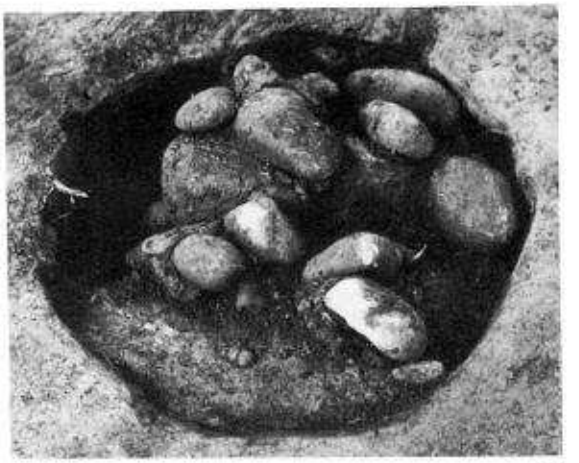
2

3



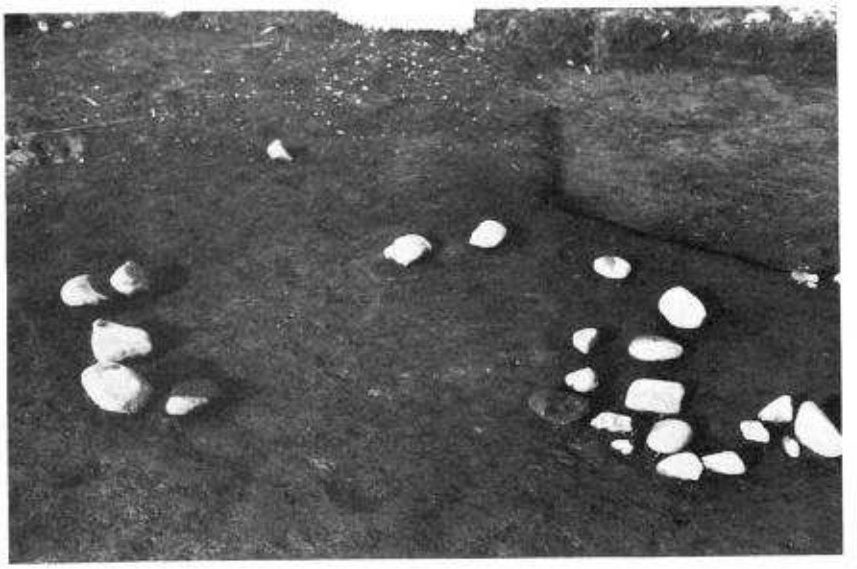
図版３

1



2

1・2、Ce18掘立柱建物の柱穴の状況の一部

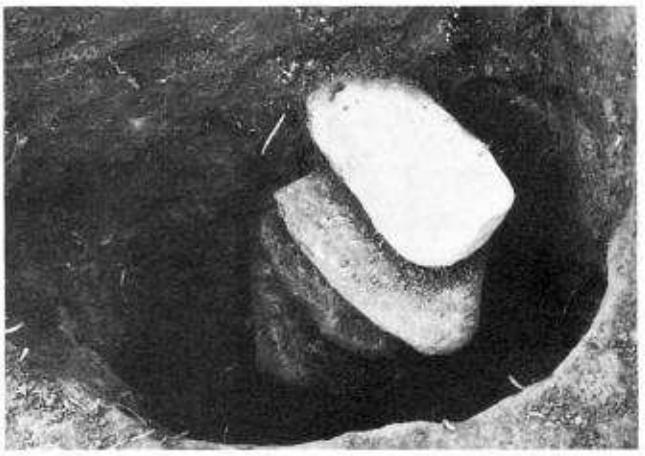


3．Cc06竪穴住居様遺構全景
（南方より）

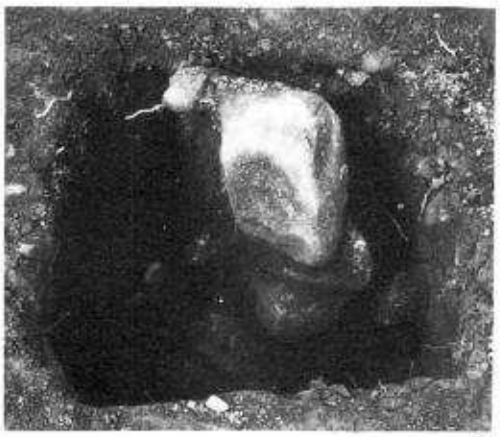
4．Cd03竪穴住居様遺構全景
（東方より）

図版4

1．Ｆf27・Ｆe30ピット列全景（東方より）



2



3

2・3．Ｆe30ピット列のピットの状況の一部

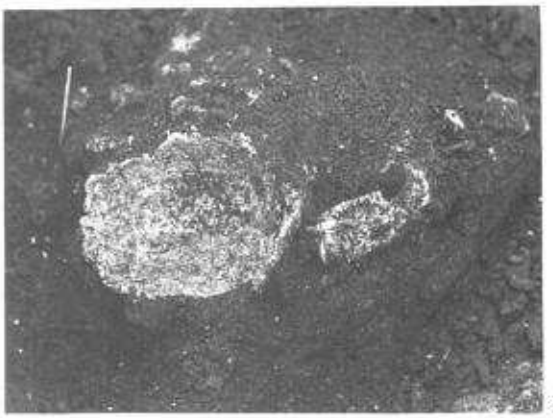
4．Ｆf18礫集積部（南方より）
南半の礫は除去し、掘り込みを露出させてある。

図版５

1

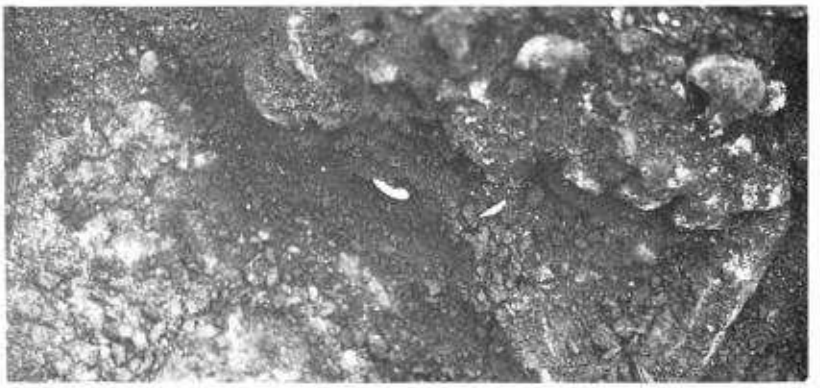
B j 18墓壙の状況

1．人骨検出時の状況
（西方より）



2

3



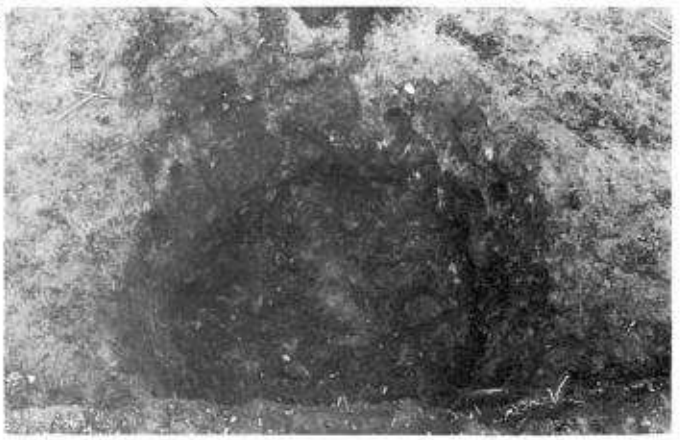
4

2．頭骨及下顎骨
3．その下位の太腿骨等
4．銭貨出土状況
5．完掘後の墓壙
6．副葬品の治平元宝

6a

6b

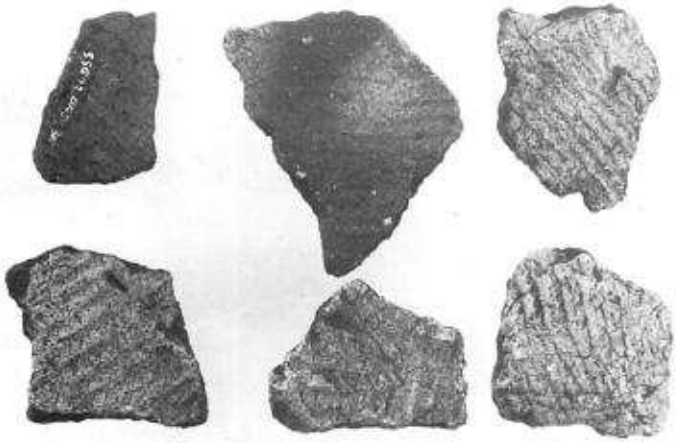
5



図版6

1：Fブロックの焼土集積部
2：縄文早期土器（½）
3：縄文晩期土器
4～6：石鏃（⅓）
7：両刃石器様（⅓）
8～10：磨石（⅓）

1



2a

2b

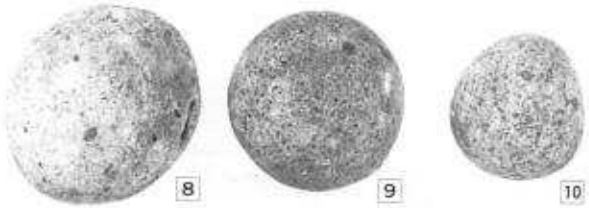
4a 4b

5a 5b

6a 6b

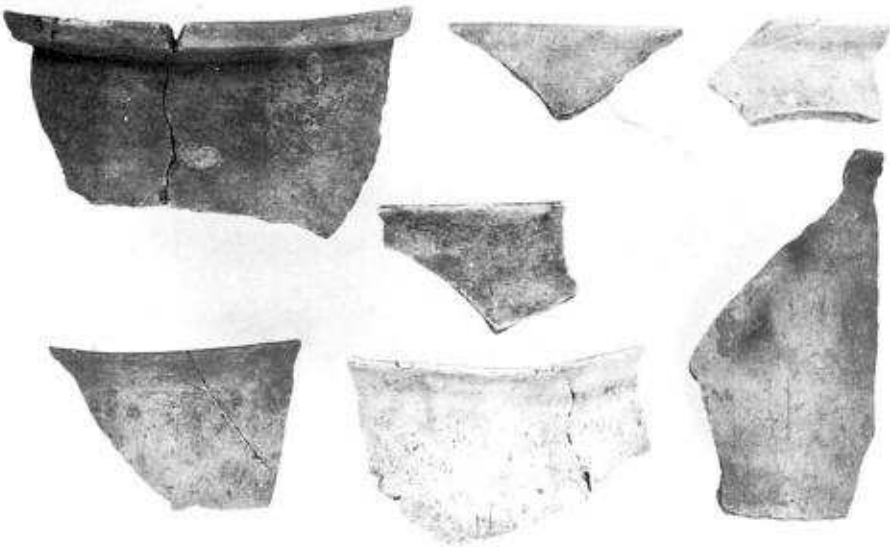
7a 7b

3

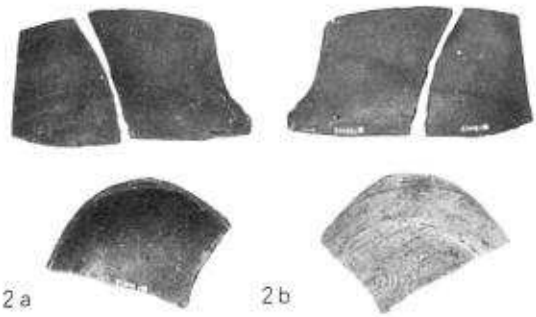


8 9 10

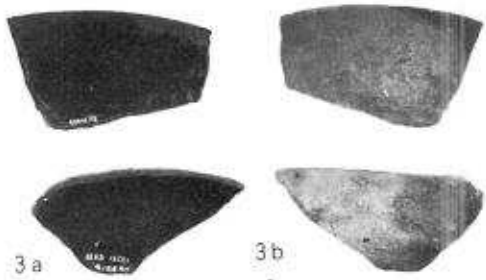
図版7



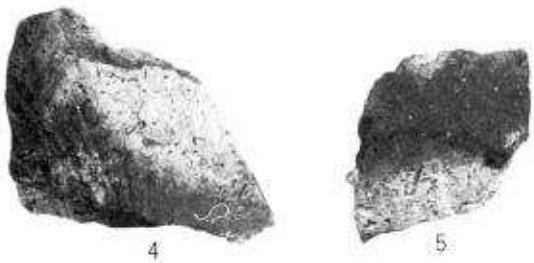
1：ＮＧ62焼土集積部出土遺物（1/3）
2～6：Ｃd21竪穴住居跡出土遺物
2：黒色処理無し
3：黒色処理あり
2・3：回転糸切無調整
4・5：叩き目のある土土師器



2a　2b



3a　3b



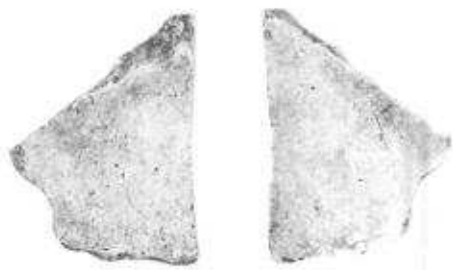
4　5

6a　6b

覆土出土の軟質な土器

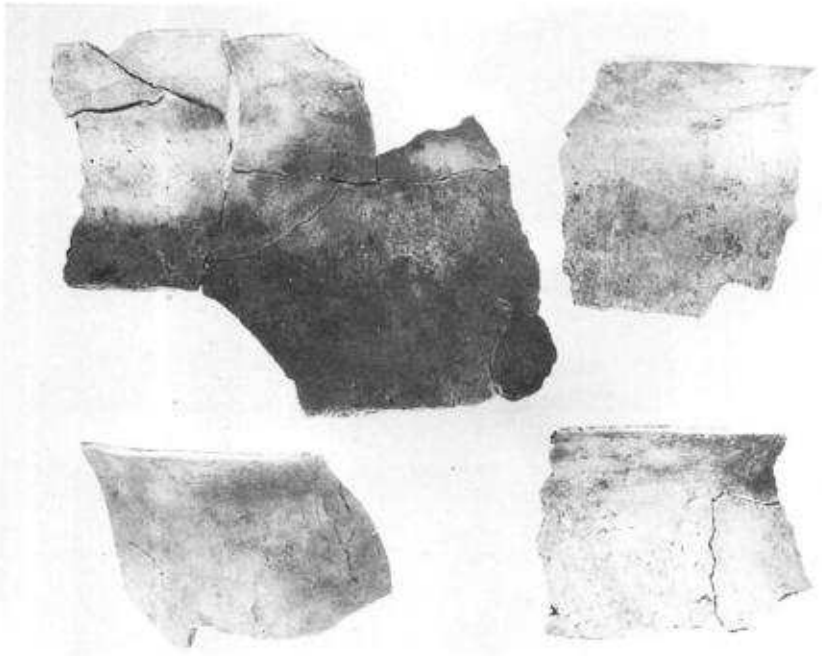
7・8：時代不明の砥石

7a　7b



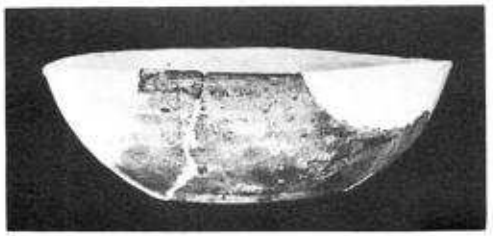
8a　8b

図版８

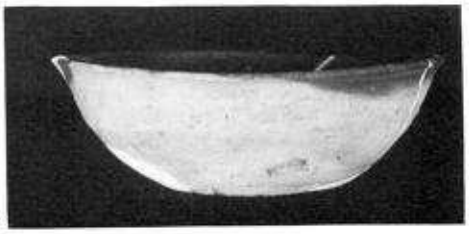


Ｃｄ09竪穴住居跡
出土土師器
１：甕形（２個体）（⅓）
２～８：坏形（⅓）
内面黒色処理
回転糸切
無調整

1



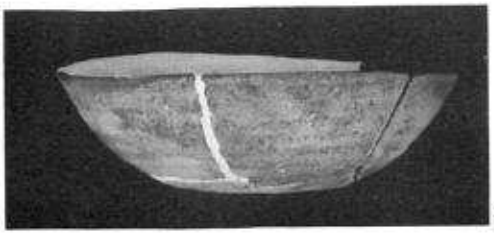
2



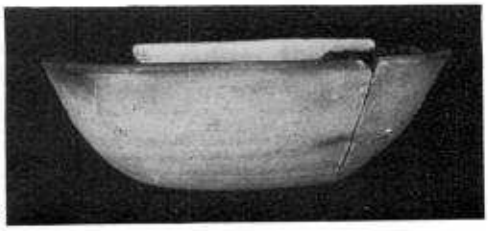
3

4

5



6



7

8 図版９

３、５、７の底部外面に
×印あり

鈴ケ沢遺跡

遺跡全景

全景（**立体航空写真**：焦点距離の等しい２枚の凸レンズを使用してご覧下さい）

全景（航空写真）

第五平場（東側）

第五平場（溝）

図版１

第一平場北東部

Ｃc33住居跡遠景 第一平場南東部溝等

第一平場　西

第一平場張り出し

第二平場

図版２

全景

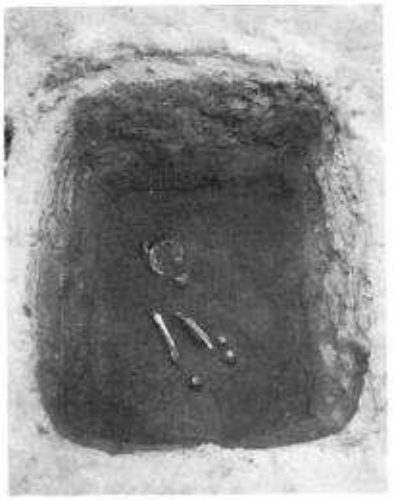
第三平場

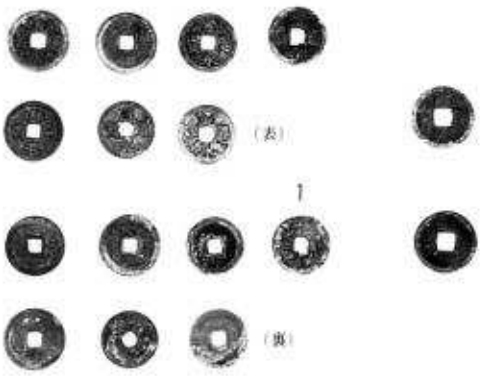
第四平場

第四平場

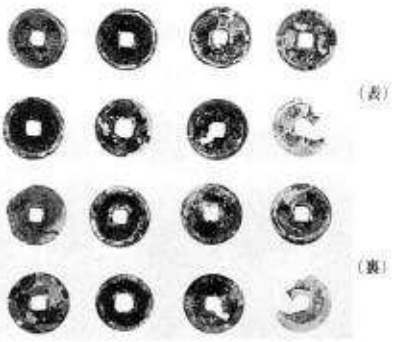
調査地北側第三・第四平場

図版３



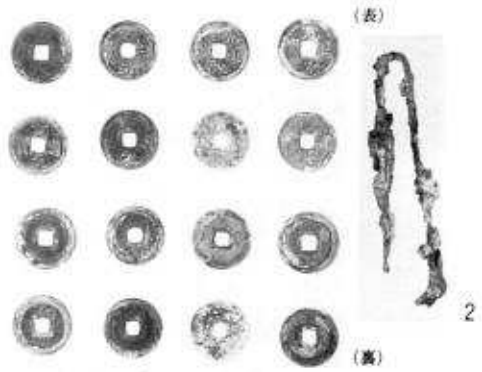


第1土壙墓（Bg15） 1．古銭 2．煙管 3．鉄釘 4．鉄製品（S＝⅓）



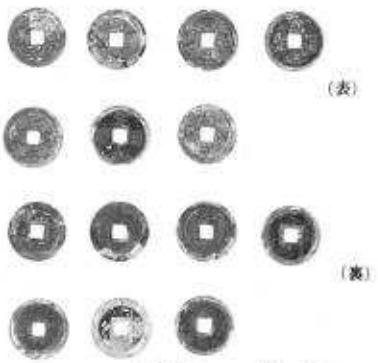
第2土壙墓（Bg12） 古銭と鉄製毛抜（S－⅓）

図版4

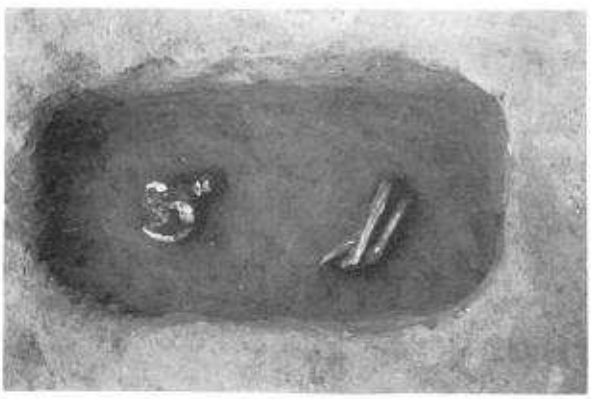


第３土壙墓（Bg09）1. 古銭　2. 鉄製毛抜　3. 煙管　4. 鉄製品　5. 鉄釘（S＝½）

第４土壙墓（Bh15）



同古銭　（S＝½）

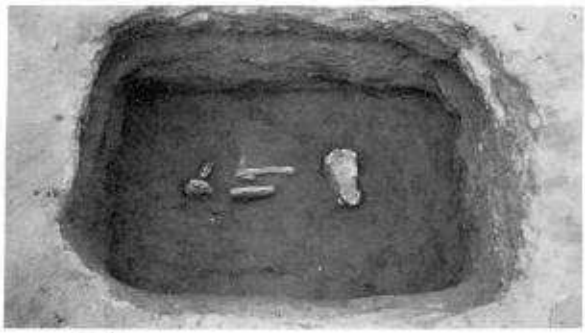


第５土壙墓（Bh12）と副葬鉄製毛抜

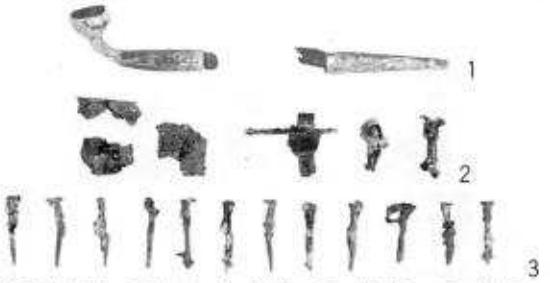
（S＝½）

第２土壙墓セクション

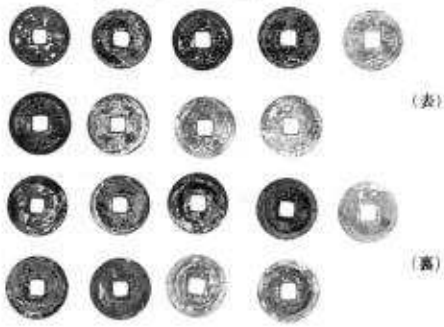
図版５

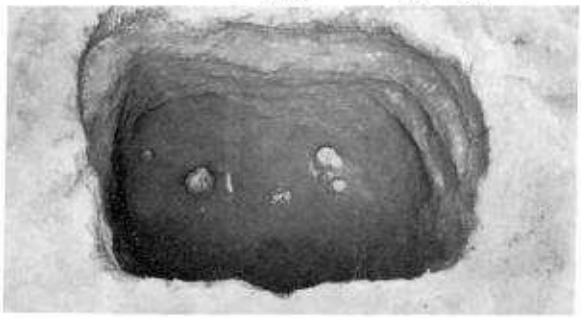


（第6土壙墓人骨・古銭）



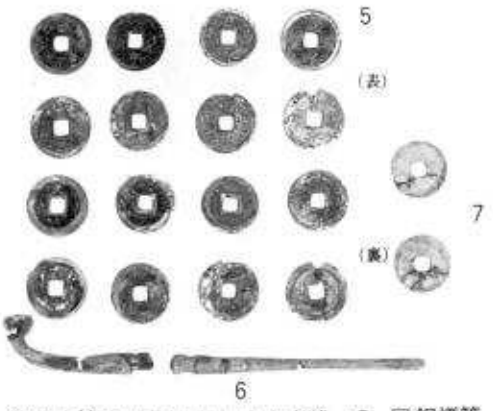
第6土壙墓（Bh06）1. 煙管　2. 鉄製品　3. 鉄釘
4. 古銭　（S＝⅓）

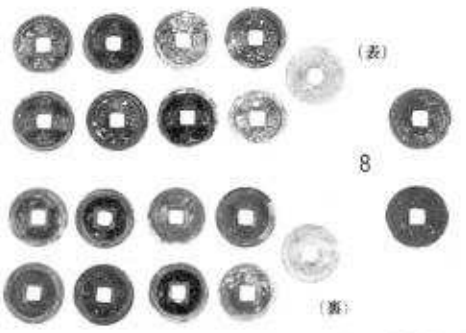




第8土壙墓（Bi09）

同古銭（一部）（S＝⅓）





5．第7土壙墓（Bh100）出土古銭　6．同銅煙管　7．第一平場東端溝出土古銭　8．第二平場出土古銭
（S＝⅓）

図版6

a．住居跡カマド周辺

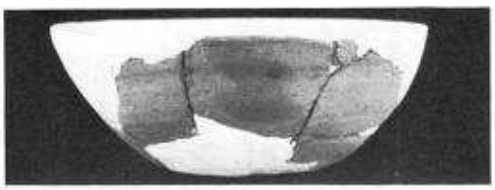
b．カマド周辺・出土状況

1

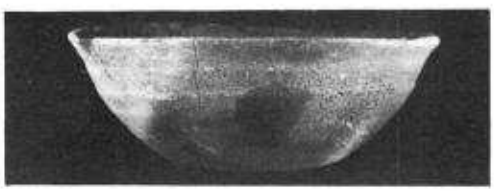
2

3

4



5

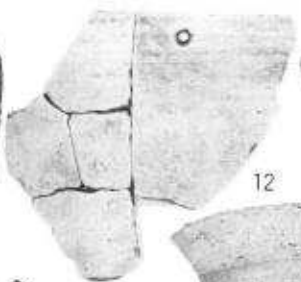


6

7

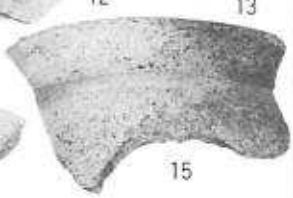
(S＝⅓)

9



12

13



15

11 14

10

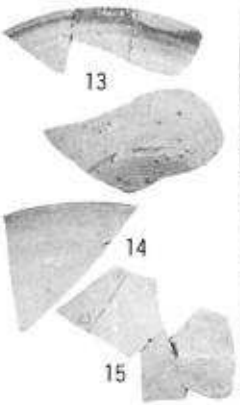
(S＝⅓)

8

(S＝⅓)

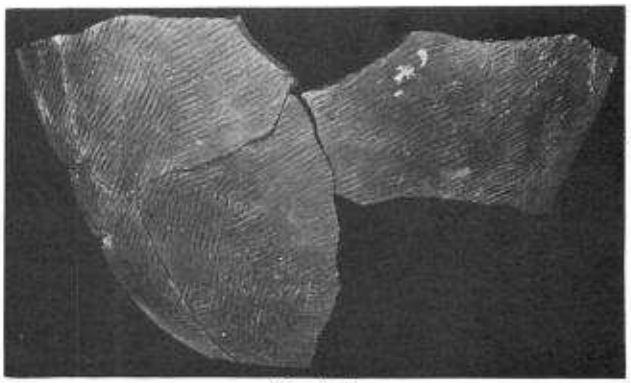
1～8・12～15：土師器　9～11：須恵器

図版７　第１竪穴住居跡（Cc33）関連遺構及び遺物



第２竪穴住居跡（Ce24）全景（西より）

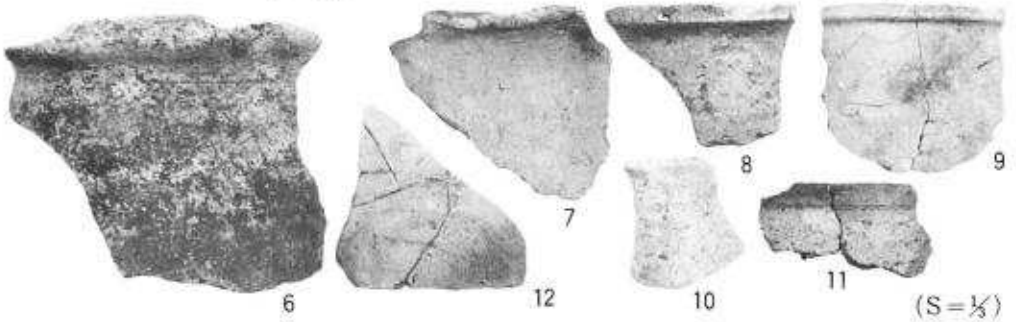
第２竪穴住居跡カマド・出土状況



(S＝1/6)

（1～4・12：土師器坏）

(S＝1/4)



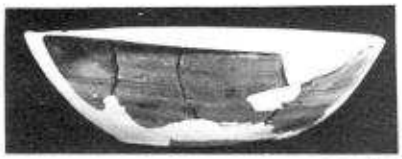
(S＝1/3)

第２住居跡出土遺物（5：須恵器、6～11：土師器甕）（第１竪穴住居跡関連－13～15：須恵器）

図版８

Ｃb33溝及びＣb30焼土石組

Ｃa21竪穴状遺構

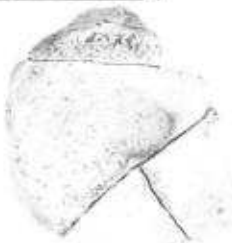


1

2

3

5



4

6

8

7

登り道と第２竪穴住居跡（カマド）

第一平場溝

（左）断面

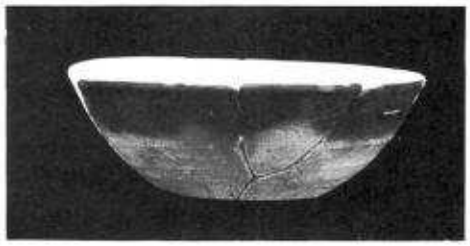
図版９　１～８：Ｃａ21竪穴状遺構出土（S＝⅓）

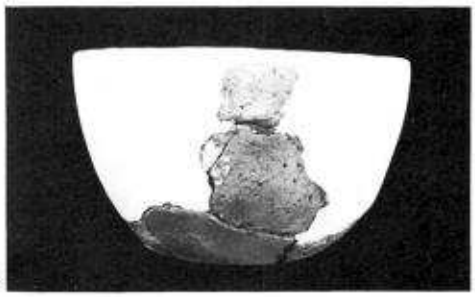
Cb30焼土

1

2

3


4


5

1～5：遺物包含層出土物（⅓）

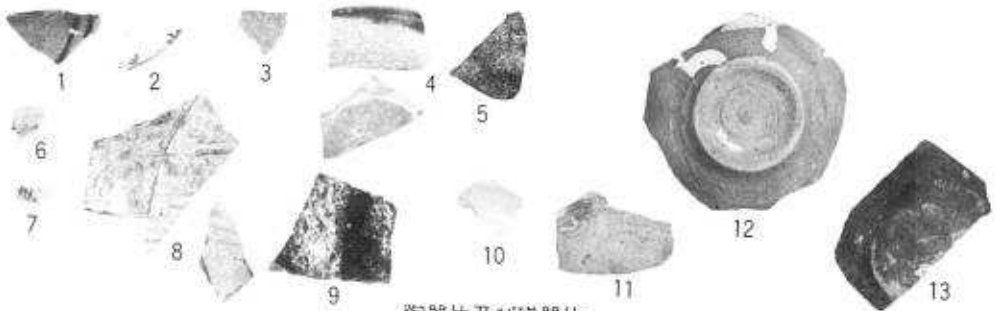
図版10

第一平場出土鉄器

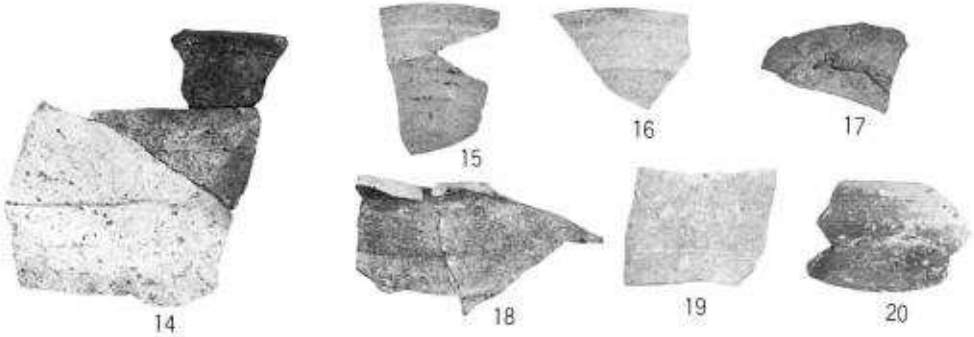
第五平場出土鉄器及び煙管

Bh 33出土鉄滓

同フイゴ口

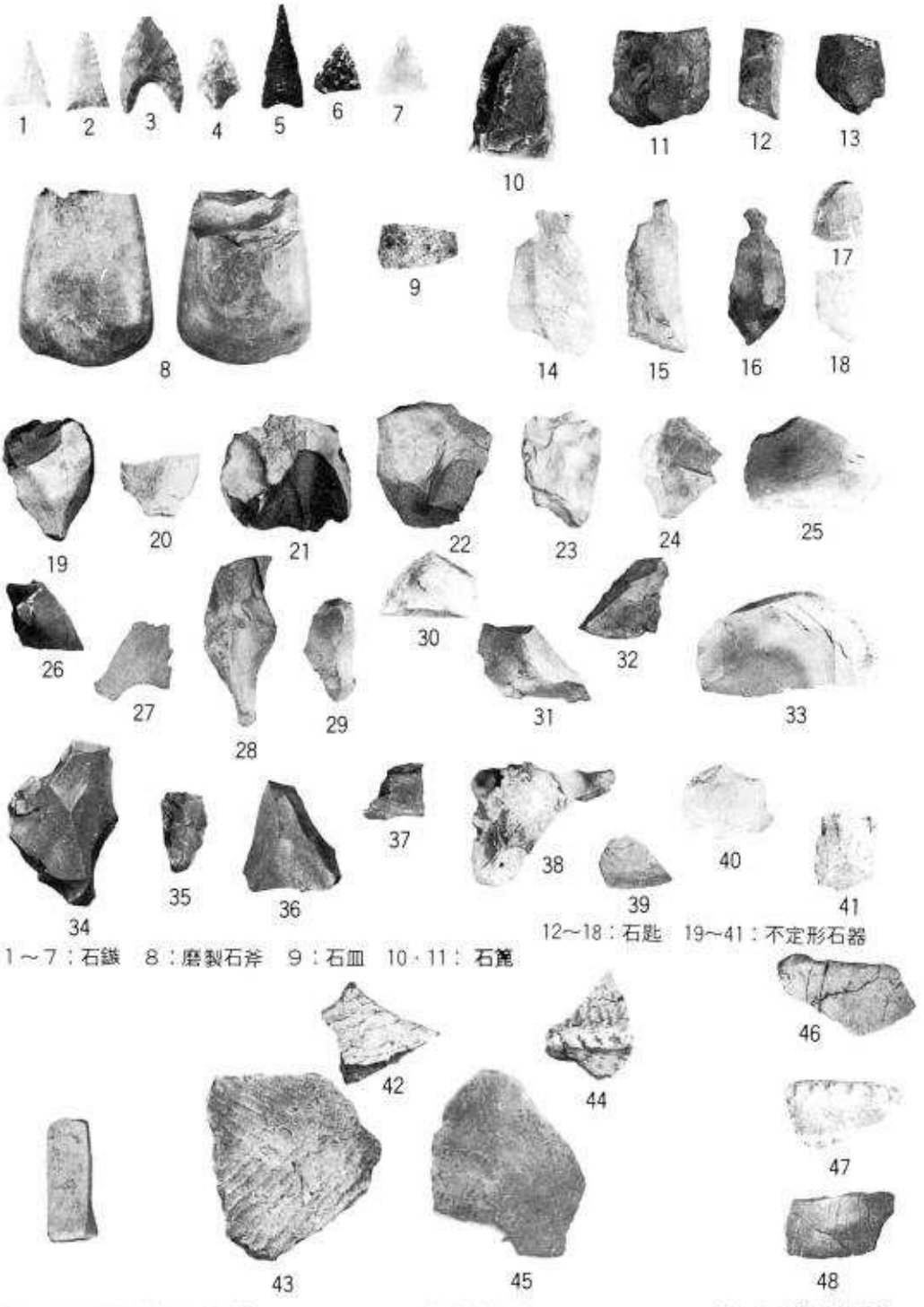


陶器片及び磁器片



土師器片、須恵器片

図版11（S＝⅓）



1～7：石鏃　8：磨製石斧　9：石皿　10・11：石錘　12～18：石匙　19～41：不定形石器

第1竪穴住居跡遺物（砥石）　42～45：縄文土器片　46～48：弥生土器片

図版12　（1～7：S＝½　8～48：S＝⅓）

参　考　文　献

岩手県史　第1巻　上古篇　岩　手　県　昭36.1
宮城県史　1　古代・中世史　(財)宮城県史刊行会　昭32.1
宮城県史　19　民　俗　(財)宮城県史刊行会　昭32.1

水沢市史　6　民　俗　水沢市史刊行会　昭53
一関市史　第1巻　通　史　一　関　市　昭53.8

払田柵調査事務所年報　1977　払田柵跡
第11・12次発掘調査概報　秋田県教育委員会・払田柵調査事務所　1977
払田柵調査事務所年報　1978　払田柵跡
第12次補足・第13～22次発掘調査概報　秋田県教育委員会・払田柵調査事務所　1978
宮城県文化財調査報告書　第52集　上深沢遺跡　東北自動車道遺跡調査報告書Ⅰ
宮城県教育委員会・日本道路公団　昭53.3
南方町文化財調査報告書　第1集　宮城県登米郡南方町　長者原貝塚
南方町教育委員会　昭53.3
岩手県文化財調査報告書　第23集　大船渡市清水貝塚発掘調査概報　岩手県教育委員会　昭51.3
岩手県文化財調査報告　第26集　岩手の古民家　岩手県教育委員会　昭53.3
岩手県文化財調査報告書　第32集　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（矢巾地区）
岩手県教育委員会・日本道路公団　昭54.3
岩手県盛岡市　大館町遺跡　－縄文中期集落址 1976 年度調査報告－　岩手大学考古学研究会　昭53.3
岩手県陸前高田市　牧田貝塚発掘調査概報　陸前高田市教育委員会　昭46.3
岩手県陸前高田市　大陽台貝塚　陸前高田市教育委員会　昭54.3
文化財調査報告書　第17集　尻引遺跡調査報告書　北上市教育委員会　昭52.3
岩手県水沢市佐倉河　胆沢城跡　－昭和51年度発掘調査概報－　水沢市教育委員会　昭52.3
岩手県上閉伊郡大槌町　崎山弁天遺跡　大槌町教育委員会　昭49
埋蔵文化財発掘調査概報　第3　無量光院跡　文化財保護委員会　1961
岩手県西磐井郡平泉町　発掘調査略報告　平泉遺跡調査会　1963他
岩手県西磐井郡平泉町　観自在王院調査報告書　平泉町教育委員会　1977
岩手県西磐井郡平泉町　観自在王院整備報告書　平　泉　町　1979
社教シリーズ　第17集　碁石遺跡　大船渡市教育委員会　昭49.8

日本考古学辞典　日本考古学協会編　東京堂出版　昭48.1

日本の原始美術　1　小林達雄　講　談　社　1979

古代史発掘2　縄文時代1　縄文土器と貝塚　講談社　昭54
日本の美術2　縄文土器　小学館　昭54
考古学資料の見方　〈遺物編〉　〈遺跡編〉　柏書房　昭53
日本原始美術1　縄文土器　講談社　1964
日本歴史叢書34　日本考古学史　吉川弘文館　1974
新版考古学講座　3　先史文化　雄山閣　昭53

新井伺郎　縄文土器の技術　加曽利貝塚博物館　1973
伊藤信雄他　宮城県遠田郡湧谷町　長根貝塚　宮城県教育委員会　昭44
江坂輝弥　石神遺跡　ニューサイエンス社　昭51
大塚初重他　日本考古学を学ぶ(1)(2)(3)　有斐閣選書　有斐閣　昭54
小笠原好彦　東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文土器
仙台湾周辺の考古学的研究　1968
菊田清年　瀬戸の古陶器　光琳社
興野義一　大木式土器理解のためにⅠ～Ⅵ　考古学ジャーナル13. 16. 18. 24. 32. 48
ニューサイエンス社　1968
草間俊一他　岩手県稗貫郡大迫町　天神遺跡　大迫町教育委員会　昭49. 3
草間俊一他　岩手県盛岡市 繋遺跡　盛岡市公民館　昭35.10
小行行雄　古代の技術　塙書房　1972
佐久間豊　奈良・平安期土器の型式的分析　考古学研究第25巻第2号　考古学研究会　1978. 9
芹沢長介　石器時代の日本　築地書館　昭47
ケネス・P・オークリー　石器時代の技術　ニューサイエンス社　1977
丹羽　茂　東北地方南部における中期縄文時代中・後葉土器群研究の現段階
福島考古学会　1971
高橋信雄　岩手県のロクロ使用土師器について　考古風土記第2号　1977. 4
林　謙作　「東北」縄文文化の発展と地域性　日本の考古学Ⅱ　河出書房　1965
藤島亥次郎編　平泉　毛越寺と観自在王院の研究　1961
山内清男　日本遠古之文化　先史考古学会　昭14

中川久夫他　北上川上流沿岸の第四系および地形　－北上川流域の第四紀地史(1)－
地質学雑誌第69巻811号　1963. 4
中川久夫他　北上川中流沿岸の第四系および地形　－北上川流域の第四紀地史(2)－
地質学雑誌第69巻812号　1963. 5
佐藤次郎　考古学のための地質学　岩手県教育委員会文化課における講演資料　1978. 8
北上山系開発地域土地分類基本調査「一関」　国土調査　岩手農政部北上山系開発室　1978. 3

岩手県教育委員会事務局文化課　職員一覧

（埋蔵文化財関係）

文化課長	熊谷正男	
課長補佐（総務）	小野寺昭吾	
同（調査）	小野寺登	
庶務係長	加藤勝男	
主事	鈴木喜代治	
同	佐藤伸一郎	
主任文化財主査	嶋千秋	
文化財主査	菊地郁雄	
技師	国生尚	

縦貫自動車道調査班

文化財主査	吉田努	
同	三上昭	
同	斉藤淳	
同	島隆	
同	昆野靖	
文化財調査員	相原康二	
同	八重樫良宏	
同	狩野敏男	
同	田村壮一	
主事	石川長喜	

新幹線調査班

文化財主査	菅原弘太郎	
同	細谷英男	
同	朴沢正耕	
文化財調査員	鈴木隆英	
技師	佐々木勝	

縦貫自動車道調査班

臨時職員	鈴木明美	
	木村キエ子	
	桜井芳彦	
	相星輝子	
	高橋生子	
	小西エイ子	
	漆原悦子	
	亀ケ森恭子	
	藤原周子	
	館川幸子	（12月退職）
	佐々木るい子	
	高橋英子	
	山崎かづ子	（12月退職）
	瀬川いく子	（10月退職）
	工藤恵理子	（6月退職）
	川村容子	（10月退職）
	後藤裕子	
	石田千鶴子	
	佐々木信子	
	福士多恵子	（2月退職）
	小森良子	
	佐藤早苗	
	斉藤冨美子	（1月退職）

岩手県文化財調査報告書第54集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書　V

昭和55年3月　発行

発行　岩手県教育委員会
盛岡市内丸10－1

印刷　山口北州印刷株式会社
盛岡市青山四丁目10-5